

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(1) 展覧事業の充実 ①-1 平常展								
【年度計画】 展覧事業の中核と位置づけ、各国立博物館の特色を十分発揮した特集陳列等を実施し、国内外からの来館者の増加を図る。 (4館共通) 平常展来館者数について、前中期計画期間の年度平均の確保を目指す。 (東京国立博物館) ア 定期的な陳列替の実施(年4,500件程度) イ 陳列総件数 約6,500件(平成25年1月より東洋館開館) ウ 本館「日本美術の流れ」を始めとする日本美術関係の展示、平成館の日本考古展示の更なる充実を図る。 エ 平成24年度の東洋館開館に向け準備を進める。 オ 特集陳列 平成24年度は140周年記念事業の一環として、過去に寄贈を受けた優品を展示する「秋の特別公開」を開催する他、館史に関連する特集を年間を通じて開催する。また、東洋館が改修工事のため12月まで休館となるため、東洋館展示の代替として、本館においても東洋美術・考古の特集展示を実施する。さらに定着した「博物館に初詣」関連の特集も行う。 ・秋の特別公開「贈られた名品」(9月15日～9月30日) ・「大正元年 帝室技芸員からの寄贈品」(9月19日～12月9日) ・「宋時代の書(仮称)」(10月2日～11月25日)等 カ 文化庁関係企画 ・「平成24年 新指定 重要文化財」(仮称)(4月23日～5月13日) 平成24年に新たに重要文化財に指定される文化財を展示する。									
担当部課	学芸研究部列品管理課	事業責任者	列品管理課長	富田 淳					
【実績・成果】 (4館共通) 平成23年度末に引き続いて東京国立博物館140周年事業を24年度末まで継続し、25年1月には耐震改装を終えた東洋館を公開した。また、耐震改修のため黒田記念館を閉館した。 (東京国立博物館) ア 定期的な陳列替を実施し、6,989件の展示替を行った。 イ 陳列総件数 9,190件 ウ 展示ケースの修理点検、低反射フィルムの貼替、清掃などで保存環境の向上を図った。本館2階の展示ケース壁面の補修や平成館企画展示室の解説掲示パネルの改良を行った。平成館考古展示室においては作品名題箋の仕様を、より見やすいものに変更した。 エ 25年1月2日に東洋館を開館した。展示ケース・照明を改良するとともに、「映像トランク」を設置して展示作品への理解を映像によって補助し、アジアの古い体験コーナーを設置するなど、親しみやすい東洋館を実現した。 オ 47件の特集陳列を実施した。このうち20件は「東京国立博物館140周年特集陳列」として、館蔵の名品を紹介するとともに、館の歴史に関わる展示を行った。また「東洋の青磁」「尚意競艶」などにおいては東洋の列品を活用した。 カ 「平成24年 新指定国宝・重要文化財」を実施した(24年4月28日～5月13日)。また、新指定の重要文化財となった彫刻の一部を、同時期の本館11室においても展示した。									
【補足事項】 ・黒田記念館は、耐震改修のため24年4月8日より休館した。 ※陳列替については、23年度より定量的評価の項目を陳列替回数から陳列替件数に変更した。									
【定量的評価】項目		24年度実績	目標値	評価		20	21	22	23
平常展来館者数 (23年度より黒田記念館を含む)		416,430人	362,470人	A	経年変化	412,675	330,536	373,068	324,597
陳列替件数		6,989件	4,500件程度	S		319	316	290	4,914
陳列総件数		9,190件	6,500件程度	A		7,172	6,601	5,610	7,394
特集陳列等実施回数		47件	—	—		79	66	53	32
総合評価	S (A) B C F (S、Fの理由)								
【中期計画記載事項】 平常展は、展覧事業の中核と位置付け、各国立博物館の特色を十分に発揮した体系的・通史的なものとするとともに、最新の研究成果を基に、日本及びアジア諸地域の歴史・伝統文化の理解の促進に寄与する展示を実施し、国内外からの来館者の増加を図る。									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					順調				

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(1) 展覧事業の充実 ①-1 平常展							
【年度計画】 (4館共通) 平常展来館者数について、前中期計画期間の年度平均の確保を目指す。 (京都国立博物館) 平常展示館建替工事に伴い、平常展は休止する。これに替えて、九州国立博物館にて「美のワンダーランド 十五人の絵師」を開催する。(企画協力、7月10日～9月2日) また、博物館・美術館への収蔵品の貸与を積極的に進め、ウェブサイトで情報を公開する。								
担当部課	学芸部	事業責任者	企画室長 宮川禎一					
【実績・成果】 (京都国立博物館) 平常展示館建替工事にともない、平常展示を休止した。そのため次のように、館外での収蔵品の公開に努めるとともに、貸出作品の情報をウェブサイトで公開した。 ・特別展「美のワンダーランド 十五人の京絵師」(九州国立博物館、24年7月10日～9月2日)へ企画協力した。(詳細は処理番号2124-2を参照) ・特別展「国宝の名刀―京都国立博物館と小松コレクション―」(ふくやま美術館、24年12月15日～25年1月20日)を開催した。(共催) (詳細は処理番号3412を参照。) ・国内外の博物館・美術館への収蔵品の貸与を積極的に進めた。								
【補足事項】 ・展示館建替に伴い「貸出し停止」措置をとる博物館・美術館が多い中、当館は積極的に貸出を行い、収蔵品の公開に努めた。 ・ウェブサイトにおける貸出作品の情報公開(トップページ「館外での作品公開」)は、寄託作品や個人名を伏せるなどして、網羅的なリストを提示している。このような情報公開は、日本の博物館ではきわめて画期的なものといえる。 ※京博については実績はないが、陳列替については、23年度より定量的評価の項目を陳列替回数から陳列替件数に変更した。								
【定量的評価】項目	24年度実績	目標値	評価	経年変化	20	21	22	23
平常展来館者数	—	—	—		141,965	—	—	—
陳列替件数	—	—	—		39	—	—	—
陳列総件数	—	—	—		1,081	—	—	—
特集陳列等実施回数	—	—	—		4	—	—	—
総合評価	S (A) B C F (S、Fの理由)							
【中期計画記載事項】 平常展は、展覧事業の中核と位置付け、各国立博物館の特色を十分に発揮した体系的・通史的なものとするとともに、最新の研究成果を基に、日本及びアジア諸地域の歴史・伝統文化の理解の促進に寄与する展示を実施し、国内外からの来館者の増加を図る。 なお、京都国立博物館においては、耐震化を図るための平常展示館建て替え終了後、国際文化観光都市・京都において京都文化発信の核となる博物館を目指した平常展を平成26年度までに開催する。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調				

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(1) 展覧事業の充実 ①-1 平常展 (1/2)								
【年度計画】 (4館共通) 平常展来館者数について、前中期計画期間の年度平均の確保を目指す。 (奈良国立博物館) ア 活発な収集と新しい資料の発掘により名品展（平常展）の充実を図る。 ・西新館 絵画・書跡・工芸・考古部門の名品展 一昨年度に一新された展示ケースや照明設備は、現在のところ望みうる最上のものと考えられるので、この充実した設備を最大限活用し、より快適な鑑賞環境を提供する。 ・なら仏像館 彫刻部門の名品展 昨年度に実施した展示室および展示ケース内の蛍光灯の照度と色温度の調整によって、展示作品がより鑑賞しやすい環境が整えられたので、今後とも展示されている優れた仏像等彫刻の美をアピールしていく。 ・青銅器館 中国青銅器の名品展 国内における屈指の青銅器コレクションの魅力をアピールしていく。 ・特集展示コーナー等を設け、観覧者の関心を喚起する。 イ～エ(略)									
担当部課	学芸部企画室		事業責任者		美術室長兼列品室長 岩田茂樹				
【実績・成果】 (4館共通) 平常展来館者数は、今年度の目標値となっていた前中期計画期間の年度平均を上回った。 (奈良国立博物館) ア 名品展においては、24 時間空調運転による展示室の快適な保存環境のもとで、多数の優れた作品を展示し、その美を伝えることができた。 ・西新館 絵画・書跡・工芸・考古部門の名品展 昨年度実施した保存修理の内容とその結果甦った文化財の姿を紹介する特集展示「新たに修理された文化財」（24年12月26日～25年1月20日 陳列件数11件）を行った。 ・なら仏像館 彫刻部門の名品展 所蔵者である寺院において仏堂の改修、建替等を行う際、堂内に安置されている仏像を当館で保管する機会を利用し、以下のようにこれを特別公開した。 特別公開「金剛寺 降三世明王坐像」（23 年 10 月 24 日～25 年 3 月 31 日） 特別公開「定朝様の丈六阿弥陀像」（24年6月26日～25年3月31日） ・青銅器館 中国青銅器の名品展 館が所蔵する中国・商（殷）～漢時代までの青銅器の逸品を展示した。 ・西新館で特集展示「新たに修理された文化財」（24 年 12 月 26 日～25 年 1 月 20 日）を開催した。									
【補足事項】 年度を通して、国宝・重要文化財を多数含む高水準の仏教美術の展観を行うことができた。									
									
					特別公開「金剛寺 降三世明王坐像」				
【定量的評価】項目		24 年度実績	目標値	評価	経年 変化	20	21	22	23
平常展来館者数		145,914 人	118,032 人	A		112,849	136,672	71,566	130,839
総合評価		S ㊤ B C F (S、Fの理由)							
【中期計画記載事項】 平常展は、展覧事業の中核と位置付け、各国立博物館の特色を十分に発揮した体系的・通史的なものとするとともに、最新の研究成果を基に、日本及びアジア諸地域の歴史・伝統文化の理解の促進に寄与する展示を実施し、国内外からの来館者の増加を図る。									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					順調				

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(1) 展覧事業の充実 ①-1 平常展 (2/2)							
【年度計画】 (奈良国立博物館) ア(略) イ 定期的な陳列替の実施(年400件程度) ウ 陳列総件数 約700件 エ 特別陳列により名品展の充実を図る。 独創的な研究テーマ及び地域に密着した研究テーマによる特別陳列の充実 ・「古事記の歩んできた道ー古事記撰録1300年ー」(6月16日～7月16日) ・「おん祭と春日信仰の美術」(12月8日～平成25年1月20日) ・「お水取り」(平成25年2月9日～3月17日)								
担当部課	学芸部企画室	事業責任者	美術室長兼列品室長 岩田茂樹					
【実績・成果】 (奈良国立博物館) イ 定期的な陳列替を実施し、465件の陳列替を行った。 ウ 陳列総件数 814件 エ 下記特別陳列を開催し、名品展の充実を図った。 ・特別陳列「古事記の歩んできた道ー古事記撰録 1300 年ー」(24 年 6 月 16 日～7 月 16 日) 陳列件数 30 件 ・特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」(24 年 12 月 8 日～25 年 1 月 20 日) 陳列件数 50 件 ・特別陳列「お水取り」(25 年 2 月 9 日～3 月 17 日) 陳列件数 60 件								
【補足事項】 特集展示・特別陳列等を除き、通常の名品展(平常展)における各会場毎の陳列件数は次のとおり。 珠玉の仏たち(なら仏像館)167 件 珠玉の仏教美術(西新館) 259 件 中国古代青銅器(青銅器館)237 件 ※陳列替については、23 年度より定量的評価の項目を陳列替回数から陳列替件数に変更した。								
【定量的評価】項目	24 年度実績	目標値	評価	経 年 変 化	20	21	22	23
陳列替件数	465 件	400 件程度	A		12	8	101	481
陳列総件数	814 件	700 件程度	A		605	717	340	1,092
特集陳列等実施回数	6 回	—	—		6	8	5	12
総合評価	S (A) B C F (S、F の理由)							
【中期計画記載事項】 平常展は、展覧事業の中核と位置付け、各国立博物館の特色を十分に発揮した体系的・通史的なものとするとともに、最新の研究成果を基に、日本及びアジア諸地域の歴史・伝統文化の理解の促進に寄与する展示を実施し、国内外からの来館者の増加を図る。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調				

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(1) 展覧事業の充実 ①-1 平常展								
【年度計画】 (4館共通) 平常展来館者数について、前中期計画期間の年度平均の確保を目指す。 (九州国立博物館) ア 定期的な陳列替の実施(年1,100件程度) イ 陳列総件数 約1,700件 ウ 文化交流展(平常展)のリニューアルに向けての検討会を実施する。 エ トピック展示により、独創的なテーマ及び地域に密着したテーマを掘り下げる(日程はいずれも予定)。 ・「横河民輔コレクション 中国陶磁名品展」(関連9、10室 4月25日～9月2日) ・「クレスコレクション印籠展」(仮称)(関連9室 12月18日～平成25年3月10日) ・「江蘇省書画精華展」(関連10、11室 10月23日～12月2日)等									
担当部課	学芸部企画課	事業責任者	文化交流展室長 河野一隆						
【実績・成果】 (4館共通) 平常展来館者数は、前中期計画期間の年度平均を確保できた。 (九州国立博物館) ア 定期的かつ計画的に陳列替を実施し、1,195件の陳列替を行った。 イ 陳列総件数 2,416件 ウ 展示に係る全研究員による検討会により、開館10周年リニューアルに対するある一定の方向性を見出すとともに、館員の共通認識を得ることができた。 エ 独創的な着想に基づいたトピック展示・特別公開を12回開催し、新鮮な展示を提供することができた。									
【補足事項】 エ 24年度に開催したトピック展示・特別公開のうち、特に注目すべき内容を持つものについて以下に記す。 ・「中国陶磁名品展 横河民輔コレクション」 (関連 9、10 室 24 年 4 月 24 日～9 月 2 日) 世界的にも評価の高い横河コレクション(東京国立博物館蔵)を九州初公開。 ・「日本医術のことはじめ ―まじないから解体新書まで―」 (関連 11 室 24 年 5 月 9 日～7 月 1 日) 全国的にも珍しい医療に焦点を当てた展覧会。広く話題を呼んだ。 ・「日朝交流の軌跡 一対馬宗家文書 8 万点の調査を終えて―」 (関連 11 室 24 年 7 月 4 日～9 月 9 日) 宗家文書の調査の集大成として、長崎県立対馬歴史民俗資料館と共同で開催。 ・「茶の湯を楽しむⅤ ―芦屋釜と館蔵茶道具―」 (関連 9 室 24 年 9 月 12 日～12 月 9 日) 九州が生んだ名釜、芦屋釜に焦点を当て、講座やバスツアーを開催。 ・「江戸の粋、印籠 フィンランド・クレスコレクション」 (関連 9 室 24 年 12 月 19 日～25 年 3 月 10 日) ○トピック展示は、回数的には前年度より数を制限する一方で、展示や開催規模の充実を図り、外部広報の効果も追及する中で、来館者数の向上に結実した。 ○なお、関連第 10・11 室を会場として開催予定であった「江蘇省書画精華展」については、悪化した日中関係の余波を受け、開催延期、のち中止せざるを得なかった。 ※陳列替については、23 年度より定量的評価の項目を陳列替回数から陳列替件数に変更した。									
【定量的評価】項目		24 年度実績	目標値	評価	経年変化	20	21	22	23
平常展来館者数		460,525 人	380,690 人	A		241,423	544,661	274,545	358,366
陳列替件数		1,195 件	1,100 件程度	A		386	431	334	1,373
陳列総件数		2,416 件	1,700 件程度	A		3,146	2,106	1,668	2,417
特集陳列等実施回数		12 回	—	—		17	22	12	13
総合評価	S (A) B C F (S、F の理由)								
【中期計画記載事項】 平常展は、展覧事業の中核と位置付け、各国立博物館の特色を十分に発揮した体系的・通史的なものとするとともに、最新の研究成果を基に、日本及びアジア諸地域の歴史・伝統文化の理解の促進に寄与する展示を実施し、国内外からの来館者の増加を図る。									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					順調				



トピック展示
「日本医術のことはじめ」会場風景

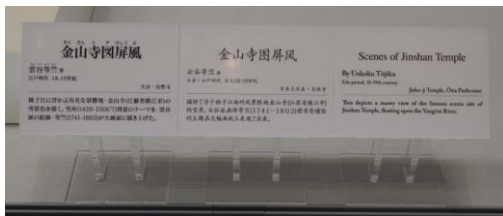


トピック展示
「江戸の粋、印籠」会場風景

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信			
事業名	(1) 展覧事業の充実 ①-2 展示説明の充実			
【年度計画】 (4館共通) 1) 作品キャプションについては全てに英語訳を付す。 2) 展示テーマ毎にその時代背景等を説明した外国語パネル等を80%以上設置する。				
担当部課	東京国立博物館学芸研究部列品管理課 奈良国立博物館学芸部 九州国立博物館学芸部企画課	事業責任者	課長 富田 淳 美術室長兼列品室長 岩田茂樹 文化交流展室長 河野一隆	
【実績・成果】 1) 東京国立博物館、奈良国立博物館及び九州国立博物館の展示説明において作品キャプション全てに英語訳を付した。 2) 展示テーマ毎にその時代背景等を説明した外国語パネル等を各館とも 80%以上設置した。 (東京国立博物館) 展示テーマ数151件のうち、146件(97%)について外国語パネルを設置した。また、68件(46%)については中国語、韓国語での解説も付している。 (奈良国立博物館) 展示テーマ数59件のうち、59件(100%)について外国語パネルを設置した。 (九州国立博物館) 展示テーマ数 47 件のうち、41 件(87%)について外国語パネルを設置した。また、27 件(57%)については中国語、韓国語での解説も付している。				
【補足事項】 (東京国立博物館) ・東京国立博物館の展示テーマ解説パネルにおける中国語、韓国語については、25 年 1 月 2 日からリニューアルオープンした東洋館への設置により、昨年度比30件増(13%増)となった。参考:23年度38件(33%) ・また、東洋館では各展示作品のキャプションについても、4 カ国語(日、英、中、韓) で記載した。 (京都国立博物館) ・京都国立博物館は平常展示館建替工事にともない、平常展示は休止しているが英語訳を付けるべく作業を行っている。 (九州国立博物館) ・一部作品に中国語の解説題箋を付し、中国語圏の観覧者への便宜を提供した。 ・トピック展示「江戸の粋、印籠 フィンランド・クレスコレクション」(24 年 12 月 19 日～25 年 3 月 10 日) では、フィンランド在住の所蔵者に図録原稿を執筆依頼した。結果的に、日英の逐語訳のカタログが完成でき、英語圏の来館者に便宜を提供することができた。				



東洋館展示作品のキャプション
(4 カ国語：日、英、中、韓)
(東京国立博物館)



中国語の解説題箋
(九州国立博物館)

【定量的評価】項目	24 年度実績	目標値	評価	経 年 変 化	20	21	22	23
外国語パネル等の設置								
東京国立博物館	97%	80%以上	A		97%	97%	96%	96%
京都国立博物館	—	—	—		100%	—	—	—
奈良国立博物館	100%	80%以上	A		77%	91%	84%	89%
九州国立博物館	87%	80%以上	A	82%	82%	83%	94%	
総合評価	S ㊤ B C F (S、Fの理由)							
【中期計画記載事項】 展示に関する説明を一層充実させることに努め、作品キャプションについては全てに英語訳を付すとともに、展示テーマ毎にその時代背景等を説明した外国語パネル等を 80%以上設置する。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調				

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(1) 展覧事業の充実 ② 特別展								
【年度計画】 特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。 (東京国立博物館) 年 3～4 回程度 (京都国立博物館) 年 2～3 回程度 (奈良国立博物館) 年 2～3 回程度 (九州国立博物館) 年 2～3 回程度									
担当部課	東京国立博物館学芸企画部企画課 京都国立博物館学芸部 奈良国立博物館学芸部 九州国立博物館学芸部企画課	事業責任者	学芸企画部長 松本伸之 企画室長 宮川禎一 部長 西山 厚 課長 小泉恵英						
【実績・成果】 (東京国立博物館) 特別展を 9 回開催した。 内訳：当館開催 7 回、海外展 2 回（うち 1 回特別協力） (京都国立博物館) 特別展を 5 回開催した。 (奈良国立博物館) 特別展を 3 回開催した。 (九州国立博物館) 特別展を 4 回開催した。									
【補足事項】									
【定量的評価】 項目	24 年度実績	目標値	評価	経 年 変 化	20	21	22	23	
特別展等の開催回数									
東京国立博物館	9 回	年 3～4 回程度	S		8	12	10	7	
京都国立博物館	5 回	年 2～3 回程度	S		3	5	5	6	
奈良国立博物館	3 回	年 2～3 回程度	A		4	3	4	3	
九州国立博物館	4 回	年 2～3 回程度	A	4	4	5	5		
総合評価	S ④ B C F (S、F の理由)								
【中期計画記載事項】 特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。 特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を設定し、その達成に努める。なお、展覧会来館者の満足度を常に把握し改善を図る。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。 (東京国立博物館) 年 3～4 回程度 (京都国立博物館) 年 2～3 回程度 (奈良国立博物館) 年 2～3 回程度 (九州国立博物館) 年 2～3 回程度									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調					

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(1) 展覧事業の充実 ② 特別展 (1/7)							
【年度計画】 ア 東京国立博物館140周年 特別展「ボストン美術館 日本美術の至宝」(平成24年3月20日～6月10日) 10万点を超える日本美術コレクションから選りすぐりの名品を紹介。 (目標来館者数31万人)								
担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	学芸研究部調査研究課絵画・彫刻室長 田沢裕賀					
【実績・成果】 ・会 期 平成24年3月20日(火)～6月10日(日) (73日間) ・会 場 平成館2階 特別展示室第1室～第4室 ・主 催 東京国立博物館、ボストン美術館、NHK、NHKプロモーション、朝日新聞社 ・後 援 外務省、アメリカ大使館 ・協 賛 損保ジャパン、大日本印刷、トヨタ自動車、みずほ銀行、三井物産 ・協 力 日本航空、日本貨物航空 ・作品件数 92件 ・来館者数 540,382人(目標310,000人・達成率174.3%) ・入場料金 一般1,500円(1,300円／1,200円)、大学生1,200円(1,000円／900円)、高校生900円(700円／600円) 中学生以下無料 * ()内は前売り及び20名以上の団体料金 ・アンケート結果 満足度 74% 明治期にアメリカに渡り、これまで日本ではまとまったかたちで展示することのできなかった日本美術の優品、名品を一堂に会して紹介したことで、極めて多くの来館者を得ることができた。								
【補足事項】  展覧会ポスター								
【定量的評価】項目	24年度実績	目標値	評価	経年変化	20	21	22	23
来館者数	540,382人	310,000人	S	—	—	—	—	—
総合評価	S (A) B C F (S、Fの理由)							
【中期計画記載事項】 特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。 特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を設定し、その達成に努める。なお、展覧会来館者の満足度を常に把握し改善を図る。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。 (東京国立博物館) 年3～4回程度								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				達成				

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(1) 展覧事業の充実 ② 特別展 (2/7)							
【年度計画】								
イ 日中国交正常化40周年 東京国立博物館140周年 中国美術館精品展（仮称）（7月12日～8月26日予定） 中国国内最大級の規模である中国美術館（北京市）の約60,000点のコレクションから精選された近現代美術を紹介。 （目標来館者数4万人）								
担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	学芸研究部調査研究課東洋室研究員 塚本鷹充					
【実績・成果】								
・展覧会名 日中国交正常化40周年 特別展「中国山水画の20世紀 中国美術館名品選」 ・会 期 平成24年7月31日（火）～8月26日（日）（25日間） ・会 場 本館特別5室 ・主 催 文化庁、中華人民共和国文化部、東京国立博物館、中国美術館 ・後 援 日本国際貿易促進協会、日本中国文化交流協会、日中友好議員連盟、一般財団法人日中経済協会、社団法人日中協会、公益財団法人日中友好会館 ・特別協力 毎日新聞社 ・作品件数 50件 ・来館者数 18,415人（目標40,000人・達成率46.0%） ・入場料金 一般600円（500円）、大学生400円（300円） *（ ）内は20名以上の団体料金 ・アンケート結果 満足度92% 20世紀山水画の代表作を厳選して展示することで、これまであまり注目されてこなかった中国近現代絵画の動向と日本絵画との関わりをわかりやすく紹介することができ、目標来館者数を達成することはできなかったが、来館者においては極めて高い満足度をもたらすことができた。								
【補足事項】								
目標来館者数に達しなかった理由。 ・費用負担予定等に変更が生じ、予算措置に手間取ったため、作業実施が遅れ、広報活動の徹底が十分に図れなかった。 ・会場スケジュールの調整により開会期間がごく短期間となったため。								
 展覧会ポスター								
【定量的評価】項目	24年度実績	目標値	評価	経年変化	20	21	22	23
来館者数	18,415人	40,000人	C		—	—	—	—
総合評価	S A ③ C F (S、Fの理由)							
【中期計画記載事項】								
特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。 特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を設定し、その達成に努める。なお、展覧会来館者の満足度を常に把握し改善を図る。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。 （東京国立博物館） 年3～4回程度								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。	ほぼ順調							

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(1) 展覧事業の充実 ② 特別展 (3/7)							
【年度計画】 ウ 日中国交正常化40周年 東京国立博物館140周年 生誕100年記念 特別展「青山杉雨の眼と書」(7月18日～9月9日) 書壇に一時代を画した書家・青山杉雨の主要作品を一堂に公開。 (目標来館者数8万人)								
担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	学芸研究部調査研究課長 田良島哲					
【実績・成果】 ・会 期 平成24年7月18日(水)～9月9日(日) (48日間) ・会 場 平成館特別展示室第1～4室 ・主 催 東京国立博物館、読売新聞社 ・企画協力 謙慎書道会 ・作品件数 369件(うち参考資料11件) ・来館者数 51,327人(目標80,000人・達成率64.2%) ・入場料金 一般1,400円(1,200円/1,100円)、大学生1,100円(900円/800円)、高校生800円(600円/500円) 中学生以下無料 * ()内は前売り/20名以上の団体料金 ・アンケート結果 満足度64% 書家収集の中国美術を展示することで、それらがどのように実作に影響を与えたのかを示すことができ、あわせて中国書法を深く研究した青山作品の技量の高さを示すことができた。								
【補足事項】 目標来館者数に達しなかった理由。 ・広報活動の不足により、展示作品に対して「難しい」という先入観を持たれ、本展に対して難解な印象を強く抱かれたのではないかと考えられる。								
 黒白相変 青山杉雨筆 昭和63年(1988) 東京国立博物館蔵								
【定量的評価】 項目	24年度実績	目標値	評価	経年変化	20	21	22	23
来館者数	51,327人	80,000人	C		—	—	—	—
総合評価	S A ⑤ C F (S、Fの理由)							
【中期計画記載事項】 特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。 特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を設定し、その達成に努める。なお、展覧会来館者の満足度を常に把握し改善を図る。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。 (東京国立博物館) 年3～4回程度								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				ほぼ順調				

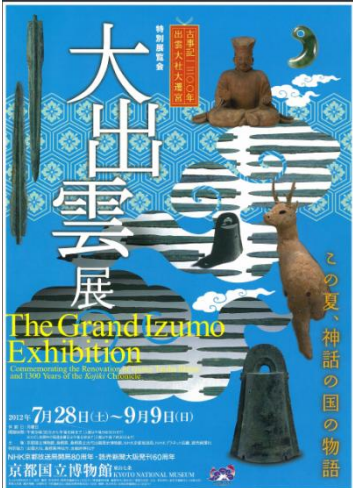
中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(1) 展覧事業の充実 ② 特別展 (4/7)							
【年度計画】								
エ 東京国立博物館140周年 古事記1300年・出雲大社大遷宮 特別展「出雲―聖地の至宝―」(10月10日～11月25日) 『古事記』編纂1300年の節目の年に、出雲大社の宝物をはじめとする貴重な文化財を紹介。 (目標来館者数5.5万人)								
担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	学芸企画部上席研究員 池田宏					
【実績・成果】								
・会 期 平成24年10月10日(水)～11月25日(日) (41日間) ・会 場 本館特別5・4室 ・主 催 東京国立博物館、島根県、島根県立古代出雲歴史博物館、NHK、NHKプロモーション、読売新聞社 ・後 援 文化庁 ・特別協力 出雲大社、島根県神社庁 ・作品件数 38件(うち、国宝3件、重要文化財16件、島根県指定文化財7件)その他、参考出品6件 ・来館者数 137,646人(目標55,000人・達成率250.2%) ・入場料金 一般800円(700円)、大学生600円(500円)、高校生400円(300円) 中学生以下無料 * ()内は前売り及び20名以上の団体料金 ・アンケート結果 満足度 68% 出雲大社より出土した「宇豆柱」や島根で発掘された大量の青銅器群と社寺に伝わった名宝を紹介したことで、出雲独自の文化の姿を示すことができました。								
【補足事項】								
想定以上の来館者が来場したことで、2ヵ所の展示場への誘導に課題を残すこととなった。展示室の順路、構成については、さらにスムーズな会場誘導を目指したい。								
								
会場内風景								
【定量的評価】								
項目	24年度実績	目標値	評価	経年変化	20	21	22	23
来館者数	137,646人	55,000人	S		—	—	—	—
総合評価	⑤ A B C F(S、Fの理由) 地方自治体との共同企画により、地域文化振興に多大な効果をもたらしたため。							
【中期計画記載事項】								
特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。 特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を設定し、その達成に努める。なお、展覧会来館者の満足度を常に把握し改善を図る。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。 (東京国立博物館) 年3～4回程度								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				達成				

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(1) 展覧事業の充実 ② 特別展 (5/7)							
【年度計画】 オ 日中国交正常化40周年 東京国立博物館140周年 特別展「中国 王朝の至宝」(10月10日～12月24日) 歴代王朝の都などの文物を通して、新たな中国文明像をひもとく。 (目標来館者数25万人)								
担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	学芸企画部長 松本伸之					
【実績・成果】 ・会 期 平成24年10月10日(水) ～ 12月24日(月・休)(66日間) ・会 場 平成館特別展示室第1～4室 ・主 催 東京国立博物館、中国文物交流中心、NHK、NHKプロモーション、毎日新聞社、朝日新聞社 ・後 援 外務省、中国国家文物局、中国大使館 ・協 力 全日本空輸、東京中国文化センター ・作品件数 168件(うち、一級文物99件)その他、参考資料3件 ・来館者数 141,507人(目標250,000人・達成率56.6%) ・入場料金 一般1,500円(1,300円/1,200円)、大学生1,200円(1,000円/900円)、高校生700円(500円/400円) 中学生以下無料 * ()内は前売り/20名以上の団体料金 ・アンケート結果 満足度 66% 中国歴代の王朝の都・中心地域に注目して、それぞれの代表的な文物を対比・対決させながら展示したことで、各時代各地域の文物の特質を明らかにすることができた。								
【補足事項】 ・本展は、政府による美術品補償制度の適用を受けた。 ・目標来館者数に達しなかった理由。 本展開幕直前に、日中間の政治的緊張が高まり、本展に対する来館者の興味をそぐこととなったため。								
								
会場内風景								
【定量的評価】項目	24年度実績	目標値	評価	経年変化	20	21	22	23
来館者数	141,507人	250,000人	C		—	—	—	—
総合評価	S A ② C F(S、Fの理由)							
【中期計画記載事項】 特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。 特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を設定し、その達成に努める。なお、展覧会来館者の満足度を常に把握し改善を図る。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。 (東京国立博物館) 年3～4回程度								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				ほぼ順調				

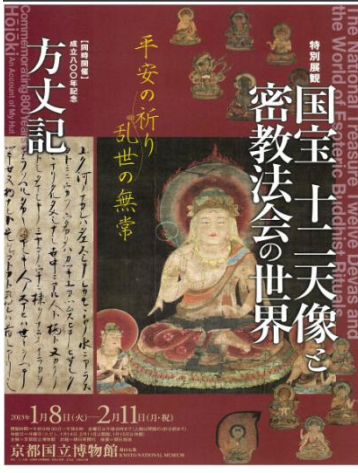
中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(1) 展覧事業の充実 ② 特別展 (6/7)							
【年度計画】								
カ 東京国立博物館140周年 特別展「飛騨の円空―千光寺とその周辺の足跡―」(仮称)(平成25年1月12日～3月31日) 飛騨千光寺所蔵の円空仏を中心に、岐阜に伝わる代表的な円空仏を展示紹介。 (目標来館者数10万人)								
担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	学芸研究部調査研究課東洋室長 浅見龍介					
【実績・成果】								
・展覧会名 東京国立博物館 140 周年 特別展「飛騨の円空―千光寺とその周辺の足跡―」 ・会 期 平成 25 年 1 月 12 日 (土) ～4 月 7 日 (日) (74 日間) ・会 場 本館特別 5 室 ・主 催 東京国立博物館、千光寺、読売新聞社、NHK、NHKプロモーション ・特別協力 高山市、高山市教育委員会 ・後 援 岐阜県 ・作品件数 46 件 ・来館者数 190,122 人(目標 100,000 人・達成率 190.1%) (うち 24 年度 169,578 人、25 年度 20,544 人) ・入場料金 一般 900 円(800 円)、大学生 700 円(600 円)、高校生 400 円(300 円) 中学生以下無料 * ()内は前売り・20 名以上の団体料金 ・アンケート結果 満足度 86% 飛騨・千光寺のほぼすべての円空仏 61 体を一挙に公開するとともに、高山市内の 14 の寺社が所蔵するあわせて 100 体を一堂に紹介したことで、多彩な円空仏の造形の特徴を示すことができた。								
【補足事項】								
					 両面宿儺坐像 円空作 江戸時代・17 世紀 岐阜・千光寺蔵			
【定量的評価】項目	24 年度実績	目標値	評価	経年変化	20	21	22	23
来館者数	190,122 人	100,000 人	S		—	—	—	—
総合評価	S ㊤ B C F (S、F の理由)							
【中期計画記載事項】								
特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。 特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を設定し、その達成に努める。なお、展覧会来館者の満足度を常に把握し改善を図る。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。 (東京国立博物館) 年 3～4 回程度								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調				

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(1) 展覧事業の充実 ② 特別展 (7/7)							
【年度計画】								
キ 日中国交正常化40周年・東京国立博物館140周年 特別展「書聖 王羲之」(平成25年1月22日～3月3日) 書聖と崇められる王羲之の書の実像に迫る。 (目標来館者数18.5万人)								
担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	学芸研究部列品管理課長 富田淳					
【実績・成果】								
・会 期 平成25年1月22日(火)～3月3日(日) (36日間) ・会 場 平成館特別展示室第1～4室 ・主 催 東京国立博物館、毎日新聞社、NHK、NHKプロモーション ・特別協力 朝日新聞社 ・後 援 外務省 ・特別協賛 大和ハウス工業 ・協 賛 あいおいニッセイ同和損保、トヨタ自動車、日本写真印刷、ゆうちょ銀行 ・協 力 内田洋行、全日本空輸、東京中国文化センター、二松学舎大学、毎日書道会 ・作品件数 163件(うち、国宝7件、重要文化財9件、重要美術品1件) ・来館者数 152,523人(目標185,000人・達成率82.4%) ・入場料金 一般1,500円(1,300円/1,200円)、大学生1,200円(1,000円/900円)、高校生900円(700円/600円) 中学生以下無料 * ()内は前売り/20名以上の団体料金 ・アンケート結果 満足度 68%								
本展によって、新発見資料などとともに、国内外に所蔵される王羲之の名品を通して、王羲之が歴史的に果たした役割を再検証することができた。								
【補足事項】								
								
定武蘭亭序(独孤本) 王羲之筆 原跡：東晋時代・永和9年(353) 東京国立博物館蔵								
【定量的評価】項目	24年度実績	目標値	評価	経年変化	20	21	22	23
来館者数	152,523人	185,000人	B		—	—	—	—
総合評価	S A ② C F (S、Fの理由)							
【中期計画記載事項】								
特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。 特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を設定し、その達成に努める。なお、展覧会来館者の満足度を常に把握し改善を図る。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。 (東京国立博物館) 年3～4回程度								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				ほぼ順調				

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(1) 展覧事業の充実 ② 特別展 (1/5)							
【年度計画】								
ア 特別展覧会「王朝文化の華 ―陽明文庫名宝展―」(4月17日～5月27日) (目標来館者数3万人) 五撰家の一つである近衛家に伝えられた典籍・古文書などを収めている陽明文庫の名品を一堂に展示する。								
担当部課	学芸部	事業責任者	上席研究員 赤尾栄慶					
【実績・成果】								
・会 期 平成24年4月17日～5月27日 (37日間) ・会 場 特別展示館(旧本館)全室 ・主 催 京都国立博物館、陽明文庫、NHK京都放送局、NHKプラネット近畿、読売新聞社 ・作品件数 140件(うち国宝9件、重要文化財6件) ・来館者数 101,006人(目標30,000人) ・入場料金 一般1,300円、大高生900円、中小生400円 ・アンケート結果 満足度89% 近衛家伝来の古記録・古典籍・古文書や美術品などを保存管理している陽明文庫から国宝8件、重文60件を含む132件、その他関連する資料8件、合わせて国宝9件、重文66件の140件を「近衛家の系譜Ⅰ・Ⅱ」「陽明文庫の至宝Ⅰ～Ⅲ」「宮廷貴族の生活Ⅰ～Ⅲ」というテーマを設定し、時系列も追いながら展示した。 陽明文庫所蔵の国指定の文化財が全て展示される初めての試みとなった。								
【補足事項】								
観覧の便を図るため、国宝「御堂関白記」をはじめとした日記などを中心に読みなどを掲出した。 会期中に特別講演会を1回、関連土曜講座を3回実施した。								
								
特別展覧会「王朝文化の華 ―陽明文庫名宝展―」チラシ								
【定量的評価】項目	24年度実績	目標値	評価	経年変化	20	21	22	23
来館者数	101,006人	30,000人	S		—	—	—	—
総合評価	S ① B C F(S、Fの理由)							
【中期計画記載事項】								
特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。 特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を設定し、その達成に努める。なお、展覧会来館者の満足度を常に把握し改善を図る。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。 (京都国立博物館) 年2～3回程度								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調				

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(1) 展覧事業の充実 (2) 特別展 (2/5)							
【年度計画】 イ 特別展覧会「古事記1300年 出雲大社大遷宮 大出雲展」(7月28日～9月9日) (目標来館者数5万人) 古事記編纂1300年、出雲の古社、関わりの深い古寺の宝物と、出雲の重要遺跡から出土した品々を一堂に紹介し、出雲神話と出雲大社の成り立ち、古代・中世の出雲人がはぐくんだ神と仏への祈りのかたちを展望する。								
担当部課	学芸部	事業責任者	保存修理指導室長 浅瀬 毅					
【実績・成果】 ・開催期間 平成24年7月28日～9月9日(38日間) ・会場 特別展示館(旧本館)全室 ・主催 京都国立博物館、島根県立古代出雲歴史博物館、NHK京都放送局、NHKプラネット近畿、読売新聞社 ・作品件数 202件(うち国宝17件、重要文化財41件) ・来館者数 79,218人(目標50,000人) ・入場料金 一般1300円、大高生900円、中小生400円 ・アンケート結果 満足度85% 平成24年は『古事記』が編纂されてから1300年という記念すべき年であった。同書は上・中・下の三巻からなるが、上巻は「神話」の時代について書かれ、その三分の一が出雲地方を舞台としている。本展覧会はまさに『古事記』1300年という記念の年にふさわしい、神話の舞台「出雲」にスポットをあてた展覧会であった。								
【補足事項】 ・京都国立博物館及び島根県、島根県立古代出雲歴史博物館が共同で、出雲地方を中心とする島根県の社寺において文化財調査を十分な時間をかけて行った成果を反映した展覧会であった。その結果、考古遺品を中心に構成されていた従来の出雲に関する展覧会とは異なり、近世にいたるまでの出雲文化の全貌を紹介する展覧会となった。国宝・重要文化財に指定される名品はもとより、これまで一般にはあまり知られていなかった近世の神宝類にも光をあてて、広い分野から作品選定を行なった。 ・天井が高く広い空間を有する中央展示室においては、古代の出雲大社を十分の一という巨大なスケール(高さ4.5メートルあまり)で再現した。また、前回の遷宮で屋根より下ろされて保管されていた巨大な鯉木もあわせて展示し、出雲大社宸殿の巨大さが実見できるような展示を心がけた。 ・島根は仏教文化の伝播という面では、我が国の他の地方と比べると時間差があり、7世紀の段階では仏教寺院の数も限られるという特色がある。一方で平安時代以降は天台寺院が建立され、それを中心に仏教文化が広まった。このような島根特有の宗教文化の実態を、当館と島根県による共同の社寺調査において新たに発見された作品などを通じて浮彫にすることができた。 ・これらの努力の結果、約8万人の来館者を集め、出雲文化を紹介する展覧会で、関西で開催されたものとしては、最も多くの来館者を数える展覧会となった。								
								
特別展覧会「古事記 1300 年 出雲大社大遷宮 大出雲展」チラシ								
【定量的評価】 項目	24 年度実績	目標値	評価	経年変化	20	21	22	23
来館者数	79,218 人	50,000 人	S		—	—	—	—
総合評価	㊟ A B C F(S、Fの理由) 目標を大きく超える来館者があり、内容も充実していた。 単に国宝、重要文化財を集めたわけではなく、今回の調査で新たに発見された作品や運搬方法の研究により今回初めて島根県外で公開することが可能になった作品がある。							
【中期計画記載事項】 特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。 特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を設定し、その達成に努める。なお、展覧会来館者の満足度を常に把握し改善を図る。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。 (京都国立博物館) 年2～3回程度								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調				

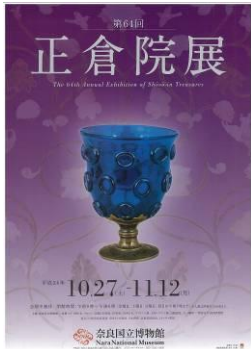
中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(1) 展覧事業の充実 ② 特別展 (3/5)								
【年度計画】									
ウ 特別展覧会「宸翰 天皇の書 ー御手(みて)が織りなす至高の美ー」(10月13日～11月25日) (目標来館者数2万人) 宸翰の発生から現在にいたるまでを通覧することを柱に、「書」の王者たる宸翰の魅力を展望する。									
担当部課	学芸部		事業責任者		企画室研究員 羽田 聡				
【実績・成果】									
・会 期 平成 24 年 10 月 13 日 (土) ～11 月 25 日 (日) (38 日間) ・会 場 京都国立博物館特別展示館 (旧本館) 全室 ・主 催 京都国立博物館 ・共 催 毎日新聞社、NHK 京都放送局 ・協 力 日本香堂 ・作品件数 144 件 (うち国宝 17 件、重要文化財 66 件、重要美術品 11 件) ・来館者数 24,699 人 (目標 20,000 人) ・入場料金 一般 1,200 円、大高生 800 円、中小生 400 円 ・アンケート結果 満足度 88%									
奈良時代の聖武天皇から、昭和時代の昭和天皇にいたるまで、「宸翰」と称される歴代天皇の書及び関連作品 144 件を紹介した初の試み。通史的に展示を行うことにより、各時代を彩った天皇の個性豊かな文字、時代とともに変遷する書風、日本美術における書の独自性を明らかにした。来館者アンケートからは、こうした「時代に流されない」企画を望む声が多くみられ、さまざまな理由から自主企画展の開催が困難となりつつある昨今、博物館の主導する調査研究がいかに重要であるかを内外に示したといえる。									
【補足事項】									
・展覧会の開催までには 5 年近い歳月を費やし、作品の選定や調査を行った。宮内庁をはじめとした関係各所の協力をとりつけ、遺墨の現存が確認されている天皇 53 方のうち、醍醐天皇・長慶天皇・称光天皇を除く 50 方、すなわち歴代の宸翰をほぼ網羅して展示することが可能となった。とりわけ、最古の宸翰、聖武天皇の「雑集」(正倉院宝物)が出品されたことの展示面、研究面での意義は大きく、本品が展示されて以降、来館者数が大きく増加した。 ・展覧会関連事業として、国際シンポジウム (24 年 11 月 18 日実施) 及び関連講座 (土曜講座 4 回) を開催した。前者においては、中国及び中華民国からパネリストを招聘し、日本と中国の「天皇・皇帝の書」における共通点や差異について、多角的な討論を行った。また、後者にあつては、気鋭の国内研究者 (3 名) にも講師を依頼し、歴史と美術の両側面から日本の「書」を再認識する機会を提供した。 ・過去の自主企画展の傾向を分析すると、内容が特定の分野に特化するため、ともすれば目標来館者数を下回ることが多い。この点に鑑み、広報の強化を博物館全体として協議し、①記者発表の複数回実施 (3 回)、②展覧会内容に沿った団体 (全国の書道協会、大学書道部、皇室関係など) への広報物発送、③書道会を有する毎日新聞社への広報協力依頼 (特別割引券の設定、広報物の配布、カラー特集紙面等関連記事の掲載) を行った。結果、目標値を 4,699 人上回る来館者を得た。 ・本展図録は、一般向けはもちろん、より専門的な学術研究に寄与するべく、掲載作品の全てに詳細な解説と史料翻刻を付した。購買率は 10.1 人に 1 冊という高い数値を示し、展覧会の内容とともに高い評価を得ている。									
									
特別展覧会「宸翰 天皇の書ー御手が織りなす至高の美ー」チラシ									
【定量的評価】項目		24 年度実績	目標値	評価	経年 変化	20	21	22	23
来館者数		24,699 人	20,000 人	A		—	—	—	—
総合評価		S ㊤ B C F (S、F の理由)							
【中期計画記載事項】									
特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。									
特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を設定し、その達成に努める。なお、展覧会来館者の満足度を常に把握し改善を図る。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。 (京都国立博物館) 年 2～3 回程度									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					順調				

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(1) 展覧事業の充実 ② 特別展 (4/5)							
【年度計画】 エ 特別展観「国宝 十二天像と密教法会の世界」(平成25年1月8日～2月11日) 京都国立博物館所蔵国宝「十二天像」「山水屏風」などを中心にして、平安時代以来、宮中で正月に行われた国家の安寧を祈る後七日御修法などの密教法会の世界を紹介する。 (目標来館者数2万人)								
担当部課	学芸部	事業責任者	保存修理指導室研究員 大原嘉豊					
【実績・成果】 ・会 期 平成25年1月8日(火)～2月11日(月・祝) (31日間) ・会 場 京都国立博物館特別展示館(旧本館)1～8室 ・主 催 京都国立博物館 ・作品件数 71件(うち国宝14件、重要文化財16件、重要美術品3件) ・来館者数 25,216人(目標20,000人) ・入場料金 一般1,000円、大高生700円、中小生無料 ・アンケート結果 満足度88% ・新発見初公開作品3件、寺外初公開17件(仁和寺御経蔵聖教のうち守覚法親王仁和寺御流関係聖教) ・新知見1件(当館及び出光美術館所蔵山水屏風残闕各二幅が当初一具であったことを示し、初同時公開を行った) 朝日新聞社の共催により、朝日放送の後援を得て過去の同社のアーカイブを再編集使用することで安価に会場映像を作成することができ、好評を得た。特別展覧会とは異なる特別展観という形式ではあるが、特別展覧会に遜色ない会場設備、展示内容を充実することができた。								
【補足事項】 ・守覚法親王は、後白河院の皇子であり、当館敷地は後白河院御所法住寺殿の旧地に相当する。所縁のある地で、所蔵寺院の理解と協力を得て関係作品をまとめた形で寺外初公開することが可能となった。また、作品調査及び撮影には、仏教美術研究上野記念財団の助成を得ることができた。								
								
特別展観「国宝 十二天像と密教法会の世界」チラシ								
【定量的評価】 項目	24年度実績	目標値	評価	経年変化	20	21	22	23
来館者数	25,216人	20,000人	A		—	—	—	—
総合評価	S (A) B C F (S、Fの理由)							
【中期計画記載事項】 特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。 特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を設定し、その達成に努める。なお、展覧会来館者の満足度を常に把握し改善を図る。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。 (京都国立博物館) 年2～3回程度								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調				

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(1) 展覧事業の充実 ② 特別展 (5/5)							
【年度計画】								
オ 特集陳列「成立800年記念 方丈記」(平成25年1月8日～2月11日) 鴨長明が建暦二年(1212)三月に執筆し、鎌倉時代を代表する随筆として知られる『方丈記』の成立800年を記念し、大福光寺本『方丈記』(重文)を中心に関連する資料を展示する。								
担当部課	学芸部	事業責任者	上席研究員 赤尾栄慶					
【実績・成果】								
・会 期 平成25年1月8日(火)～2月11日(月・祝) (31日間) ・会 場 京都国立博物館特別展示館(旧本館)9～10室 ・主 催 京都国立博物館 ・作品件数 18件(うち国宝2件、重要文化財11件、重要美術品2件) ・来館者数 25,216人(特別展観「国宝 十二天像と密教法会の世界」と一体でカウント) ・入場料金 一般1,000円、大高生700円、中小生無料 ・アンケート結果 満足度88% 大福光寺本の全文が鑑賞できるように、巻首から巻末からまでの全体を展示した。全体は18件であるが、鴨長明の出自や撰述書など鴨長明自身に関わる資料5件、信仰の様子に関連した資料7件、漢字片仮名交じり文という表記方法に関連した資料6件で構成した。18件のうち、国宝2件、重文11件、重要美術品2件という豪華な内容となった。								
【補足事項】								
・ゆかりの河合神社及び河合神社の境内に復元された方丈、日野の山中にある方丈石の写真パネルを掲出し、理解が深まるように配慮した。 ・白テープを貼って方丈の大きさや高さが分かるようにした。								
 特集陳列「成立800年記念 方丈記」チラシ								
【定量的評価】項目	24年度実績	目標値	評価	経年変化	20	21	22	23
来館者数	25,216人	—	—		—	—	—	—
総合評価	S ① B C F(S、Fの理由)							
【中期計画記載事項】								
特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。 特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を設定し、その達成に努める。なお、展覧会来館者の満足度を常に把握し改善を図る。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。 (京都国立博物館) 年2～3回程度								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調				

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(1) 展覧事業の充実 ② 特別展 (1/3)							
【年度計画】								
ア 御遠忌800年記念特別展「解脱上人貞慶 ―鎌倉仏教の本流―」(4月7日～5月27日) 解脱上人貞慶(1155-1213)は鎌倉時代の高僧で、寺院の復興や仏教の再生に尽力した。800 年遠忌にあたる今年、貞慶の生涯とその魅力をゆかりの品々で大観する。 (目標来館者数3万人)								
担当部課	学芸部	事業責任者	部長 西山 厚					
実績・成果								
・会 期 平成24年4月7日(土)～5月27日(日)(45日間) ・会 場 奈良国立博物館 東新館・西新館(第1室) ・主 催 奈良国立博物館、神奈川県立金沢文庫、読売新聞社 ・後 援 文化庁、奈良県、奈良市、木津川市、NHK奈良放送局 ・協 賛 きんでん、大和ハウス工業、非破壊検査 ・協 力 日本香堂、財団法人仏教美術協会 ・作品件数 129件(うち国宝3件、重要文化財58件) ・来館者数 24,317人(目標30,000人) ・観覧料金 一般1,200円、大高生800円、小中生500円 ・アンケート結果 満足度81% 鎌倉時代の仏教については、浄土・禅・法華などの新仏教を中心に語られる傾向があるが、本特別展を通じて、解脱上人貞慶の存在の重要性とその魅力を多くの方々に知ってもらうことができた。								
【補足事項】								
・鎌倉時代前期に活躍した貞慶は、はじめ興福寺で学僧として活動し、後に笠置寺へ、さらに海住山寺へ移った。戒律を大切にした貞慶は、釈迦如来・弥勒菩薩・観音菩薩・春日明神をとりわけ深く信仰し、由緒ある寺々の復興や仏教の再生に大きな貢献を果たした。 ・(展覧会の構成) 1 興福寺の貞慶と法相宗 2 笠置寺の貞慶と信仰世界 3 貞慶と南都復興 4 貞慶と春日信仰 5 海住山寺の貞慶と観音信仰 6 貞慶思慕 ・会期中に関連の公開講座(3回)及び列品解説(2回)を実施した。 ・ゆかりの社寺(海住山寺、笠置寺、春日大社、興福寺、唐招提寺、東大寺、法隆寺、薬師寺)が一堂に会し、貞慶の功績を紹介する「解脱上人貞慶フォーラム」を実施した。								
 ポスター・チラシデザイン								
 会場風景								
【定量的評価】項目	24年度実績	目標値	評価	経年 変化	20	21	22	23
来館者数	24,317人	30,000人	B		—	—	—	—
総合評価	S A ③ C F(S、Fの理由)							
【中期計画記載事項】								
特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。 特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を設定し、その達成に努める。なお、展覧会来館者の満足度を常に把握し改善を図る。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。 (奈良国立博物館) 年2～3回程度								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調				

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(1) 展覧事業の充実 ② 特別展 (2/3)							
【年度計画】								
イ 「頼朝と重源 一東大寺再興を支えた鎌倉と奈良の絆」(7月21日～9月17日) 大勸進重源の指揮のもと、源頼朝をはじめ多くの人々の支援により成し遂げられた東大寺の鎌倉復興。中世の幕開けを告げたこの大事業の軌跡を、東大寺や鶴岡八幡宮に伝わった文化財によってたどる。 (目標来館者数5万人)								
担当部課	学芸部美術室	事業責任者	室員	山口隆介				
【実績・成果】								
・会 期 平成24年7月21日(土)～9月17日(月・祝) (52日間) ・会 場 奈良国立博物館 東新館・西新館 ・主 催 奈良国立博物館、東大寺、鶴岡八幡宮、朝日新聞社 ・共 催 NHK奈良放送局 ・後 援 文化庁、神奈川県、鎌倉市、奈良県、奈良市 ・作品件数 112件(うち国宝16件、重要文化財54件) ・来館者数 41,985人(目標50,000人) ・観覧料金 一般1,200円、大高生800円、小中生500円 ・アンケート結果 満足度88% 東大寺再興を成し遂げた先人たちの偉業を再認識し、繰り返し再興が遂げられてきたわが国の歴史について考え、思いを致す貴重な機会となった。								
【補足事項】								
・当館では重源上人の御遠忌800年を記念した特別展を平成18年(2006)に開催し、その偉大な足跡を振り返ったが、本展覧会は源頼朝に代表されるこの大事業を支えた人々という側面から東大寺再興に迫る試み。運慶・快慶らによって生み出された新時代の幕開けを象徴する仏像の数々や、重源の思想が色濃く反映された宝物、再興の経過や当時の時代の空気を伝える品々が一堂に会した。そして、頼朝が東大寺大仏殿落慶供養に参列した際、鎮守八幡宮(現、手向山八幡宮)から譲り受けたと伝えられる神奈川・鶴岡八幡宮所蔵の菩薩面・舞楽面など頼朝ゆかりの名品も合わせて展示することで、半世紀余りに及ぶ再興の軌跡をたどった。 ・東大寺と鶴岡八幡宮が主催に名を連ねた本展では、重源から大勸進を引き継いだ鎌倉ゆかりの僧栄西・行勇の活躍に光を当てた「第4章 栄西そして行勇へ大勸進の継承」、鎌倉幕府草創期の頼朝の信仰世界をしめした「第5章 頼朝の信仰世界―鎌倉三大寺社の創建と二所詣―」、東大寺・鶴岡八幡宮両寺社にとって深い崇敬の対象であり続けた八幡神に焦点を当てた「第6章 八幡神への崇敬」の各章を設けて、重源展とは異なる新鮮な視点を提示した。 ・図録は、鶴岡八幡宮をはじめ関東の作品を早期借用して新撮した写真を多く掲載し、5本の論考を掲載するなど、学術的に高い評価を得た。 ・会期中に関連の公開講座(3回)を実施した。また、春の特別展「解脱上人貞慶―鎌倉仏教の本流―」とも関連させるかたちで夏季講座「鎌倉時代の南都仏教」(講師9名)を実施した。								
								
				ポスター・チラシデザイン				
								
				会場風景				
【定量的評価】項目	24年度実績	目標値	評価	経年変化	20	21	22	23
来館者数	41,985人	50,000人	B		—	—	—	—
総合評価	S A ㊦ C F(S、Fの理由)							
【中期計画記載事項】								
特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。 特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を設定し、その達成に努める。なお、展覧会来館者の満足度を常に把握し改善を図る。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。 (奈良国立博物館) 年2～3回程度								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調				

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(1) 展覧事業の充実 (2) 特別展 (3/3)							
【年度計画】								
ウ 「第64回正倉院展」(予定) 正倉院宝庫に伝わる宝物約70件を展示。 (目標来館者数18万人)								
担当部課	学芸部工芸考古室		事業責任者		室長 内藤 榮			
【実績・成果】								
・会 期 平成24年10月27日(土)～11月12日(月) (17日間) ・会 場 奈良国立博物館 東新館・西新館 ・主 催 奈良国立博物館 ・特別協力 読売新聞社 ・協 賛 NTT西日本、キヤノン、近畿日本鉄道、JR東海、JR西日本、ダイキン工業、大和ハウス工業、白鶴酒造、丸一鋼管 ・協 力 NHK奈良放送局、奈良テレビ放送、日本香堂、財団法人仏教美術協会、ミネルヴァ書房 ・作品件数 64件 ・来館者数 238,019人(目標180,000人) ・観覧料金 一般1,000円、大高生700円、小中生400円 ・アンケート結果 満足度77% ガラス作品及び関連資料が多く出陳されており、奈良時代におけるガラスの生産技術、需要、用途などが具体的に分かる展示となった。あわせて聖武天皇ご遺愛の遊戯具がまとめて展示され、奈良朝の宮中における遊びや暮らしの様子がうかがえた点に特徴があり、例年以上にテーマ性を持っていた。								
【補足事項】								
・北倉23件、中倉23件、南倉14件、聖語蔵4件の総計64件を出陳した(初出陳は9件)。 ・螺鈿紫檀琵琶とこれに附属する紅牙撥鏤撥(こうげばちるのばち)、また木画紫檀双六局をはじめ双六の玉や賽子など、聖武天皇ゆかりの北倉の宝物を多数出陳した。 ・平成6年以来18年ぶりの出陳となる瑠璃杯のほか、碧瑠璃小尺・黄瑠璃小尺のようなガラスを使ったアクセサリーや、ガラスの原料となった丹、同じ素材を釉薬に用いる磁瓶などを出陳した。 ・その他、銀平脱八稜形鏡箱や密陀彩絵箱、紫檀小架などの調度品、紫地亀甲仏殿文錦や赤地鴛鴦唐草文錦大幡脚端飾などの染織品、古代の書見台である紫檀金銀絵書几といった、宝庫を代表する宝物を出陳した。 ・会期中に関連の公開講座(4回)及び学術シンポジウム「正倉院宝物の近代～壬辰検査から140年」を実施した。								
					 ポスター・チラシデザイン			
					 会場風景			
【定量的評価】項目	24年度実績	目標値	評価	経年変化	20	21	22	23
来館者数	238,019人 (17日間)	180,000人	A		263,765	299,294 (20日間)	294,804 (20日間)	239,581 (17日間)
総合評価	S (A) B C F (S、Fの理由)							
【中期計画記載事項】								
特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。 特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を設定し、その達成に努める。なお、展覧会来館者の満足度を常に把握し改善を図る。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。 (奈良国立博物館) 年2～3回程度								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調				

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(1) 展覧事業の充実 ② 特別展 (1/4)								
【年度計画】									
ア 「平山郁夫 シルクロードの軌跡」(4月3日～5月27日) 日本画家平山郁夫の画業の足跡と文化財保護活動を紹介 (目標来館者数5万人)									
担当部課	学芸部企画課	事業責任者	文化財課長 臺信祐爾						
【実績・成果】									
・展覧会名 平山郁夫 シルクロードの軌跡 ・会 期 平成24年4月3日(火)～5月27日(日) (49日間) ・会 場 九州国立博物館 特別展示室 ・主 催 九州国立博物館・福岡県、西日本新聞社、NHK福岡放送局、NHKプラネット九州、朝日新聞社 ・作品件数 95件(重要文化財2件) ・来館者数 110,047人(目標50,000人) ・入場料金 一般1,300円、高大生1,000円、小中生600円 ・アンケート結果 満足度88% 日本画家で文化勲章受章者の平山郁夫(1930～2009年)の生涯を、62年に及んだその画業、研究材料として美知子夫人とともに蒐集した優れた美術品コレクション、そして消滅の危機に瀕している各地の文化遺産や美術品を国際協力によって保護しようとした文化財保護活動の3つの側面から紹介する展覧会である。									
【補足事項】									
・第1章 釈迦追慕、第2章 壁画模写と文化財保護、第3章 シルクロードと仏教伝来の道、第4章 日本帰郷 ー平和への祈り、の4章構成で、平山の生涯をたどった。 ・第1回ユネスコフェロウシップ奨学生として、半年でイタリア・フランス・イギリス・オランダ・ドイツを周遊し、東西宗教美術について研究した。その後も、法隆寺金堂壁画や高松塚壁画模写に加え、トルコやイタリアの教会壁画模写に従事する経験を積んだ。 ・玄奘三蔵の足跡を辿るとともに、日本文化の源流を探るために、ユーラシア大陸を縦横無尽に旅し、その累積距離は地球9周分に及んだという。 ・各地の文化遺産が消滅の危機に瀕していることを知った平山は、国際的な枠組みでの保護活動を提唱し、実行に移した。 ・ユーラシア大陸を旅するにつけ、我が国の風物に対する関心がさらに深まり、還暦以後、生まれ育った日本の風景や社寺の姿を特に好んで描いた。									
 展覧会ポスター									
【定量的評価】項目		24年度実績	目標値	評価	経年変化	20	21	22	23
来館者数		110,047人	50,000人	S		—	—	—	—
総合評価	㊟ A B C F(S、Fの理由) 平山郁夫の被爆体験に裏打ちされた、平和への願いと文化財保護を通して行った実践について、多くの来館者に広く関心をもってもらえた。								
【中期計画記載事項】									
特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。									
特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を設定し、その達成に努める。なお、展覧会来館者の満足度を常に把握し改善を図る。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。 (九州国立博物館) 年2～3回程度									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					順調				

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(1) 展覧事業の充実 ② 特別展 (2/4)							
【年度計画】								
イ 「美のワンダーランド 十五人の京絵師」(仮称)(7月10日～9月2日) 江戸時代の絵画史の流れを京都の地に焦点を絞って紹介。 (目標来館者数6万人)								
担当部課	学芸部企画課	事業責任者	特別展室主任研究員 畑靖紀					
【実績・成果】								
・展覧会名 美のワンダーランド 十五人の京絵師 ・会 期 平成24年7月10日(火)～9月2日(日) (49日間) ・会 場 九州国立博物館 特別展示室 ・主 催 九州国立博物館・福岡県、西日本新聞社、TNCテレビ西日本 ・特別協力 京都国立博物館 ・作品件数 49件(国宝1件、重要文化財11件、重要美術品4件) ・来館者数 75,415人(目標60,000人) ・入場料金 一般1,300円、高大生1,000円、小中生600円 ・アンケート結果 満足度84% 独創性あふれる個性的な表現者たちが競い合うように作品を制作した、18世紀の京都を代表する15名の絵師に光をあてた。当時の魅力的な絵画世界の広がりを経験的に紹介するため、京都国立博物館の企画協力を得て、同館の所蔵品・寄託品を中心に49件(国宝1件、重文11件)を集めて展示した。とくに近年、関心の高い伊藤若冲の晩年の代表作である仙人掌群鶏図襖(大阪・西福寺)などの優品を九州で初めて展示した。								
【補足事項】								
・展示の構成は、第1章「伝統から踏み出す一始興と狩野派一」、第2章「詩と自然を愛する一蕪村と大雅一」、第3章「新奇を極める一若冲と蕭白一」、第4章「写生を競いあう一応挙と円山四条派一」の全4章からなる。 ・記念講演会として「十八世紀の京画壇」(7月21日、佐々木丞平氏)、シンポジウムとして「京絵師の魅力にせまる」(7月29日、榊原悟氏、山下善也氏、野口剛氏、福士雄也氏、水谷亜希氏、畑靖紀)、講演会として「若冲と蕭白の時代」(7月14日、鷺頭桂)、トークショーとして「応挙こぼれ話」(7月15日、山口晃氏)及び「華丸・大吉と学ぶ日本美術講座」(8月4日、博多華丸氏・大吉氏)を実施した。 ・日本画の観賞ポイントをまとめたパネルと、独特の光沢をもつ「絛」という画絹を実際に触ることができるコーナーを設置した。またワークショップ「夏休み子ども工作 できるかな?ミニ屏風」を開催し、夏休み期間を利用した親子で楽しむ企画を実施した。								
 会場風景 伊藤若冲 仙人掌群鶏図襖 他								
 「絛」という画絹を 解説するコーナー								
【定量的評価】項目	24年度実績	目標値	評価	経年変化	20	21	22	23
来館者数	75,415人	60,000人	A		—	—	—	—
総合評価	S (A) B C F (S、Fの理由)							
【中期計画記載事項】								
特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。 特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を設定し、その達成に努める。なお、展覧会来館者の満足度を常に把握し改善を図る。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。 (九州国立博物館) 年2～3回程度								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調				

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(1) 展覧事業の充実 (2) 特別展 (3/4)								
【年度計画】									
ウ 「ベルリン国立美術館展」(10月9日～12月2日) ドイツ、ベルリンの美術館群が所蔵する絵画、彫刻の名品を通してヨーロッパ美術の400年を学ぶ。 (目標来館者数10万人)									
担当部課	学芸部企画課	事業責任者	文化財課長 臺信祐爾						
【実績・成果】									
・展覧会名 ベルリン国立美術館展 ―学べるヨーロッパ美術の400年― ・会 期 平成24年10月9日(火)～12月2日(日) (51日間) ・会 場 九州国立博物館 特別展示室 ・主 催 九州国立博物館・福岡県、西日本新聞社、RKB毎日放送、NBC長崎放送、RKK熊本放送、OBS大分放送、MRT宮崎放送、MBC南日本放送、tysテレビ山口、TBS ・作品件数 108件 ・来館者数 224,324人(目標100,000人) ・入場料金 一般1,500円、高大生1,000円、小中生600円 ・アンケート結果 満足度 83% 質量ともに充実した、ヨーロッパ美術の400年を紹介する九州初の本格的な西洋美術展で、来館者の満足度は極めて高かった。アルプス山脈の南北の美術を比較することができた。									
【補足事項】									
・ヨーロッパ美術の400年を紹介する本展は6章構成となっている。 ・ベルリン国立美術館群が所蔵する選りすぐりの絵画と彫刻作品と素描を、 第1章 15世紀 宗教と日常生活；第2章 15～16世紀 魅惑の肖像画； 第3章 16世紀 マニエリスムの身体；第4章 17世紀 絵画の黄金時代；第5章 18世紀 啓蒙の近代へ、第6章 魅惑のイタリア・ルネサンス素描、の6章立てで紹介した。 ・なかでも、門外不出とされるボッティチェッリの「神曲」素描を含む素描は、多様な芸術家、題材、技法の観点から選ばれており、きわめて興味深い展示となった。 ・15世紀に活躍したピントゥリッキオの絵画とドナテッロによる石彫は、ルネサンス盛期の優美さと力強さの源流を示す貴重な作品である。 ・ドイツ15世紀を代表するリーメンスシュナイダーの木彫作品は、ドイツ特産の刃物の鋭さを示しており、16世紀北方ルネサンスを代表する画家デューラーとクラナハ(父)の肖像画もイタリア美術からの影響と独自性を示す傑作である。 ・17世紀オランダ絵画の代表作としてフェルメールの「真珠の首飾りの少女」とレンブラントの「ミネルヴァ」などを取り上げた。 ・18世紀フランス絵画としてシャルダンの静物画を取り上げた。									
									
展覧会ポスター									
【定量的評価】項目		24年度実績	目標値	評価	経年変化	20	21	22	23
来館者数		224,324人	100,000人	S		—	—	—	—
総合評価	㊟ A B C F (S、Fの理由) 九州初の本格的な西洋美術展でヨーロッパ美術の400年を紹介し、目標を超える多くの来館者を迎えることができた。								
【中期計画記載事項】									
特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。 特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を設定し、その達成に努める。なお、展覧会来館者の満足度を常に把握し改善を図る。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。 (九州国立博物館) 年2～3回程度									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調					

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(1) 展覧事業の充実 ② 特別展 (4/4)								
【年度計画】									
エ 「ボストン美術館 日本美術の至宝」(平成25年1月1日～3月17日) アメリカ、ボストン美術館の所蔵品を通して、海を渡ったすぐれた日本美術について紹介する。 (目標来館者数6万人)									
担当部課	学芸部企画課	事業責任者	特別展室研究員 森實久美子						
【実績・成果】									
・展覧会名 ボストン美術館 日本美術の至宝 ・会 期 平成25年1月1日(火・祝)～3月17日(日) (66日間) ・会 場 九州国立博物館 特別展示室 ・主 催 九州国立博物館・福岡県、ボストン美術館、NHK福岡放送局、NHKプラネット九州、西日本新聞社 ・作品件数 46件 ・来館者数 236,725人(目標60,000人) ・入場料金 一般1,500円、高大生1,000円、小中生600円 ・アンケート結果 満足度 89% 東洋美術の殿堂とも称されるボストン美術館が所蔵する10万点以上におよぶ日本美術コレクションから、46件を厳選して展示を行った。修復後世界初公開となる曾我蕭白の作品も含め、国宝・重文の指定を受けるにふさわしい優品がそろい、きわめて質の高い展示内容であった。全作品九州初上陸という話題性もあり、24万人近くの来館者を動員した。									
【補足事項】									
・各時代を代表する作品を厳選して展示を行った。展示は、第1章「仏のかたち 神のすがた」、第2章「海を渡った二大絵巻」、第3章「静寂と輝き—中世水墨画と初期狩野派—」、第4章「華ひらく近世絵画」、第5章「奇才曾我蕭白」の全5章から構成される。 ・当館のほか、東京国立博物館、名古屋ボストン美術館、大阪市立美術館に巡回するもので、当館は3会場目となり、通算100万人目の来館者をお迎えした。 ・教育普及事業として、日本美術コレクションの基礎を築いた3人の人物にスポットをあて、収集作品との関わりなどを紹介するパネルを設置した。									
 曾我蕭白筆 雲龍図									
 導入部 教育普及パネル									
【定量的評価】項目		24年度実績	目標値	評価	経年変化	20	21	22	23
来館者数		236,725人	60,000人	S		—	—	—	—
総合評価	㊟ A B C F(S、Fの理由) ボストン美術館が誇る日本美術の優品の数々を、コレクション形成の歴史とともに紹介し、目標を超える多くの来館者を迎え、高い満足度を得た。								
【中期計画記載事項】									
特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。									
特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を設定し、その達成に努める。なお、展覧会来館者の満足度を常に把握し改善を図る。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。 (九州国立博物館) 年2～3回程度									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					順調				

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(1) 展覧事業の充実 ③ 海外展 (1/2)							
【年度計画】 (東京国立博物館) 1) 海外展「仏教美術と宮廷の美」(平成24年2月17日～4月8日) 会場：ヒューストン美術館(アメリカ) 東京国立博物館所蔵の日本美術の優品を精選し展示。								
担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	学芸研究部調査研究課長 田良島哲					
【実績・成果】 (東京国立博物館) ・展覧会名 Elegant Perfection: Masterpieces of Courtly and Religious Art from Tokyo National Museum 開館記念特別展「仏教美術と宮廷の美 東京国立博物館コレクション」 ・開会期間 平成24年2月19日(日)～4月8日(日) (51日間) ・会場 ヒューストン美術館(アメリカ、カロリン・ワイエス・ロー・ビルディング) ・主催 東京国立博物館、ヒューストン美術館 ・作品件数 26件(うち国宝1件、重要文化財2件、重要美術品1件) ・来館者数 18,629人 ヒューストン美術館において、日本美術の常設展示室開室を機に、東京国立博物館所蔵品の宮廷の美術及び仏教美術の優品を紹介したことで、古来より受け継がれる日本の美意識を伝えることができた。								
【補足事項】 陶磁・金工等の一部作品は2年間の長期貸与を行い、引き続き同館日本室で展示される。								
								
会場展示風景								
【定量的評価】項目	24年度実績	目標値	評価	経年変化	20	21	22	23
来館者数	18,629人	—	—		—	—	—	—
総合評価	S ④ B C F(S、Fの理由)							
【中期計画記載事項】 海外からの要請等に応じて、海外において展覧会等を行うことにより、日本の優れた文化財をもとにした歴史と伝統文化を紹介する。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調				

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(1) 展覧事業の充実 ③ 海外展 (2/2)								
【年度計画】 (東京国立博物館) 2) 海外展「天下一の翡翠色を持つ青磁」(10月16日～12月16日) 会場：国立中央博物館(韓国) (特別協力・東京国立博物館) 高麗青磁の美しさを紹介し、高麗時代の工芸文化における芸術的価値と歴史的意義に注目。									
担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	博物館教育課長 今井敦						
【実績・成果】 (東京国立博物館) ・展覧会名 海外展「天下第一 翡色青磁」 ・開会期間 平成24年10月16日(火)～12月16日(日) (56日間) ・会場 韓国国立中央博物館企画展示室 ・主催 韓国国立中央博物館 ・特別協力 東京国立博物館 ・作品件数 299件(うち、国内作品20件、東京国立博物館所蔵品3件) ・来館者数 43,800人 韓国に所在する作品とともに日本に伝わる作品を展示して、高麗青磁の工芸の美と歴史的な価値を紹介したことで、高麗時代の陶磁文化をより立体的に理解してもらうとともに、高麗青磁の鑑賞機会の拡大を図ることができた。									
【補足事項】  青磁透彫唐草文箱 高麗時代・12世紀 東京国立博物館蔵									
【定量的評価】項目		24年度実績	目標値	評価	経年変化	20	21	22	23
来館者数		43,800人	—	—		—	—	—	—
総合評価	S (A) B C F (S、Fの理由)								
【中期計画記載事項】 海外からの要請等に応じて、海外において展覧会等を行うことにより、日本の優れた文化財をもとにした歴史と伝統文化を紹介する。									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					順調				

【書式A】		施設名		東京国立博物館		処理番号		2211-1	
-------	--	-----	--	---------	--	------	--	--------	--

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(2) 教育活動の充実 ①学習機会の提供(1/3)								
【年度計画】 (4館共通) 1) (略) (東京国立博物館) 1) 日本の歴史・文化及びアジア諸地域の歴史・文化の理解促進を図るための教育普及の先導的事業を実施する。本館20室を教育普及スペース「みどりのライオン」と位置づけ、適宜、小講堂等も活用し、内容に応じた環境を設定しながら事業を展開する。 ○ファミリー向け教育普及的展示企画「親と子のギャラリー」の実施 ・特集陳列「親と子のギャラリー 日本美術のつくり方Ⅲ」(7月24日～9月2日) ○体験型プログラムの実施 ・特集陳列「親と子のギャラリー 日本美術のつくり方Ⅲ」など、総合文化展(平常展)に関連した一般向け及びファミリー向けのギャラリートークやアクティビティを実施する。 ・本館20室「みどりのライオン」において、ハンズオン体験コーナー「日本のもようでデザインしよう」を継続して実施する。 ・正月企画「博物館に初もうで」に関連して、ワークシートを用いたアクティビティを実施する。 ○教育的展示及びイベント「博物館でお花見を」(平成24年3月20日～4月15日)の実施 2) 3) (略)									
担当部課	学芸企画部博物館教育課			事業責任者	教育普及室長 伊藤信二				
【実績・成果】 (東京国立博物館) 1) 総合文化展鑑賞の手がかりとして、展示や作品に関連した企画実施を通じ、伝統文化の理解促進に寄与し、伝統文化への興味関心をより高めることができた。教育普及スペース「みどりのライオン」は、本館20室にて24年12月末まで計画通り実施し、その後工事による閉室に伴い規模を縮小して実施した。「みどりのライオン」の会場を本館20室から本館19室及び本館地下へ移動するための工事であり、再開時(25年度内の予定)には、展示室に近い本館地下にレクチャースペース、ワークショップスペース、かねてより要望の多い学校用ロッカー(予約制)を確保し、学校単位での利用等がより一層期待できるものである。 ○特集陳列「親と子のギャラリー 日本美術のつくり方Ⅲ」を実施し、本館の展示作品を「つくり方」という切り口で分かりやすく伝えることができた(24年7月24日～9月2日) ○体験型プログラムの実施 ・総合文化展関連の一般向け及びファミリー向けギャラリートークを4回実施した。(24年8月2日、10日、21日、31日) ・「みどりのライオン」は、24年4月1日より25年1月14日まで本館20室にて実施し、その後パネル展示のみを本館特別4室にて継続した。ハンズオン体験コーナー「日本のもようでデザインしよう」は24年12月23日まで実施し、その後は休止した。 ・正月企画「博物館に初もうで」関連のワークシートを用いたアクティビティを実施した。(25年1月2日、3日) ○「博物館でお花見を」(24年3月20日～4月15日)では会期中「花見で一句」には293の投句があり、6名が入選。また、鑑賞ガイド、スタンプラリー、ボランティアによるガイドツアーなどを関連事業として行った。 ○特別展の鑑賞手引きとしてジュニアガイドの制作、配布を行った。									
【補足事項】 ○本館20室でのアクティビティ、ワークショップ ・ハンズオン体験コーナー「日本のもようでデザインしよう」24年4月1日～12月23日 合計79,628人 ・ハンズオン体験コーナー「東博へび三昧・新春カードをデザインしよう・トーハク140周年すごろく25年1月2日・3日 3,008人 ○本館20室以外でのアクティビティ 総合文化展関連ワークショップ31回369人、特別展関連ワークショップ4回133人。 ・東洋館でのアクティビティ「アジアの占い」25年1月16日～									
 ギャラリートーク「4つの技法紹介」 (親と子のギャラリー「日本美術のつくり方Ⅲ」関連事業)									
【定量的評価】項目		24年度実績	目標値	評価	経年変化	20	21	22	23
—		—	—	—	—	—	—	—	—
総合評価	S (A) B C F (S、Fの理由)								
【中期計画記載事項】 学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等と連携協力しながら、講演会、作品解説、スクールプログラム、ワークショップ等の学習機会を提供する。また、参加者数についてはその都度、目標を設定する。									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					順調				

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(2) 教育活動の充実 ①学習機会の提供(2/3)								
【年度計画】 (4館共通) 1) キャンパスメンバーズ(学校法人会員制度)による大学等との連携を継続して実施する。 (東京国立博物館) 1) (略) 2) 学校との連携事業を推進する。 ・スクールプログラム(鑑賞支援・体験型プログラム等)を継続して実施する(小・中・高校生対象)。 ・職場体験の受け入れを継続して行う(中・高校生対象)。 ・全国高等学校美術・工芸教育研究会所属教員のための研修を継続して実施する。 ・教員鑑賞会・ガイダンスを継続して実施する。 3) (略)									
担当部課	総務部総務課 学芸企画部博物館教育課	事業責任者	課長 樋口理央 教育普及室長 伊藤信二						
【実績・成果】 (4館共通) 1) 国立博物館と大学等との連携を図り、歴史・伝統文化に対する理解促進に寄与し、博物館が所蔵する文化財を核とした学ぶ場を提供することができた。加入校数38校、団体利用を含み17,905名の学生が本制度を利用し入館した。 (東京国立博物館) 2) 学校との連携事業を計画通り実施した。 ・スクールプログラムを実施し、児童生徒に対し目的、学年、人数などに応じたプログラムを提供することで、充実した鑑賞体験の提供に寄与した。また、伝統文化への興味関心を高め、理解を促した。 ・職場体験として、26校86人を受け入れた。 ・全国高等学校美術・工芸教育研究会所属教員のための研修(共催:東京藝術大学)は24年7月25日～27日の3日間で開催し、39名が参加した。展示のみならず博物館への理解を深め、利用について検討するきっかけとなる研修を提供した。 ・教員鑑賞会・ガイダンスは5回実施し、計874人が参加した。									
【補足事項】 2) スクールプログラムでは、ガイダンス、鑑賞支援プログラム、体験型プログラムなど11のコースを設け、162校8,050人に対して実施した。また、大学生、専門学校生及び教育関連機関の見学対応を16校921人を対象に行った。									
									
スクールプログラム 「じっくり見る東博」実施の様子 (本館3室)									
【定量的評価】項目		24年度実績	目標値	評価	経年変化	20	21	22	23
キャンパスメンバーズ加入校数		38校	—	—		29	35	35	37
総合評価	S (A) B C F (S、Fの理由)								
【中期計画記載事項】									
学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等と連携協力しながら、講演会、作品解説、スクールプログラム、ワークショップ等の学習機会を提供する。また、参加者数についてはその都度、目標を設定する。									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調					

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(2) 教育活動の充実 ①学習機会の提供(3/3)								
【年度計画】 (4館共通) 1) (略) (東京国立博物館) 1) 2) (略) 3) 文化財について分かりやすく理解するための列品解説・月例講演会・記念講演会・連続講座・教育普及イベント等を継続して実施する。 (講演会等の目標) 参加者数 計7,830人(実施回数 計77回程度) ・講演会 参加者数3,500人(実施回数20回程度) ・列品解説等 参加者数4,000人(実施回数55回程度) ・連続講座 参加者数 250人(実施回数 1回程度) ・公開講座 参加者数 80人(実施回数 1回程度)									
担当部課	博物館教育課		事業責任者	教育講座室長 丸山士郎					
【実績・成果】 (東京国立博物館) 3) 文化財について分かりやすく理解するための列品解説・月例講演会・記念講演会・連続講座を継続して実施した。 参加者数 計13,193人(実施回数 計126回) ・講演会 参加者数6,952人(実施回数31回) うち月例講演会1,791人(12回)、記念講演会3,682人(12回)、テーマ別講演会1,051人(4回)、その他講演会428人(3回) ・列品解説等 参加者数 5,805人(実施回数90回) ・連続講座 参加者数 303人(実施回数1回) ・公開講座 参加者数 133人(実施回数4回)									
【補足事項】 ・その他展示に関連する事業4回・1,689人 24年5月15日 恩賜上野動物園・国立科学博物館連携事業 「上野の山でキリンめぐり」 30人 24年8月16日 特別展「青山杉雨の眼と書」関連 「書のデモンストレーション(席上揮毫会)」 385人 24年1月31日 特別展「書聖 王羲之」関連 「書のデモンストレーション(席上揮毫会)」 1,053人 25年3月9日 特別展「飛騨の円空一千光寺とその周辺の足跡」関連 芸大生の打楽器コンサート「木の声、森の音」 221人									
25年1月の列品解説 (会場：25年1月東洋館にオープン TNM&TOPPAN ミュージアムシアター)									
【定量的評価】項目		24年度実績	目標値	評価		20	21	22	23
うち	講演会等の参加者数	13,193人	7,830人	S	経 年 変 化	12,332	12,546	13,319	12,664
	実施回数	126回	77回	S		132	153	126	112
	講演会参加者数	6,952人	3,500人	S		7,134	5,600	9,290	8,224
	実施回数	31回	20回	S		29	24	39	32
	列品解説等参加者数	5,805人	4,000人	A		4,774	6,550	3,659	3,963
	実施回数	90回	55回	S		101	126	83	76
	連続講座参加者数	303人	250人	A		356	320	278	380
	実施回数	1回	1回	A		1	1	1	1
公開講座参加者数	133人	80人	S		68	76	92	97	
実施回数	4回	1回	S		1	2	3	3	
総合評価	S (A) B C F (S、Fの理由)								
【中期計画記載事項】 学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等と連携協力しながら、講演会、作品解説、スクールプログラム、ワークショップ等の学習機会を提供する。また、参加者数についてはその都度、目標を設定する。									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調					

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(2) 教育活動の充実 ①学習機会の提供(1/2)								
【年度計画】 (4館共通) 1) キャンパスメンバーズ(学校法人会員制度)による大学等との連携を継続して実施する。 (京都国立博物館) 1)～3) (略) 4) 小中学生向けに展示解説を行う「少年少女博物館くらぶ」を実施する。 5) 展示品解説シートとしての博物館ディクショナリーを作成し、館内で配布する。併せてメールマガジンでの配信を行う。									
担当部課	学芸部 総務課	事業責任者	教育室長 山川 暁 課長 植田義雄						
【実績・成果】 (4館共通) 1) キャンパスメンバーズを継続し、大学と連携(30校)した。 (京都国立博物館) 4) 小中学生向け展示解説「少年少女博物館くらぶ」を実施し、ワークシートを館内で常時配布した。(2回・85人) 5) 展示品解説シートとして博物館ディクショナリーを作成し、館内で配布、メールマガジンでの配信を行った。(1回) ・京都市内の小中学校へ高精細デジタル複製による美術品を題材とする訪問授業を行った(8回・参加児童613人) ・展覧会内容の理解を深めるための一般向け鑑賞ガイドを作成し、館内で配布した。(2回) ・「留学生の日」を実施した。(24年11月4日)									
【補足事項】 ・「少年少女博物館くらぶ」は、小中学生向けのギャラリー・トークとして、本年も特別展「大出雲展」にて実施した。 ・小中学校への訪問授業は、NPO法人京都文化協会、京都市教育委員会との連携事業であり、当館の学生ボランティアである文化財ソムリエが講師を担当している。 ・外国人留学生の「留学生の日」来館者は、同伴者を含め63名。「宸翰 天皇の書」展の観覧により文化財への理解を深める機会を提供し、留学生を通じて、日本の伝統文化への理解増進を行った。									
 少年少女博物館くらぶ									
【定量的評価】項目		24年度実績	目標値	評価	経 年 変 化	20	21	22	23
キャンパスメンバーズ加入校数		30校	—	—		29	30	29	30
小中学生向け鑑賞会 参加者数		85人	—	—		24人	19人	19人	75人
実施回数		2回	—	—		1回	1回	1回	2回
総合評価	S ㊤ B C F(S、Fの理由)								
【中期計画記載事項】									
学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等と連携協力しながら、講演会、作品解説、スクールプログラム、ワークショップ等の学習機会を提供する。また、参加者数についてはその都度、目標を設定する。									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					順調				

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(2) 教育活動の充実 ①学習機会の提供(2/2)								
【年度計画】 (4館共通) 1) (略) (京都国立博物館) 1) 展示・収蔵品に関連する講演会「土曜講座」を開催する。 2) 一般向け教育普及事業として「夏期講座」を開催する。 3) 京都市内4美術館・博物館連携の「京都ミュージアムズ・フォー連携講座」を行う。 4) 5) (略) (講演会等の目標) 参加者数 計2,760人(実施回数 計17回程度) ・土曜講座 参加者数2,000人(実施回数15回程度) ・夏期講座 参加者数 570人(実施回数1回(3日間)程度) ・「京都ミュージアムズ・フォー連携講座」 参加者数 190人(実施回数1回程度)									
担当部課	学芸部	事業責任者	教育室長 山川 暁						
【実績・成果】 (京都国立博物館) 1) 展示・収蔵品に関連する講演会「土曜講座」(16回・2,682人)及び記念講演会(1回・215人)を開催した。 2) 一般向け教育普及事業として「夏期講座(文学と美術Ⅲ)」を開催した。(24年8月1日～8月3日)(1回3日・213人) 3) 京都市内4美術館・博物館連携の「京都ミュージアムズ・フォー連携講座」を土曜講座と合同で開催した(1回・119人) ○「社会科教員のための向上講座」を実施した。(24年10月24日・40人)									
【補足事項】 ・土曜講座・夏期講座については、従来平常展示館講堂にて開催してきたところ、展示館建替工事のため、講堂も閉鎖され事業の継続が危ぶまれたが、学習機会の継続的な提供を続けるため、外部の施設を借りて実施した。 ・土曜講座は25年3月末現在で1,737回を数える当館の伝統的な普及活動で、参加者から高い評価を得ている。 ・夏期講座も例年東京などから泊まりがけで参加される聴講者も多数おり、見学会も合わせ好評を博している。 ・「社会科教員のための向上講座」については、京都市内の小中学校で社会科を担当する教員を対象として、講義と特別展のギャラリートークを行った。									
夏期講座 見学会風景									
【定量的評価】項目		24年度実績	目標値	評価		20	21	22	23
講演会等の参加者数		3,150人	2,480人(のべ2,760人)	A	経年変化	3,413	3,002	2,313	1,450
実施回数		19回	17回	A		37	21	17	15
うち土曜講座 参加者数		2,682人	2,000人	A		3,254	2,791	2,076	1,199
実施回数		16回	15回	A		36	19	15	13
うち記念講演会 参加者数		215人	—	—		—	—	—	—
実施回数		1回	—	—		—	—	—	—
うち夏期講座 参加者数		213人	190人(のべ570人)	A		159	179	205	193
実施回数		1回(3日間)	1回(3日間)	A		1	1	1	1
うち社会科教員のための向上講座		40人	—	—		—	32	32	58
実施回数		1回	—	—		—	1	1	1
(土曜講座の内数)「京都ミュージアムズ・フォー連携講座」参加者数		119人	190人	C	—	—	—	158	
実施回数		1回	1回	A	—	—	—	1	
総合評価	S (A) B C F(S、Fの理由)								
【中期計画記載事項】 学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等と連携協力しながら、講演会、作品解説、スクールプログラム、ワークショップ等の学習機会を提供する。また、参加者数についてはその都度、目標を設定する。									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					順調				



中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(2) 教育活動の充実 ①学習機会の提供 (1/2)								
【年度計画】 (4館共通) 1) キャンパスメンバーズ(学校法人会員制度)による大学等との連携を継続して実施する。 (奈良国立博物館) 1) 小中学校との連携 ・奈良県内の小中学校にメールマガジンを配信する。 ・奈良市内の公立小中学校に博物館だよりを送付する。 ・奈良市内の小学校5年生を中心に、幼稚園児から中学3年生までを対象に奈良市教育委員会と連携して世界遺産学習を実施する。 ・中学生の職場体験学習を受け入れる。 2) (略) 3) 奈良市教育委員会と連携して教員の研修を受け入れる。 4) 地下回廊のタッチパネル式学習端末機で名品のハイビジョン映像等を公開する。 5) 地下回廊で仏像模型及びパネルを用いて、文化財に関する情報を継続的に公開する。									
担当部課	総務課渉外室 学芸部教育室	事業責任者	総括専門職員 森継明広 室長 岩井共二						
【実績・成果】 (4館共通) 1) キャンパスメンバーズへの入会及び更新を積極的に進めてきた結果、本年度までで入会校数は27校、大学との連携を継続した。 (奈良国立博物館) 1) 小中学校との連携 ・奈良県内の小中学校222校に対してメールマガジンの配信を行った。 ・『奈良国立博物館だより』は、奈良市内の全小中学校への郵送配布を行った。 ・世界遺産学習事業は、奈良市内小学校5年生35校、合計2,428名に対して実施した。 ・中学生の職場体験を3校6人受け入れた。 3) 奈良市教育委員会と連携した教員への研修を8月26日に行い、150人の参加者を得た。 4) 地下回廊のタッチパネル式学習端末機で、収蔵品の中から名品の画像を公開した。 5) 地下回廊で仏像模型及びパネルを用いて、文化財に関する情報を継続的に公開した。									
【補足事項】  タッチパネル式学習端末機 (地下回廊)  仏像模型 (地下回廊)									
【定量的評価】項目		24年度実績	目標値	評価	経年変化	20	21	22	23
キャンパスメンバーズ加入校数		27校	—	—		25	27	28	28
総合評価	S (A) B C F (S、Fの理由)								
【中期計画記載事項】 学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等と連携協力しながら、講演会、作品解説、スクールプログラム、ワークショップ等の学習機会を提供する。また、参加者数についてはその都度、目標を設定する。									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					順調				

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(2) 教育活動の充実 ①学習機会の提供(2/2)								
【年度計画】 (4館共通) 1) (略) (奈良国立博物館) 1), 3)～5) (略) 2) 講座等の開催 ・仏教美術等に関するサンデートークを定期的を実施する。 ・特別展等に際してシンポジウム、フォーラム及び公開講座等を開催する。 ・一般向け教育普及事業として夏季講座を開催する。 ・特別陳列に因み、伝統的行事を体験する催しを実施する。 ・文化財保存修理所の一般公開を行い、文化財保存の意義についての啓蒙に努める。 (講演会等の目標) 参加者数 計2,600人(実施回数 計25回程度) ・特別展等講座 参加者数1,500人(実施回数12回程度) ・夏季講座 参加者数 500人(実施回数 1回程度) ・サンデートーク 参加者数 600人(実施回数12回程度)									
担当部課	学芸部教育室	事業責任者	室長 岩井共二						
【実績・成果】 (奈良国立博物館) 2) 講座等の開催 ・サンデートークは毎月第3日曜日に実施し、実績は12回、合計844人の参加があり、アンケート結果では85%の満足度が得られた。 ・公開講座は、3つの特別展及び3つの特別陳列の会期中に実施した。公開講座の実施回数は、合計15回、2,002人の参加があり、平均満足度は85%を得た。その他、特別展「解脱上人貞慶」に関連して「解脱上人 貞慶フォーラム」を実施した。 ・正倉院展に関連したシンポジウムは「正倉院学術シンポジウム2012 正倉院の近代～壬申検査から140年～」と題して24年11月4日に実施し、4人のパネラーにより基調講演と討論を行った。170人の参加を得、満足度は81%であった。 ・夏季講座は、今年は第41回目を迎え、奈良県新公会堂で開催した。「鎌倉時代の南都仏教」と題し、24年8月21日～23日の3日間に実施、講師は計9人、438人の参加があった。 ・特別陳列「お水取り」では、東大寺の協力のもと、「お水取り「講話」と「粥」の会」を25年2月10日に実施し、39人の参加があった。 ・文化財保存修理所の一般公開は、25年2月15日に3回実施し、計96人の参加があった。 ○講演会等の実績 総計29回・参加者3,454人 特別展等講座16回・参加者2,172人(うち公開講座15回・2,002人、シンポジウム1回・170人)、夏季講座1回(3日間)・参加者438人、サンデートーク12回・参加者844人									
【補足事項】  「解脱上人貞慶フォーラム」									
【定量的評価】項目		24年度実績	目標値	評価	経年変化	20	21	22	23
講演会等の参加者数		3,454人	2,600人	A		3,655	3,421	3,349	3,006
実施回数		29回	25回	A		32	33	28	28
うち特別展等講座参加者数		2,172人	1,500人	A		2,706	2,043	2,172	1,839
実施数		16回	12回	A		19	16	15	15
うち夏季講座 参加者数		438人	500人	B		362	391	556	522
実施回数		1回	1回	A		1	1	1	1
うちサンデートーク参加者数		844人	600人	A		587	584	621	645
実施数		12回	12回	A	12	11	12	12	
総合評価	S (A) B C F (S、Fの理由)								
【中期計画記載事項】 学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等と連携協力しながら、講演会、作品解説、スクールプログラム、ワークショップ等の学習機会を提供する。また、参加者数についてはその都度、目標を設定する。									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					順調				

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(2) 教育活動の充実 ①学習機会の提供(1/3)							
【年度計画】 (4館共通) 1) (略) (九州国立博物館) 1) 博物館における体験型事業の充実を図る。 ・教育普及ゾーンで活用する様々な教育キットの開発 ・幅広い層に向け体験活動の促進を図るため、教育活動の場を提供 ・アジア諸国の文化を理解する様々な体験学習プログラムの開発 2)～9) (略)								
担当部課	交流課	事業責任者	教育普及室主任研究員 進村真之					
【実績・成果】 (九州国立博物館) 1) 博物館における体験型事業を継続して実施した。 ・教育普及ゾーン（体験型展示室「あじっば」）で活用する様々な教育キットの開発を行った。 ・イベントや「茶道体験」等、幅広い層に向け体験活動の促進を図るため、教育活動の場を提供した。 ・体験型展示室「あじっば」にて、アジア諸国の文化を理解する様々な体験学習プログラムを実施した。								
【補足事項】 (九州国立博物館) 1) ・九州国立博物館の3次元プリンターを用いて、「貝輪・貝符をつけてみよう」のキットを制作した。 ・展示中の埋もれ木を題材とした布絵本「うもれぎくん」をボランティア中心に制作した。 ・夏休み子ども向けイベント「いこうよ！あじっば夏祭り」（24年7月28日、29日）を行い、「お面づくり」「拓本」「アジアの衣装体験」「コマづくり」等のコンテンツを提供した。 ・茶室にて茶道初心者に対して茶道体験を実施した。 （「親子で茶道体験」対象：小・中・高校生とその保護者、「はじめての茶道体験」対象：高校生以上 各月1回実施） ・体験型展示室「あじっば」における特集展示を行った。 （「アジアのまきまきファッション」、「芦屋釜のヒミツ」、「久留米餅」等） ・イベントの告知や体験の募集等を掲載した、「わくわく通信」を年間4回発行し、近隣の小学生に配布を行った。  体験型展示室「あじっば」								
【定量的評価】項目	24年度実績	目標値	評価	経年変化	20	21	22	23
—	—	—	—		—	—	—	—
総合評価	S (A) B C F (S、Fの理由)							
【中期計画記載事項】 学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等と連携協力しながら、講演会、作品解説、スクールプログラム、ワークショップ等の学習機会を提供する。また、参加者数についてはその都度、目標を設定する。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調				

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(2) 教育活動の充実 ①学習機会の提供 (2/3)								
【年度計画】 (4館共通) 1) キャンパスメンバーズ(学校法人会員制度)による大学等との連携を継続して実施する。 (九州国立博物館) 1) (略) 2) 学校教育との連携事業を実施する。 ・職場体験(中学生)の受け入れを実施 ・ジュニア学芸員(高校生)事業の実施 ・博物館活用の促進を図るため、教員研修の場の設置 ・学校貸出キット「きゅうぱっく」の貸し出しの実施 3)～8) (略) 9) 放送大学の面接授業を実施する。									
担当部課	総務課 交流課	事業責任者	課長 教育普及室主任研究員	阿部勝 佐藤茂史					
【実績・成果】 (4館共通) 1) キャンパスメンバーズ(学校法人会員制度)による大学等との連携を継続して実施した。 (九州国立博物館) 2) ・16校66名の中学生・高校生の職場体験を受け入れ、博物館の機能などについて体験した。 ・高校生「ジュニア学芸員」は、6校27名の参加を得て計8回の継続プログラムで実施した。 ・高等学校初任者研修に係わる体験活動研修を希望する高等学校教員2名に対し、3日間の体験研修を実施した。また、高等学校長期社会体験派遣研修員に係わる高等学校教員1名に対し、3ヵ月間の体験研修を実施した。 ・学校教育における「きゅうぱっく」及び博物館の活用に関する教員研修会を計4回実施した。 ・学校貸出キット「きゅうぱっく」の貸出を引き続き行い、56件の貸出を行った。 9) 放送大学の面接授業を実施した。(「美術工芸品に見る文化交流の諸相」24年11月10日、11日)									
【補足事項】 (4館共通) 1) 大学等との連携を継続させるため、今年度も募集、実施し、各教育機関(大学・短期大学・高校)が新規及び継続で入会した。 加入校内訳(大学13校、短期大学4校、専門学校1校、高等学校6校) ・会員校へ出張講義を実施した。(1校) ・会員校の学園祭に協賛した。(6校) ・会員校へ博物館体験型講義を実施した。(1校) ・特典の利用として文化交流展を4,102人、特別展を4,541人が観覧した。また、パスポートを2,054人(学生1,867人、教職員187人)が割引購入した。 ・会員校である筑紫台高等学校は、キャンパスメンバーズ制度を活用し、授業のカリキュラムに当館の特別展観覧を組み込んでいる。 (九州国立博物館) 2) ・出前講座・授業実践支援事業を行った。 学校で実施される「総合的な学習」等に対応し、学校に出向いて博物館の機能についての講義を行った。また、学校貸出キット「きゅうぱっく」を活用した授業に関して、交流課職員がチーム・ティーチングなどで活動のサポートを行った。									
【定量的評価】項目		24年度実績	目標値	評価	経年変化	20	21	22	23
キャンパスメンバーズ加入校数		24校	—	—		22	29	27	28
総合評価	S ㊤ B C F (S、Fの理由)								
【中期計画記載事項】 学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等と連携協力しながら、講演会、作品解説、スクールプログラム、ワークショップ等の学習機会を提供する。また、参加者数についてはその都度、目標を設定する。									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					順調				



職場体験(中学生)

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(2) 教育活動の充実 ①学習機会の提供(3/3)								
【年度計画】 (4館共通) 1) (略) (九州国立博物館) 1) 2) (略) 3) シンポジウムを開催する。 4) 特別展記念講演会を開催する。 5) 文化交流展、特別展に関連した教育普及事業を実施する。 6) ギャラリートークを随時実施する。 7) 文化施設等へ講師を派遣する。 8) 特別展の内容に親しみをもち、より良く理解するためのワークショップを開催するとともに、文化交流展示の内容とも連携した事業展開を行う。 9) (略) (講演会等の目標) 参加者数 計3,100人(実施回数計54回程度) ・特別展記念講演会 参加者数 600人(実施回数 4回程度) ・講演及びシンポジウム 参加者数1,300人(実施回数10回程度) ・ミュージアムトーク 参加者数1,200人(実施回数40回程度)									
担当部課	学芸部企画課	事業責任者	課長	小泉恵英					
【実績・成果】 (九州国立博物館) 3) 国際シンポジウム「あじわい尽くすベトナム」を開催した。(11月18日開催)(詳細は処理番号3214参照) 4) 今年度は特別展記念講演会を5回開催した。 5) 今年度は講演会等を45回開催し、連続講座も開催した。また、展示内容と連動したバスツアーを企画、開催し、好評を得た。 6) 定例のミュージアムトークを52回開催し、展示だけでは伝わらない博物館活動の内容を紹介し、好評を博している。 7) 文化施設等へ講師を派遣した。(福岡市 アクロス・文化学び塾等) 8) 文化交流展、特別展に関連した教育普及事業としてワークショップ等を行った。									
【補足事項】 (九州国立博物館) 8) ・特別展「平山郁夫」展では、日本画家を講師に招き、平山氏も訪れた太宰府天満宮をスケッチする、ワークショップ「みんなのスケッチ体験教室」を行った。 ・トピック展示「江戸の粋、印籠」では、江戸時代のおしゃれアイテムであった根付をオープン粘土で制作する、ワークショップ「親子のための根付ワークショップ」を行った。  ワークショップ 「みんなのスケッチ体験教室」									
【定量的評価】項目		24 年度実績	目標値	評価		20	21	22	23
講演会等の参加者数		8,354 人	3,100 人	S	経年変化	5,507	6,806	3,996	7,833
実施回数		102 回	54 回	S		56	73	64	89
うち特別展記念講演会	参加者数	966 人	600 人	S		2,670	1,622	1,410	1,500
	実施回数	5 回	4 回	A		11	6	9	7
うち講演及びシンポジウム	参加者数	4,918 人	1,300 人	S		1,741	3,899	1,266	4,592
	実施回数	45 回	10 回	S		8	25	11	39
うちミュージアムトーク	参加者数	2,470 人	1,200 人	S		1,096	1,285	1,320	1,741
	実施回数	52 回	40 回	A		37	42	44	43
総合評価	S ① B C F(S、Fの理由)								
【中期計画記載事項】 学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等と連携協力しながら、講演会、作品解説、スクールプログラム、ワークショップ等の学習機会を提供する。また、参加者数についてはその都度、目標を設定する。									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					順調				

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(2) 教育活動の充実 ②-1 ボランティア活動の支援								
【年度計画】 (東京国立博物館) 1) 館内案内、各種教育事業及びイベント等の補助活動、館内案内等の充実を図る。 2) 点字パンフレット、触知図、盲学校対応プログラム等による視覚障がい者対応、手話やコミュニケーションボード等による聴覚障がい者への博物館案内等、バリアフリー活動を実施する。 3) 自主企画グループによる各種ガイドツアー等を継続して実施する。 4) ボランティアの自主性を活かし、ボランティアデーなどにおいてボランティアの企画立案によるプログラムの充実を図る。 5) 東京藝大学学生ボランティアによる活動を継続して実施する。									
担当部課	学芸企画部博物館教育課	事業責任者	ボランティア室長 鈴木みどり						
【実績・成果】 (東京国立博物館) 1) 館内各所での案内・みどりのライオン体験コーナー・紹介コーナー、東洋館オアシスでの活動、職場体験の補助の他、イベント班とワークショップ班による、年間を通した各種イベント・ワークショップの補助活動を実施。また、各活動実施のための研修会・解説会を実施した。 2) 通年で触知図やコミュニケーションボード等を用いたバリアフリー活動を実施。バリアフリー対応班により、盲学校を含む視覚障害者対応、点字パンフレットの印刷、自主企画グループにより手話通訳付きのガイドを実施した。 3) 全13の自主企画グループによるガイドツアー等の活動を実施し、新たに2グループの立ち上げ準備を行った。また、研究員による、ボランティア活動のための研修会を実施した。 4) 通常の自主企画グループの活動の他に留学生の日・ボランティアデー・博物館でお花見をなどでの活躍の場を設け、より自主性を持った活動を行えるよう支援した。また、ボランティアデーではボランティア活動 PR 隊を募集し、ボランティアの企画立案によるボランティア活動紹介を実施した。 5) 総合文化展の作品解説をするギャラリートーク班 5 人と、制作工程模型班 1 人による活動を行った。									
【補足事項】 1) 教育普及事業の補助活動では、25 年 1 月から東洋館オアシスの体験コーナーを開始するため、東洋館解説会、体験コーナー運営のための研修を実施した。 2) バリアフリー活動として、点字パンフレットを 28 冊作成、手話通訳付きガイドツアーとして「たてもの散歩ツアー」(隔月 1 回、全 7 回)、「本館ハイライトツアー」(全 4 回)を実施した。 3) ・各自主企画グループ及びボランティア活動 PR 隊のガイド・ツアー等を実施した。(461 回 13,878 人) ・自主企画グループによるガイドツアーとして、13 グループ(樹木ツアー、浮世絵ガイド、本館ハイライトツアー、法隆寺宝物館ガイド、考古展示室ガイド、陶磁ガイド、庭園茶室ツアー、お茶会、彫刻ガイド、英語ガイド、こどもたちのアートスタジオ、たてもの散歩ツアー、たんけんマップツアー)が活動した。また、新たに近代美術ガイド、東洋館ツアーの立ち上げを準備した。 ・生涯学習ボランティアに対する研修を行った。(52 回、解説会 10 回) 5) 東京芸術大学学生ボランティア制作工程模型班は平成 23・24 年度 2 ヶ年での活動としており、24 年度は完成した制作工程模型の展示及び関連の教育普及事業を実施した。(ギャラリートーク 7 回・ワークショップ 1 回) 同ボランティアギャラリートーク班は、総合文化展の作品解説を実施した。(ギャラリートーク 29 回)									
【定量的評価】項目		24 年度実績	目標値	評価	経年変化	20	21	22	23
ボランティア数		170 人	—	—	年 変 化	171	163	159	169
うち生涯学習ボランティア登録者数		164 人	—	—		164	155	152	163
うち東京芸術大学学生ボランティア数		6 人	—	—		7	8	7	6
総合評価	S (A) B C F (S、F の理由)								
【中期計画記載事項】 教育活動の充実に寄与するようボランティアを支援する。また、企業との連携や友の会活動の活性化に等により博物館支援者の増加を図る。									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					順調				



生涯学習ボランティアによる「触知図」を使った館内案内とバリアフリー活動

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(2) 教育活動の充実 ②-1 ボランティア活動の支援								
【年度計画】 (京都国立博物館) 1) 調査・研究支援ボランティアを受け入れ、各種事業活動の充実を進める。 2) 大学生・大学院生ボランティアを育成し、小中学校への訪問授業を実施する。 3) 「京都・らくご博物館」において、大学生をボランティアとして起用する。									
担当部課	学芸部	事業責任者	教育室長 山川 暁						
【実績・成果】 (京都国立博物館) 1) 収蔵品調査及び社寺調査の補助のため、調査・研究支援ボランティアを受け入れた。(21人) 2) ・京都市内の小中学校への訪問授業等を実施した。(8回) ・大学生・大学院生ボランティア「文化財ソムリエ」を対象としたスクーリングを実施した。(20回) 3) 「京都・らくご博物館」において、大学生をボランティアとして起用した。									
【補足事項】 1) 各研究員の指導のもと、調査・研究支援ボランティアが収蔵品調査及び社寺調査の補助を行った。 2) 「文化財ソムリエ」として登録している大学生・大学院生のボランティアが、当館研究員によるスクーリングを受けたのち、京都市内の小中学校訪問授業において下記の通り講師を務めた。 6月29日 二条城北小学校 7月17日 南大内小学校 9月6日 嵯峨野小学校 10月10日 松ヶ崎小学校 11月6日 竹田小学校 11月19日 第四錦林小学校 12月3日 安朱小学校 12月12日 北野中学校									
									
文化財ソムリエによる訪問授業									
【定量的評価】 項目		24 年度実績	目標値	評価		20	21	22	23
ボランティア数		45 人	—	—	経 年 変 化	30	35	40	64
うち京都橘大学学生によるアンケートボランティア数		—	—	—		24	18	18	18
うち調査・研究支援ボランティア数		21 人	—	—		6	10	15	22
うち文化財ソムリエ数		16 人	—	—		—	7	7	14
うちらくご博物館学生ボランティア数		8 人	—	—		—	—	—	10
総合評価	S (A) B C F (S、Fの理由)								
【中期計画記載事項】 教育活動の充実に寄与するようボランティアを支援する。また、企業との連携や友の会活動の活性化に等により博物館支援者の増加を図る。									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。		順調							

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(2) 教育活動の充実 ②-1 ボランティア活動の支援								
【年度計画】 (奈良国立博物館) 1) ボランティア新制度発足により、世界遺産グループ、解説グループ、サポートグループの各グループで新たな制度に基づく活動をスタートさせる。 2) ボランティアの資質向上を目的に、研修を実施する。 3) 勉強会等によって、ボランティア同士のグループ別学習の充実を図る。									
担当部課	ボランティア室	事業責任者	室長 清水 功						
【実績・成果】 (奈良国立博物館) 1) ボランティアの新制度発足に伴い新たにボランティアを公募し、書類選考、面接等を経て126人（24年4月時点。25年3月末現在の登録数は121人）を採用し、世界遺産グループ、解説グループ、サポートグループの3つに分かれて4月から活動を始めた。奈良市教育委員会との連携により、世界遺産学習として奈良市の35校の小学5年生（2,428人）を受け入れた。受け入れるにあたって、担当ボランティア（世界遺産グループ）の解説指導と誘導のトレーニングを実施した。 2) ボランティア全員に対して、名品展研修を毎月実施し、また特別展、特別陳列の開催ごとに展覧会担当者による展示内容の研修を実施した。ボランティア全員に全ての展覧会図録を配布し、解説と自己鍛錬のための学習資料とした。正倉院展の会期中に、ボランティアによる講堂解説を実施した。この事業に関しては、教育室がスライド資料と原稿を作成し、ボランティア室が約1ヵ月間の練習の立会と指導をした。 3) ボランティアのグループ別に、毎月の勉強会を実施し、運営の指導に当たった。ボランティアによる自主企画プログラムの企画立案にあたり、学芸部や総務課の協力を得ながら、ミーティングの立会と指導をし、プログラムを実施した。									
【補足事項】 1) ・新制度発足に伴い、規則や活動注意等を記載したボランティアハンドブックを作成し、ボランティア全員に配布した。 ・世界遺産学習では、ボランティアが講堂でスライド学習を30分、引き続いて、なら仏像館で展示案内30分の合計1時間のプログラムを行った。 2) ・ボランティア間の通信誌「ぶりっじ」を、2ヵ月ごとに発行した。 3) ・ボランティアの企画立案による夏休み特別企画を8月に、「茶室庭園案内ツアー」を10月と11月の2回実施した。 ・特別陳列「古事記の歩んできた道」のツアー解説を6月に、なら仏像館の「ミニツアー解説」を8月に、特別陳列「お水取り」のツアー解説を25年3月に、それぞれ実施した。 ・ボランティア間の交流と研修を兼ねて、寺社見学会を25年2月と3月に計3回実施した。 ・名品展講堂解説のためのスライドと原稿を、ボランティア室指導のもとに作成した。									
									
ボランティア活動風景									
【定量的評価】項目		24年度実績	目標値	評価	経年 変化	20	21	22	23
ボランティア数		121人	—	—		102	98	85	87
うち世界遺産グループ数		42人	—	—		—	—	—	—
うち解説グループ数		43人	—	—		—	—	—	—
うちサポートグループ数		36人	—	—		—	—	—	—
総合評価	S (A) B C F (S、Fの理由)								
【中期計画記載事項】 教育活動の充実に寄与するようボランティアを支援する。また、企業との連携や友の会活動の活性化に等により博物館支援者の増加を図る。									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調					

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(2) 教育活動の充実 ②-1 ボランティア活動の支援							
【年度計画】 (九州国立博物館) 1) ボランティアを受け入れ、展示解説部会、教育普及部会、館内案内部会(日本語、英語、中国語、韓国語)、環境部会、イベント部会、資料整理部会、サポート部会、学生部会の充実を図る。 2) ボランティアに対し資質向上を目的に基礎研修・専門研修を実施する。 3) ボランティア同士のグループ別学習の充実を図る。								
担当部課	交流課	事業責任者	ボランティア室主任研究員 上野知彦					
【実績・成果】 (九州国立博物館) 1) 第3期ボランティアを中心とした主体的な活動を重視することによって、活動意欲の向上、活動の活性化・充実、そして市民視点の活動の創造等が行われた。 2) ボランティア自身の企画・実施による研修等を積極的に実施することで、活動の資質の向上や活性化、発展が行われた。 3) イベントやワークショップ等の実施においては、ボランティアの主体性・自主性を尊重した取り組みを行った。								
【補足事項】 1) ・活動の中心が第2期ボランティアから第3期ボランティアとスムーズに移行し、開館以来の活動に加え、新たな視点・思いによる活動が加わり、活動の発展や充実が計られた。 ・各期ボランティア数 第2期ボランティア(20年4月より活動)数 124名 第3期ボランティア(23年4月より活動)数 184名 ・通常の活動においては、1日平均30～40名、1ヵ月平均のべ1,000名前後のボランティアが、主に午前と午後に分かれて活動。約6割のボランティアが週1回程度で活動。 ・日常の活動は、館内案内、あじっば(体験型展示室)における活動のサポート、文化交流展示室の解説案内、博物館内のI P M活動。土日を中心とした手話通訳による案内。 [ボランティア対応数](事前申込・当日受付の総数) 展示解説: 10,568名 館内案内(含手話): 6,854名 バックヤード: 2,842名 2) ・活動の活性化・発展・創造やボランティアの資質向上を目的に、ボランティア自身の意向に沿った研修や館外研修(視察・交流等)を実施した。 [主な研修] 障がい者接遇・英語解説講座・古代韓国歴史講座・古文書講座・I P M関連講座 [主な館外研修先] 壱岐市立一支国博物館・下関市立長府博物館・下関市立烏山民俗資料館 大分市美術館・熊本県立装飾古墳館・芦屋釜の里・宗像大社宝物館 等 3) ・企画から実施まで、全てボランティアに担わせることで、イベントやワークショップのみならず、通常の活動においてボランティア自身や部会(グループ)の主体性や自主性を高めることができた。 [実施したイベント等] 入館者1000万人達成記念関連イベント「きゅうはくまつり」(24年10月) 東日本大震災関連パネル展「福島からのげんき」(24年10月) 七夕飾り(24年8月)・餅つき(25年1月)・書き初め(25年1月)								
【定量的評価】項目	24年度実績	目標値	評価		20	21	22	23
ボランティア数	308人	—	—	経年変化	388	345	288	355
うち展示解説ボランティア数	77人	—	—		85	68	63	84
うち教育普及ボランティア数	41人	—	—		70	62	53	48
うち館内案内ボランティア数	29人	—	—		37	34	32	31
うち外国語通訳ボランティア数	69人	—	—		77	71	53	89
うち環境ボランティア数	35人	—	—		36	32	28	38
うちイベントボランティア数	6人	—	—		13	11	10	10
うち資料整理ボランティア数	19人	—	—		19	19	18	20
うちサポートボランティア数	23人	—	—		30	29	19	25
うち学生ボランティア数	9人	—	—		21	19	12	10
総合評価	S (A) B C F(S、Fの理由)							
【中期計画記載事項】 教育活動の充実に寄与するようボランティアを支援する。また、企業との連携や友の会活動の活性化に等により博物館支援者の増加を図る。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調				



視覚障がい者対応の様子
(3Dコピー装置での出力物に触れる)



入館者1000万人達成記念関連イベント「きゅうはくまつり」

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(2) 教育活動の充実 ②-2 博物館支援者の増加							
【年度計画】								
(4館共通)								
企業との連携及び友の会活動等の会員制度の活性化を図る。								
1) 会員制度によるリピーターの拡大に努める。								
2) 会員制度利用者を対象とした事業を実施する。								
3) 企業等と連携し、広報活動やイベントによる博物館の認知度向上に努める。								
4) 公共交通機関等とのタイアップによる広報の充実に努める。								
5) 展覧会事業への企業からの各種支援（協賛・協力）を募る。								
(東京国立博物館・奈良国立博物館)								
1) 賛助会員制度の継続・拡充を図る。								
2) 地域、企業との連携・拡充を図る。								
担当部課	総務部総務課	事業責任者	課長 樋口理央					
【実績・成果】								
(4館共通)								
1) 入会時のプレゼント、イベント料金の割引を実施した。								
2) 賛助会会員を対象に、感謝会ならびに特別展毎に特別鑑賞会を開催した。								
3) 地域との連携、PRにより認知度向上に努めた。								
4) JR、地下鉄など総合文化展、特別展のポスターの掲示に協力を図るなど、広告活動に努めた。また、上野ミュージアムウィークでは、そのPRとして山手線内各駅を中心に首都圏の駅への冊子の配置についてJRに協力いただいた。								
5) 特別展「ボストン美術館 日本美術の至宝」において、三菱商事株式会社と共催で「障がい者内覧会」を実施した。								
(東京国立博物館・奈良国立博物館)								
1) 企業へのPR活動を積極的に行い、新規会員を増加させた。								
2) ・日本大学共催で「柳瀬荘アート・教育プロジェクト」を開催した。								
・上野ミュージアムウィーク（上野のれん会との共催）、上野の山文化ゾーンフェスティバル（台東区との共催）及び東京・春・音楽祭（東京・春・音楽祭実行委員会との共催）等、地域連携事業に参加した。								
【補足事項】								
(4館共通)								
1) 継続案内を積極的に行い、リピーターの拡大に努めた。								
3) 特別展におけるマスコミ各社との共催の他、上野のれん会、上野法人会、上野の山文化ゾーン連絡協議会等に参加し、共同事業の実施や、PR活動への協力を得るなどして、博物館活動の理解向上に努めた。								
4) 当館 140 周年記念事業にあわせ、JR 東日本創立で記念事業「鉄道開業 140 周年記念 今昔クイズ散歩」に協力した。								
5) その他、キャノン株式会社、J-WAVE、株式会社東京美術等から 140 周年記念事業他様々なイベントへの協力を得た。								
(東京国立博物館・奈良国立博物館)								
1) 賛助会顕彰板の前にパンフを設置するなど、個別に制度の紹介をするなどした結果、個人維持会員加入者が増加した。(23 年度から 31 人増)								
2) ・日本大学芸術学部との共催で所沢市教育委員会等の後援により「柳瀬荘アート・教育プロジェクト」を開催した。(24 年 10 月 18 日～11 月 11 日)								
・企業などへ個別訪問することにより、賛助会参加の企業が増加した。(23 年度から 9 団体増)								
 上野ミュージアムウィーク パンフレット								
【定量的評価】項目	24 年度実績	目標値	評価		20	21	22	23
友の会会員数	1,570 人	—	—	経年 変化	1,913	2,085	1,412	1,802
パスポート会員数	16,569 人	—	—		20,405	21,598	13,733	17,672
賛助会員数	332 件	—	—		196	218	235	292
うち特別会員数	20 団体	—	—		13	16	16	19
うち維持会員数(団体)	43 団体	—	—		26	24	28	35
(個人)	269 人	—	—		157	178	191	238
総合評価	S (A) B C F (S、F の理由)							
【中期計画記載事項】								
教育活動の充実に寄与するようボランティアを支援する。また、企業との連携や友の会活動の活性化に等により博物館支援者の増加を図る。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調				

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(2) 教育活動の充実 ②-2 博物館支援者の増加							
【年度計画】 (4館共通) 企業との連携及び友の会活動等の会員制度の活性化を図る。 1) 会員制度によるリピーターの拡大に努める。 2) 会員制度利用者を対象とした事業を実施する。 3) 企業等と連携し、広報活動やイベントによる博物館の認知度向上に努める。 4) 公共交通機関等とのタイアップによる広報の充実に努める。 5) 展覧会事業への企業からの各種支援（協賛・協力）を募る。 (京都国立博物館・奈良国立博物館) 1) 支援団体等が行う文化財の鑑賞会・見学会等に協力する。								
担当部課	総務課 学芸部	事業責任者	課長 連携協力室長	植田義雄 山下善也				
【実績・成果】 (4 館共通) 1) 「友の会」事業（24年4月より「パスポート」へ名称変更）を継続し、リピーターの拡大に努めた。 2) 「友の会」会員（24年4月より「パスポート」へ名称変更）を対象とした事業を実施した。 3) 企業等と連携し、広報活動やイベントによる博物館の認知度向上に努めた。 4) 公共交通機関等とのタイアップによる広報の充実に努めた。 5) 22年度に設置した「ミュージアム・パートナー」制度について引き続き周知している。 (京都国立博物館・奈良国立博物館) 1) 支援団体(社団法人清風会)が行う鑑賞会(4回)・見学会(5回)・会報(4回)の解説・執筆及び、総会の開催に協力した。 また、地域・機関との連携事業に協力した。								
【補足事項】 (4 館共通) 1) 24 年 4 月より、機構内で統一するため、「友の会」から「パスポート」へ名称変更した。 2) 「パスポート」会員が当館ミュージアムショップにおいて、「パスポート」会員カードを提示すると、商品(書籍・グッズ等)が 10%引きで購入できる等の特典がある。 3) ・毎週木曜に当館の展覧会やイベント等の情報をラジオ(FMCOCOLO)にて配信し、当館の認知度向上につながった。 ・人間国宝 桂米朝氏の所属している米朝事務所の制作協力による「京都・らくご博物館」を実施した。平常展示館建替中に伴い、今年度は2回実施した。 ・全館休館期間中に、アメリカンエクスプレス会員を対象に茶会を開催し、文化財保護基金の周知につとめた。 ・全館休館期間中に、ROSSO×ROSSO 実行委員会が主催、当館が共催で「古代青銅鏡とフェラーリ F1 美の競演」を開催し、大盛況であった。(詳細は処理番号 4512-4-7 を参照) 4) ・全館休館期間中に、京阪電気鉄道株式会社の特別協力による音楽イベント「音燈華」を庭園を利用して開催した。武田高明氏の燈火による演出のもと、DEPAPEPE(デパペペ)が音楽を奏で、大盛況であった。 (京都国立博物館・奈良国立博物館) 1) ・「京都市内 4 館連携協力協議会」では、京都国立近代美術館、京都市美術館、京都文化博物館、京都国立博物館の 4 館が連携し、広報のための合同パンフレットを 67,000 部製作、連携講座やスタンプラリーを実施するなど事業内容の充実に努めるとともに、「友の会」の相互協力を行った。 ・京都市内博物館施設連絡協議会、第 27 回国民文化祭京都市実行委員会の行う広報活動やイベント事業への協力を行った。								
【定量的評価】項目	24 年度実績	目標値	評価	経年 変化	20	21	22	23
パスポート会員数	3,064 人	—	—		2,932	2,612	2,468	2,667
ミュージアム・パートナー会員数	— 件	—	—		—	—	1	2
清風会会員数	353 人	—	—		388	389	391	373
うち賛助会員数	33 人	—	—		34	31	34	34
うち特別会員数	60 人	—	—		67	63	61	61
うち普通会員数	260 人	—	—	287	295	296	278	
総合評価	S (A) B C F (S、F の理由)							
【中期計画記載事項】 教育活動の充実に寄与するようボランティアを支援する。また、企業との連携や友の会活動の活性化に等により博物館支援者の増加を図る。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調				

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(2) 教育活動の充実 ②-2 博物館支援者の増加							
【年度計画】(4 館共通) 企業との連携及び友の会活動等の会員制度の活性化を図る。 1) 会員制度によるリピーターの拡大に努める。 2) 会員制度利用者を対象とした事業を実施する。 3) 企業等と連携し、広報活動やイベントによる博物館の認知度向上に努める。 4) 公共交通機関等とのタイアップによる広報の充実に努める。 5) 展覧会事業への企業からの各種支援(協賛・協力)を募る。 (東京国立博物館・奈良国立博物館) 1) 賛助会員制度の継続・拡充を図る。 2) 地域、企業との連携・拡充を図る。 (京都国立博物館・奈良国立博物館) 1) 支援団体等が行う文化財の鑑賞会・見学会等に協力する。 (奈良国立博物館) 1) 支援団体等との連携により施設を活用したイベント等を実施し、博物館支援の輪を広げる。 2) 支援団体等と連携し、展覧会の充実に努める。								
担当部課	総務課渉外室		事業責任者	総括専門職員 森継明広				
【実績・成果】(4 館共通) 1) パスポート会員 会員数 2,486 人(一般 2,397 人、学生 65 人、家族 24 人) 2) 会員に夏季講座を優先的に受講できるようにした。 3) 株式会社日本香堂提供のラジオ番組で、展覧会のPRを行った。 4) 西日本旅客鉄道株式会社、近畿日本鉄道株式会社、阪神電気鉄道株式会社とタイアップし、特別展の広報を行った。 5) 他の主催者と連携し、企業等からの協賛・協力を募った。 (東京国立博物館・奈良国立博物館) 1) 賛助会員 29 団体 39 人(特別支援会員:5 団体、特別会員:5 団体、一般会員(個人):39 人、(団体):19 団体) 2) 観光関連業界と連携し顧客層の開拓を行った。 奈良の観光イベント「ムジークフェストなら2012」、「ライトアッププロムナード・なら2012」、「なら燈花会」、「ならファンタジア YAMATO 新話」、「なら瑠璃絵」に対して協力した。 (京都国立博物館・奈良国立博物館) 1) 支援団体等が主催する講演会等に会場を提供した。 (奈良国立博物館) 1) 支援団体等が主催する展覧会の解説付の鑑賞会の実施に協力した。 2) 特別展の実施に際して企業等からの協力金を得て特別展の充実に努めた。								
【補足事項】 - 前年度(24 年 1 月)から機構内統一のため、友の会カードの名称をパスポートに変更した。 - 賛助会員に対する特別観賞会を実施するなど、あらゆる機会を通じて会員獲得に対する努力を行った。								
								
ムジークフェストなら 2012			ならファンタジア YAMATO 新話			株式会社日本香堂の寄附により作成した『仏像を観る』表紙		
【定量的評価】項目	24 年度実績	目標値	評価		20	21	22	23
パスポート会員数	2,486 人	—	—	経 年 変 化	2,815	2,799	3,180	2,615
賛助会員数	68 件	—	—		49	56	64	65
うち特別支援会員数	5 団体	—	—		6	5	4	5
うち特別会員数	5 団体	—	—		1	2	4	5
うち一般会員数	58 件	—	—		42	49	56	55
総合評価	S (A) B C F (S、F の理由)							
【中期計画記載事項】								
教育活動の充実に寄与するようボランティアを支援する。また、企業との連携や友の会活動の活性化に等により博物館支援者の増加を図る。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調				

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(2) 教育活動の充実 ②-2 博物館支援者の増加								
【年度計画】 (4館共通) 企業との連携及び友の会活動等の会員制度の活性化を図る。 1) 会員制度によるリピーターの拡大に努める。 2) 会員制度利用者を対象とした事業を実施する。 3) 企業等と連携し、広報活動やイベントによる博物館の認知度向上に努める。 4) 公共交通機関等とのタイアップによる広報の充実に努める。 5) 展覧会事業への企業からの各種支援（協賛・協力）を募る。 (九州国立博物館) 1) 近隣地域の諸団体や支援団体等と連携したイベントの実施及び広報活動の充実に努める。									
担当部課	総務課 広報課 交流課	事業責任者	課長 阿部勝 課長 梶村正年 事務主査 藤崎秀典						
【実績・成果】 (4館共通) 1) 「友の会」等の会員制度を継続して実施した。 2) 「友の会」会員を対象に、季刊情報誌「アジアージュ」、トピック展示チラシ等の送付を行った。 3) 企業等と連携し、広報活動を行った。 4) 特別展においては、公共交通機関等とのタイアップにより広報活動を実施した。 5) 展覧会事業への企業からの各種支援を得た。 (九州国立博物館) 1) 支援団体や近隣地域と連携したイベントを実施し、広報活動の充実に努めた。									
【補足事項】 (4館共通) 3) 「江戸の粋、印籠 フィンランド・クレスコレクション」のCMを映画館（ワーナーマイカルシネマズ＜大野城・筑紫野・福岡・戸畑・熊本＞）とテレビで放映した。 4) トピック展示・特別展においては、JR、西鉄電車とのタイアップにより広報活動を実施した。 (九州国立博物館) 1) 支援団体や近隣地域と連携したイベント ・館内ボランティアや九州国立博物館を愛する会と協力して「九博こどもフェスタ」を開催した。また同時に周辺小学校の協力を得て、「筑紫地区児童画展」を実施した。 ・福岡女子短期大学（太宰府市）と連携して館内のカフェで定期的にコンサートを実施した。 ・開館以来、7年連続で国の重要無形文化財である博多祇園山笠の飾り山をエントランスホールで展示した。この事業は、西日本新聞社と九州国立博物館振興財団との共同事業として実施した。 ・内容を勘案した上で、自治体等が主催するイベントを受け入れ、各団体との連携を強化した。これらの様々なイベントの実施により来館者へのサービスが促進された。 ・支援団体である九州国立博物館を愛する会、観光協会への内覧会を行った。									
【定量的評価】項目		24年度実績	目標値	評価	経年変化	20	21	22	23
友の会会員数		196 人	—	—	年 変 化	154	206	144	117
パスポート会員数		4,224 人	—	—		3,120	3,914	3,318	3,093
総合評価	S (A) B C F (S、Fの理由)								
【中期計画記載事項】 教育活動の充実に寄与するようボランティアを支援する。また、企業との連携や友の会活動の活性化に等により博物館支援者の増加を図る。									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調					



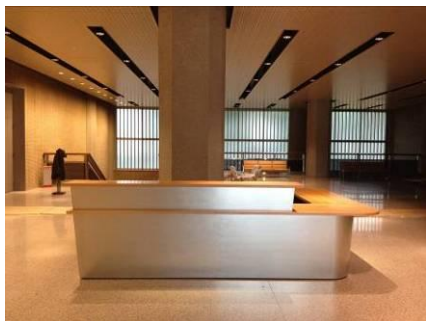
飾り山笠

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(2) 教育活動の充実 ③大学との連携								
【年度計画】 (東京国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館) 1) インターンシップを継続して実施する。 (東京国立博物館) 1) 東京藝術大学との連携事業を継続して実施する(大学院生対象)。 2) キャンパスメンバーズへの教育連携事業を実施する。									
担当部課	学芸企画部博物館教育課	事業責任者	教育普及室長 伊藤信二 ボランティア室長 鈴木みどり						
【実績・成果】 (東京国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館) 1) 博物館学芸員を目指す学生の学習意欲の喚起及び高い職業意識の育成を目的として、大学院生を対象にインターンシップを募集し、17 大学 23 名を受け入れた。それぞれ学芸研究部・学芸企画部の 10 部署で 10～30 日間の活動を行った。 (東京国立博物館) 1) 東京芸術大学の学生ボランティアを募集し、ギャラリートーク班5名、制作工程模型班1名が活動した。ギャラリートーク班では大学院生と当館研究員が連携して準備を行い、総合文化展の解説を行った。制作工程模型班では館蔵の国宝「紅白芙蓉図」の制作工程模型の展示・教育普及事業(ギャラリートーク・ワークショップ)を行った。 2) キャンパスメンバーズ加入校の学生を対象に、博物館の歴史、保存修復、博物館情報、教育普及事業等について当館の職員が実例を交えた解説を実施。また、キャンパスメンバーズ加入校の学芸員志望学生を対象として、作品の取り扱い等博物館実務全般について演習・実習を実施した。(詳細は処理番号 2211-2 及び統計表 2-(2)-②を参照)									
【補足事項】 (東京国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館) 1) インターンシップ ・インターンシップの募集は、近隣の 60 大学への郵送による通知の他、全国あるいは国外からも応募できるようにウェブサイトでも行った。 ・インターンシップ受入部署 学芸研究部 平常展調整室、東洋室、保存修復課 学芸企画部 教育普及室、教育講座室、ボランティア室、情報管理室、情報資料室、デザイン室、広報室 (東京国立博物館) 1) 東京芸術大学学生ボランティア ・東京芸術大学学生ボランティアギャラリートーク班によるギャラリートーク 29 回 参加人数 1,094 人 ・東京芸術大学学生ボランティア制作工程模型班による活動 制作工程模型「国宝『紅白芙蓉図』ができるまでー東洋絵画の絵具の秘密ー」 展示：24 年 5 月 15 日～25 年 1 月 14 日 ギャラリートーク：7 回 参加人数 185 人 ワークショップ：1 回 参加人数 27 人									
					東京芸術大学学生ボランティアによる制作工程模型のギャラリートーク				
【定量的評価】	項目	24 年度実績	目標値	評価	経年変化	20	21	22	23
	—	—	—	—		—	—	—	—
総合評価	S (A) B C F (S、F の理由)								
【中期計画記載事項】 大学との連携事業、各種セミナー、インターンシップ等の実施を通じて人材育成に寄与する。									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調					

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(2) 教育活動の充実 ③大学との連携								
【年度計画】 (京都国立博物館) 1) 京都大学大学院人間・環境学研究科の歴史文化社会論講座を担当する。									
担当部課	学芸部	事業責任者	上席研究員 赤尾栄慶						
【実績・成果】 (京都国立博物館) 1) 京都大学大学院人間・環境学研究科の歴史文化社会論講座では、研究員 6 人が客員教授(4 人)、准教授(2 人)を担当し、博士前期・後期課程の学生に対して、実作品の展示・調査活動を通じた専門的な教育を行った。									
【補足事項】 ・客員教授 4 人、客員准教授 2 人で、8 科目の授業を担当し、講座に所属する大学院生 6 人及び授業に登録している数名の学生に、実際の文化財を教材にしながら、研究指導を行った。									
【定量的評価】項目		24 年度実績	目標値	評価	経 年 変 化	20	21	22	23
—		—	—	—		—	—	—	—
総合評価	S (A) B C F (S、F の理由)								
【中期計画記載事項】 大学との連携事業、各種セミナー、インターンシップ等の実施を通じて人材育成に寄与する。									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					順調				

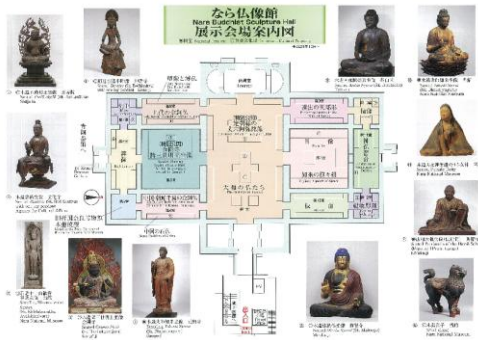
中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(2) 教育活動の充実 ③大学との連携								
【年度計画】 (東京国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館) 1) インターンシップを継続して実施する。 (奈良国立博物館) 1) 奈良女子大学及び神戸大学との連携講座を継続して実施する。 2) 奈良教育大学・奈良市教育委員会と連携して世界遺産学習のプログラム開発を検討する。									
担当部課	総務課渉外室 学芸部企画室	事業責任者	総括専門職員 森継明広 室長 野尻 忠						
【実績・成果】 (東京国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館) 1) 立命館大学から3人の学生をインターンシップとして受け入れた。 (奈良国立博物館) 1) ・奈良女子大学大学院人間文化研究科博士後期課程に学芸部研究員1名を客員准教授として派遣し、日本古典資料論の講義を行った。授業の内容は古典資料講読を中心とし、受講生は前期6人、後期4人であった。 ・神戸大学大学院人文学研究科の連携講座文化資源論に、学芸部研究員2人を客員教授と客員准教授として派遣し、文化資源論の講義を行った。受講した学生は同研究科の修士課程、博士課程の大学院生7人であった。 2) ・奈良教育大学・奈良市教育委員会との世界遺産学習プログラムの開発は、昨年度に科学研究費が獲得され、3年間を一つの目処として、検討を行った。 ・25年1月27日(日)、奈良市教育センター及びなら100年会館を会場として、「第3回世界遺産学習全国サミット in なら」を文部科学省・奈良市教育委員会・奈良教育大学等と共同で開催し、当館学芸部長らによる世界遺産学習リレートーク「次の世代を担う子どもたちへ」及び子供達による世界遺産学習発表会を行った。									
【補足事項】									
【定量的評価】項目		24年度実績	目標値	評価	経年変化	20	21	22	23
—		—	—	—		—	—	—	—
総合評価	S ① B C F (S、Fの理由)								
【中期計画記載事項】									
大学との連携事業、各種セミナー、インターンシップ等の実施を通じて人材育成に寄与する。									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					順調				

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(2) 教育活動の充実 ③大学との連携								
【年度計画】 (東京国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館) 1) インターンシップを継続して実施する。 (九州国立博物館) 1) 博物館実習生の受け入れを実施する。									
担当部課	交流課 学芸部博物館科学課 総務課	事業責任者	教育普及室主任研究員 進村真之 課長 今津節生 課長 阿部勝						
【実績・成果】 (東京国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館) 1) 当館の保存修復施設を利用して地域大学との協業を図る短期インターンシップ研修プログラムを実施した。 (九州国立博物館) 1) 博物館実習生の受け入れを実施した。 博物館実習生を15大学21人(男3人、女18人)、計10日間受け入れた。(うちキャンパスメンバーズ校は5大学10人)									
【補足事項】 (東京国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館) 1) ・装こう技術に関する短期インターンシップ「文化財保存修復研修」を実施した。(24年8月20日～24日) ・吉備国際大学1人、九州産業大学3人、別府大学1人、佐賀大学1人、広島市立大学2人の計5大学8人が研修に参加した。 ・研修では障壁画の下貼り作製に関する講義と実習を通じて、文化財保存修復に対する参加学生の理解と研鑽を深めることができた。 (九州国立博物館) 1) 24年8月16日～27日、15校から21名の実習生を受け入れ、延べ10日間にわたる博物館実習を実施した。作品・資料の収集と管理、展示、保存科学、教育普及、地域交流・国際交流など、博物館の各機能に関する講義の他、考古遺物・絵画などの作品取り扱い実習やIPM(総合的有害生物管理)を中心とした博物館科学実習、子ども向けワークショップの運営や体験コーナーでの対応などの来館者コミュニケーション実習等を行い、最後に、グループ毎に展示案を作成する演習を行った。作成された展示案には秀逸なものもあり、体験型展示室「あじっば」において実現することを検討している。 参加大学： 福岡女子短期大学、京都造形芸術大学、九州産業大学、長崎県立大学、崇城大学、西南学院大学、沖縄県立芸術大学、福岡大学、筑紫女学園大学、愛知淑徳大学、東京学芸大学、琉球大学、北九州市立大学、立命館大学、筑波大学、計15大学21名									
 体験型展示室「あじっば」での博物館実習									
 古文書取り扱い実習									
【定量的評価】項目		24年度実績	目標値	評価	経年変化	20	21	22	23
—		—	—	—		—	—	—	—
総合評価	S (A) B C F (S、Fの理由)								
【中期計画記載事項】 大学との連携事業、各種セミナー、インターンシップ等の実施を通じて人材育成に寄与する。									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					順調				

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信																																	
事業名	(3) 快適な観覧環境の提供 ①施設・設備等の充実(1/2)																																	
【年度計画】 (4館共通) 1) 特別展において音声ガイド等を活用した情報提供を積極的に推進し、来館者に対するサービスの向上を図る。 (東京国立博物館) 1) 多言語による案内及び誘導サイン等を順次整備する。 2) より快適な観覧環境を構築するため、展示照明を順次整備する。 3) ～6) (略)																																		
担当部課	総務部経理課 学芸企画部企画課 学芸企画部企画課		事業責任者	環境整備室長 大江信浩 特別展室長 松嶋雅人 デザイン室長 木下史青																														
【実績・成果】 (4館共通) 1) 全ての特別展で音声ガイドを実施し、来館者サービスの向上を図った。特別展『書聖 王羲之』の音声ガイドでは、加賀美幸子(元NHKアナウンサー)のナビゲーター起用等が好評を博し、貸出率が25.0%となった。 (東京国立博物館) 1) 25年1月2日の東洋館のリニューアルオープンに際し、案内・誘導サイン・注意事項等を4ヵ国語(日・英・中・韓)により整備した。 2) ・「東京国立博物館140周年特集陳列 館蔵仏像名品選」の彫刻の露出展示において、LED光源の小型スポットライトを特注した照明器具を仏像の展示照明として利用することで、展示効果を高めた。 ・東洋館の展示リニューアルにおいて、新たにLED光源を使用した展示照明器具を採用した。 (中期計画記載事項) ○施設のバリアフリー化として、黒田記念館の障がい者用エレベーター、段差解消機及び多目的トイレ設置の改修工事を進めた。また、表慶館に障がい者用エレベーター及び多目的トイレ設置の改修工事を進めた。																																		
【補足事項】 (東京国立博物館) ○東洋館エントランス・インフォメーションカウンターの試作を行い、仕様・設置位置を決定し、製作・設置した。																																		
 東洋館案内版のフロアマップ (4ヶ国語)  特集陳列「館蔵仏像名品選」 特注LEDスポットライトによる 照明演出  東洋館インフォメーションカウンター																																		
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 20%;">【定量的評価】項目</th><th style="width: 10%;">24年度実績</th><th style="width: 10%;">目標値</th><th style="width: 10%;">評価</th><th style="width: 5%;">経年変化</th><th style="width: 10%;">20</th><th style="width: 10%;">21</th><th style="width: 10%;">22</th><th style="width: 10%;">23</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>音声ガイド貸出件数</td><td>225, 235 台</td><td>—</td><td>—</td><td rowspan="2" style="writing-mode: vertical-rl; text-align: center;">変化</td><td>305, 135</td><td>360, 901</td><td>130, 850</td><td>319, 172</td></tr> <tr> <td>展示照明整備件数</td><td>3 件</td><td>—</td><td>—</td><td>2</td><td>2</td><td>4</td><td>3</td></tr> </tbody> </table>									【定量的評価】項目	24年度実績	目標値	評価	経年変化	20	21	22	23	音声ガイド貸出件数	225, 235 台	—	—	変化	305, 135	360, 901	130, 850	319, 172	展示照明整備件数	3 件	—	—	2	2	4	3
【定量的評価】項目	24年度実績	目標値	評価	経年変化	20	21	22	23																										
音声ガイド貸出件数	225, 235 台	—	—	変化	305, 135	360, 901	130, 850	319, 172																										
展示照明整備件数	3 件	—	—		2	2	4	3																										
総合評価	S (A) B C F (S、Fの理由)																																	
【中期計画記載事項】 施設のバリアフリー化、各種案内の充実、研修等の実施等を通じて、高齢者、障がい者、外国人等の利用にも配慮した快適な観覧環境の提供を行う。																																		
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調																														

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(3) 快適な観覧環境の提供 ①施設・設備等の充実(2/2)							
【年度計画】 (4館共通) 1) (略) (東京国立博物館) 1) 2) (略) 3) 総合文化展における音声ガイドの導入について検討する。 4) 障がい者の方のために点字版パンフレット等を引き続き配布する。 5) 「総合案内パンフレット」(7ヵ国語：日、英、中、韓、仏、独、西)「フロアガイド」(4ヵ国語：日、英、中、韓)の制作・配布する。 6) 本館2階「日本美術の流れ」の展示を外国人に理解してもらうために、より基礎的な解説を盛り込んだ、(3ヵ国語：英、中、韓)のカラーパンフレットを継続して制作・配布する。								
担当部課	総務部総務課 学芸企画部博物館教育課 学芸企画部広報室		事業責任者	課長 樋口理央 教育普及室長 伊藤信二 室長 小林 牧				
【実績・成果】 (東京国立博物館) 3) 平成22年度末から23年度にかけて実証実験を行なったスマートフォン端末を用いた館内ガイドをもとに、個人の端末にダウンロード可能な Android 版スマートフォンアプリ「トーハクナビ」を24年4月に公開した。さらに、25年1月にはAR(拡張現実感)技術を利用した演劇仕立てのコースガイド、屏風・絵巻・簞の体験型コンテンツを目玉とした本館2階のコースガイドを追加するバージョンアップを行った。バージョンアップ版公開にあわせて25年1月22日～3月3日の期間、端末の貸出サービスを実施した。また、既に iOS 対応として日本語版が公開されダウンロード可能となっていた法隆寺宝物館30分ナビの英語版を25年2月、新たに公開した。 4) 障がい者の方のための点字版パンフレット等を引き続き配布した。 5) 「総合案内パンフレット」(7ヵ国語：日、英、中、韓、仏、独、西)「フロアガイド」(4ヵ国語：日、英、中、韓)の制作・配布を行った。 6) 本館2階「日本美術の流れ」の展示を外国人に理解してもらうために、より基礎的な解説を盛り込んだ3ヵ国語(英、中、韓)のカラーパンフレットを継続して制作・配布した。展示テーマと主な展示作品の解説を収録した日本語版は展示替えに応じて更新・配布した。また、総合文化展の見学のポイントを示し、鑑賞と理解を促す子供向けワークシート「本館見学マップ」「暮らしの道具 今昔」「日本の伝統もよう」の3種を制作・配布した。 ○託児サービスを試行した。(25年1月～2月、9回)								
【補足事項】 3) 各アプリの年度末時点でのダウンロード件数累計は以下の通りである。 ・Android アプリ「トーハクナビ」1,963件(24年4月18日リリース) ・iOS アプリ「法隆寺宝物館 30分ナビ」20,252件(25年2月14日より日・英) 参考：24年12月末時点19,465件、23年12月末時点16,730件(23年1月20日日本語版リリース) (東京国立博物館) 6) 「日本美術の流れ」パンフレット 日本語版 計32回更新(第255号～第286号) ○託児サービスは東京国立博物館では初めての試みであり、25年1月22日(火)～2月23日(土)のうちの9回、試行のため無料で実施した。すべての日程について予約時点で定員となり、利用者数は52人(児童数57人)、当日キャンセル15人であった。25年度の本格導入を予定している。 ○前年度開始したベビーカー貸出サービスを継続した。								
								
○スマートフォンアプリ「トーハクナビ」 「託児サービス」案内チラシ								
3日(土)のうちの9回、試行のため無料で実施した。すべての日程について予約時点で定員となり、利用者数は52人(児童数57人)、当日キャンセル15人であった。25年度の本格導入を予定している。								
○前年度開始したベビーカー貸出サービスを継続した。								
【定量的評価】項目	24年度実績	目標値	評価	経年変化	20	21	22	23
リーフレット等	7ヵ国語	7ヵ国語	A		7ヵ国語	7ヵ国語	7ヵ国語	7ヵ国語
総合評価	S (A) B C F (S、Fの理由)							
【中期計画記載事項】 施設のバリアフリー化、各種案内の充実、研修等の実施等を通じて、高齢者、障がい者、外国人等の利用にも配慮した快適な観覧環境の提供を行う。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調				

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(3) 快適な観覧環境の提供 ①施設・設備等の充実								
【年度計画】 (4館共通) 1) 特別展において音声ガイド等を活用した情報提供を積極的に推進し、来館者に対するサービスの向上を図る。 (京都国立博物館) 1) 快適な観覧環境を提供するための平常展示館の建替プログラムを継続して推進する。 2) 館内案内リーフレット(6ヵ国語：日、英、中、韓、仏、西)を継続して制作・配布する。									
担当部課	総務課 学芸部	事業責任者	課長 植田義雄 部長 村上 隆						
【実績・成果】 (4館共通) 1) 特別展において音声ガイド等を活用した情報提供を積極的に推進し、来館者に対するサービスの向上を図った。 (京都国立博物館) 1) 快適な観覧環境を提供するための平常展示館の建替工事の本体工事完了、引渡を受けた。引き続き、外構工事、展示ケース製作工事、展示製作工事等を実施する。 2) 昨年度に製作した館内案内リーフレット(6ヵ国語：日、英、中、韓、仏、西)を継続して配布した。 (中期計画記載事項) ・建替中の平常展示館において施設のバリアフリー化を実現すべく検討を進めた。									
【補足事項】 ・音声ガイド利用台数 計 35,037 台 特別展覧会「王朝文化の華－陽明文庫名宝展－」 16,567 台 特別展覧会「古事記 1300 年出雲大社大遷宮 大出雲展」 11,956 台 特別展覧会「宸翰 天皇の書－御手が織りなす至高の美－」 2,792 台 特別展覧会「国宝 十二天像」 3,195 台 特別展覧会「狩野山楽・山雪」 (会期 25 年 3 月 30 日～5 月 12 日のうち 24 年度の台数)：527 台 ・平常展示館の建替工事が引き続き継続中であるため、お客様の観覧を騒音や振動で妨げないよう配慮した。									
【定量的評価】項目		24 年度実績	目標値	評価	経年変化	20	21	22	23
音声ガイド貸出件数 リーフレット等		35,037 台 6 カ国語	－ 6 カ国語	－ A		34,597 6 カ国語	78,797 6 カ国語	47,668 6 カ国語	34,095 6 カ国語
総合評価	S ㊤ B C F (S、F の理由)								
【中期計画記載事項】 施設のバリアフリー化、各種案内の充実、研修等の実施等を通じて、高齢者、障がい者、外国人等の利用にも配慮した快適な観覧環境の提供を行う。									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					順調				

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(3) 快適な観覧環境の提供 ①施設・設備等の充実							
【年度計画】 (4館共通) 1) 特別展において音声ガイド等を活用した情報提供を積極的に推進し、来館者に対するサービスの向上を図る。 (奈良国立博物館) 1) 快適な観覧環境を提供するための展示施設の計画的な整備を実施する。 2) 誘導サイン及び展示照明を整備し、より快適な観覧環境を確保する。 3) 正倉院展の際に託児所を設置する。 4) なら仏像館における音声ガイドの導入について検討する。 5) 市販のゲーム機等を利用した子供向けの解説の作成について検討する。 6) ウェブサイトで展覧会の混雑状況・待ち時間の速報を行う。 7) 館内案内リーフレット(7カ国語：日、英、中、韓、仏、独、西)を継続して制作する。 8) なら仏像館の会場案内図、展示リストを作成する。								
担当部課	総務課	事業責任者	利用者サービス係長 築部一男					
【実績・成果】 (4館共通) 1) 特別展において音声ガイドを活用した情報提供を行い、来館者に対するサービスの向上を図った。 (奈良国立博物館) 1) 快適な観覧環境を提供するための展示施設の計画的な整備を実施した。 2) 誘導サイン及び展示照明を整備し、より快適な観覧環境を提供した。 3) 正倉院展の会期中に、託児所を開設し、多くの利用者があった。 4) なら仏像館における音声ガイドの導入について検討した結果、新ボランティア制度が24年4月から発足し、解説ツアーを実施することに伴い、音声ガイドと重複するところがあるため、解説ツアーの実施状況を受けて再度検討することになった。 5) 市販のゲーム機等を利用した子供向けの解説の作成について検討した結果、費用対効果等の観点から行わないことになった。 6) ウェブサイトで展覧会の混雑状況・待ち時間の速報を行った。 7) 館内案内リーフレット(7カ国語：日、英、中、韓、仏、独、西)を継続して制作した。 8) なら仏像館の会場案内図、展示リストを作成・配布した。 (中期計画記載事項) ・施設のバリアフリー化により、車椅子の方や高齢者、障がい者の利用にも配慮した観覧環境を提供している。								
【補足事項】 2) 正倉院展の会期中には、臨時の誘導サインを増設し、より快適な観覧環境を提供した。 3) 開設した託児所は、保育士2人が常駐して1歳児から未就学児までの預かりを予約制で実施した。会期中139人の利用があった。								
 館内誘導サイン		 なら仏像館展示会場案内図						
【定量的評価】 項目	24年度実績	目標値	評価	経年 変化	20	21	22	23
音声ガイド貸出件数	41,504 台	—	—		60,356	51,970	69,219	46,113
リーフレット等	7カ国語	7カ国語	A		7カ国語	7カ国語	7カ国語	7カ国語
総合評価	S (A) B C F (S、Fの理由)							
【中期計画記載事項】 施設のバリアフリー化、各種案内の充実、研修等の実施等を通じて、高齢者、障がい者、外国人等の利用にも配慮した快適な観覧環境の提供を行う。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調				

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信																			
事業名	(3) 快適な観覧環境の提供 ①施設・設備等の充実(1/2)																			
【年度計画】 (4館共通) 1) 特別展において音声ガイド等を活用した情報提供を積極的に推進し、来館者に対するサービスの向上を図る。 (九州国立博物館) 1) ～(略)																				
担当部課	学芸部企画課 総務課	事業責任者	課長 文化交流展室長 課長	小泉恵英 河野一隆 阿部勝																
【実績・成果】 (4館共通) 1) 特別展等において展覧会の内容のより深い理解を助けるための音声ガイドを実施した。																				
【補足事項】 (4館共通) 1) 特別展音声ガイド ・特別展「平山郁夫展」では、110,047人の来館者に対して16,799件の貸出があった(15.3%)。 ・特別展「美のワンダーランド」では、75,415人の来館者に対して10,639件の貸出があった(14.1%)。 ・特別展「ベルリン国立美術館展」では、224,324人の来館者に対して38,780件の貸出があった(17.3%)。本展では小雪(俳優)のナビゲーター起用、ピアニスト辻井伸行作曲の公式テーマ曲等が好評を博し、貸出率が上昇した。 ・特別展「ボストン美術館展」では、236,725人の来館者に対して、42,558件の貸出があった。(17.9%) これらの状況から、近年では安定的に15%程度の利用が見込まれ、同システムが観覧者にかなり定着していることがうかがわれる。 ・文化交流展示音声ガイド(3ヵ国語対応:英語、中国語、韓国語) 文化交流展示音声ガイド実施状況(貸出件数) <table border="1"> <tr> <td>文化交流展示</td><td>計</td><td>5,288台</td></tr> <tr> <td>英語版</td><td></td><td>1,721台</td></tr> <tr> <td>中国語版</td><td></td><td>808台</td></tr> <tr> <td>韓国語版</td><td></td><td>2,759台</td></tr> </table>									文化交流展示	計	5,288台	英語版		1,721台	中国語版		808台	韓国語版		2,759台
文化交流展示	計	5,288台																		
英語版		1,721台																		
中国語版		808台																		
韓国語版		2,759台																		
																				
特別展音声ガイド貸出風景																				
【定量的評価】項目	24年度実績	目標値	評価	経年変化	20	21	22	23												
音声ガイド貸出件数	114,064台	—	—		67,663	139,159	81,717	56,993												
総合評価	S ① B C F(S、Fの理由)																			
【中期計画記載事項】 施設のバリアフリー化、各種案内の充実、研修等の実施等を通じて、高齢者、障がい者、外国人等の利用にも配慮した快適な観覧環境の提供を行う。																				
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調																

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(3) 快適な観覧環境の提供 ①施設・設備等の充実(2/2)							
【年度計画】 (4館共通) 1) (略) (九州国立博物館) 1) 快適な観覧環境を提供するための展示施設等の調査・分析及び検討を進める。 2) 来館者にとって分かりやすい展示室内サインを開発し、快適な鑑賞環境を提供する。 3) 館内案内リーフレット(7ヵ国語：日、英、中、韓、仏、独、西)を継続して制作する。 4) 文化交流展示室の展示を、日本文化に初めて接する海外の来館者にも理解しやすいような、外国語のパンフレットを刊行する。 5) 英語・中国語・韓国語版の文化交流展示室のマップを継続して制作する。								
担当部課	学芸部企画課	事業責任者	課長	小泉恵英				
	総務課		文化交流展示室長	河野一隆				
			課長	阿部勝				
【実績・成果】 (九州国立博物館) 1) 展示ケースの定期点検を行った上、グラフィック・サイン等のリニューアルを図り、わかり易く、適切な鑑賞環境を提供した。 2) エントランスの丸看板に主要なトピック展示や季節感を表すことによって、新鮮な展示をアピールした。 3) 館内案内リーフレット(7ヵ国語：日、英、中、韓、仏、独、西)を継続して作成・配布した。 4) トピック展示等で図録に英語を逐語訳で付し、海外の来館者に対応した。 5) 文化交流展示室では引き続き、英語・中国語・韓国語版のマップを展示替に応じて更新し、作成・配布した。 (中期計画記載事項) ・施設のバリアフリー化、研修等の実施等を通じて、快適な観覧環境の提供を行った。								
【補足事項】 (九州国立博物館) 4) トピック展示「江戸の粋、印籠」では、図録に英語を逐語訳で付し、日本語と同じ情報を提供した。 (中期計画記載事項) ・施設のバリアフリー化のため、身体の不自由な方のために、貸出用の杖を 20 本購入し、貸出に供した。 ・太宰府消防署の協力により、地域と連携した防災訓練を実施した。 ・財団法人日本宝くじ協会助成事業を活用し貸出用ベビーカーを 2 台導入した。								
								
貸出用ベビーカー								
【定量的評価】 項目	24 年度実績	目標値	評価	経年変化	20	21	22	23
リーフレット等	7 ヵ国語	7 ヵ国語	A		7 ヵ国語	7 ヵ国語	7 ヵ国語	7 ヵ国語
総合評価	S (A) B C F (S、F の理由)							
【中期計画記載事項】 施設のバリアフリー化、各種案内の充実、研修等の実施等を通じて、高齢者、障がい者、外国人等の利用にも配慮した快適な観覧環境の提供を行う。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調				

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信																																																																																																								
事業名	(3) 快適な観覧環境の提供 ②来館者満足度調査及び利用者に配慮した運営																																																																																																								
【年度計画】 (4館共通) 1) 来館者のニーズを引き出すため来館者調査を実施し、その結果を改善に活かす。 2) 混雑が予想される展覧会ではその対応を想定した計画を行い、実際の混雑に対しては、収容力に応じた入場者数の調整、陳列品の配置及び音声ガイドの解説場所の工夫等を行い、展覧会場の快適な環境維持に努める。																																																																																																									
担当部課	総務部総務課	事業責任者	課長 樋口理央																																																																																																						
【実績・成果】 (4館共通) 1) タッチパネルアンケート(特別展、総合文化展)の実施 平成館、本館で開催された全ての特別展及び本館での総合文化展でアンケートを実施し、その結果で環境改善に努めた。 2) 「ボストン美術館展」期間中の混雑対応や、「中国王朝の至宝展」の手荷物検査による安全保持等を行い、展覧会場の快適な環境維持に努めた。																																																																																																									
【補足事項】 1) アンケートに書かれたキャプション等への指摘に従った訂正、見やすい角度などの環境改善を行った。 ・混雑した特別展の待ち時間をウェブサイトで配信した。 ・お客様からの質問・意見については、内容を職員へ周知し、質問についてはできる限り迅速に対応した。 2) 「ボストン美術館 日本美術の至宝」における混雑対応 ・看護師を常駐した。 ○リニューアルした東洋館及び本館の監視カメラの整備を行った。 ○旅行会社クーポン契約により、団体の入館がスムーズに行われた。 ○お正月企画における総合文化展の混雑対応 ・特に混雑する正門、券売、インフォメーション、本館、東洋館の監視員等を臨時に延べ21人増員した(25年1月2日～6日)																																																																																																									
特別展「ボストン美術館 日本美術の至宝」アンケート集計結果 開催期間：平成24年3月20日(火・祝)～平成24年6月10日(日)(73日間) 回答者数：4,850人(来館者数：540,382人 アンケート回収率：0.90%) ①年代別回答率 ②性別・年齢別の回答数 ③混雑に関する満足度 ④主な意見・感想 本展覧会は、「東京美術館の発展」と題されるアメリカのボストン美術館より譲渡された仏画・絵巻、古書、茶室から絵巻を多く取り入れた展示で、約4万人の来館者に感動をいただきました。 展覧会については、73日間の方々から「とても良かった」「良かった」と好評な評価をいただきました。展示物の配置に際しては、多くの好評意見が寄せられました。一方で、混雑対策に関する要望、ご意見もいただきました。今後、お声かけいただいたご意見・ご感想を参考に展示環境の改善に努めてまいります。来館者の満足度、ご満足いただければ、誠に幸いです。 タッチパネルアンケート集計結果																																																																																																									
<table><tr><td>【定量的評価】項目</td><td>24年度実績</td><td>目標値</td><td>評価</td><td></td><td>20</td><td>21</td><td>22</td><td>23</td></tr><tr><td>ボストン美術館 日本美術の至宝満足度</td><td>74%</td><td>—</td><td>—</td><td rowspan="7">経年変化</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>中国山水画の20世紀 中国美術館名品選満足度</td><td>92%</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>青山杉雨の眼と書満足度</td><td>64%</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>出雲一聖地の至宝一満足度</td><td>68%</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>中国 王朝の至宝満足度</td><td>66%</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>飛騨の円空満足度</td><td>86%</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>書聖 王羲之満足度</td><td>68%</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>総合文化展満足度</td><td>70%</td><td>—</td><td>—</td><td></td><td>84%</td><td>89%</td><td>88%</td><td>65%</td></tr><tr><td>総合評価</td><td colspan="3">S ㊤ B C F(S、Fの理由)</td><td colspan="5"></td></tr><tr><td colspan="9">【中期計画記載事項】 一般来館者を対象とする満足度調査及び専門家からの批評聴取等を定期的に実施する。調査結果から来館者のニーズを把握し、観覧料金及び開館時間の弾力化などの管理運営の改善を行う。また、施設の収容力に応じた来館者数を確保するとともに、混雑時の対応を含め利用者に配慮した運営を行う。</td></tr><tr><td colspan="4">中期計画に対して順調に成果を上げているか。</td><td colspan="5">順調</td></tr></table>				【定量的評価】項目	24年度実績	目標値	評価		20	21	22	23	ボストン美術館 日本美術の至宝満足度	74%	—	—	経年変化	—	—	—	—	中国山水画の20世紀 中国美術館名品選満足度	92%	—	—	—	—	—	—	青山杉雨の眼と書満足度	64%	—	—	—	—	—	—	出雲一聖地の至宝一満足度	68%	—	—	—	—	—	—	中国 王朝の至宝満足度	66%	—	—	—	—	—	—	飛騨の円空満足度	86%	—	—	—	—	—	—	書聖 王羲之満足度	68%	—	—	—	—	—	—	総合文化展満足度	70%	—	—		84%	89%	88%	65%	総合評価	S ㊤ B C F(S、Fの理由)								【中期計画記載事項】 一般来館者を対象とする満足度調査及び専門家からの批評聴取等を定期的に実施する。調査結果から来館者のニーズを把握し、観覧料金及び開館時間の弾力化などの管理運営の改善を行う。また、施設の収容力に応じた来館者数を確保するとともに、混雑時の対応を含め利用者に配慮した運営を行う。									中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調				
【定量的評価】項目	24年度実績	目標値	評価		20	21	22	23																																																																																																	
ボストン美術館 日本美術の至宝満足度	74%	—	—	経年変化	—	—	—	—																																																																																																	
中国山水画の20世紀 中国美術館名品選満足度	92%	—	—		—	—	—	—																																																																																																	
青山杉雨の眼と書満足度	64%	—	—		—	—	—	—																																																																																																	
出雲一聖地の至宝一満足度	68%	—	—		—	—	—	—																																																																																																	
中国 王朝の至宝満足度	66%	—	—		—	—	—	—																																																																																																	
飛騨の円空満足度	86%	—	—		—	—	—	—																																																																																																	
書聖 王羲之満足度	68%	—	—		—	—	—	—																																																																																																	
総合文化展満足度	70%	—	—		84%	89%	88%	65%																																																																																																	
総合評価	S ㊤ B C F(S、Fの理由)																																																																																																								
【中期計画記載事項】 一般来館者を対象とする満足度調査及び専門家からの批評聴取等を定期的に実施する。調査結果から来館者のニーズを把握し、観覧料金及び開館時間の弾力化などの管理運営の改善を行う。また、施設の収容力に応じた来館者数を確保するとともに、混雑時の対応を含め利用者に配慮した運営を行う。																																																																																																									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調																																																																																																					

【書式A】

施設名

京都国立博物館

処理番号

2322

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信										
事業名	(3) 快適な観覧環境の提供 ②来館者満足度調査及び利用者に配慮した運営										
【年度計画】 (4館共通) 1) 来館者のニーズを引き出すため来館者調査を実施し、その結果を改善に活かす。 2) 混雑が予想される展覧会ではその対応を想定した計画を行い、実際の混雑に対しては、収容力に応じた入場者数の調整、陳列品の配置及び音声ガイドの解説場所の工夫等を行い、展覧会場の快適な環境維持に努める。 (京都国立博物館・奈良国立博物館) 1) 特別展等に関し、専門家の展覧会評を求め、広報誌等に掲載する。 (京都国立博物館) 1) モニターを委嘱し、提言を受け、博物館運営に反映する。											
担当部課	総務課			事業責任者	総務課長 植田義雄						
【実績・成果】 (4館共通) 1) 来館者アンケートを実施し、その結果を改善に生かした。 2) 混雑時には入場制限を行い、来館者の安全の確保、快適な観覧環境の維持に努めた。 (京都国立博物館・奈良国立博物館) 1) 特別展覧会等に関する専門家の展覧会評を求め、『京都国立博物館だより』に掲載した。 (京都国立博物館) 1) 小学校・中学校・高等学校の教員、ミュージアムぐるっとパス関西加盟館の職員及びキャンパスメンバーズ加盟校の学生へモニターを委嘱し、提言を受けた。館内で情報を共有し、展覧会を含めた博物館運営に反映した。											
【補足事項】 (4館共通) 2) ・特別展示館内及び庭園内において、混雑状況に応じて休憩場所の箇所を変更し、お客様が休憩しやすいようにした。前年度に引き続いて、特別展会期中、日よけテント、待合所テントの設置、自動販売機及び観光客の旅行用大型バッグ(カート)の収納が可能な大型コインロッカーの増設も行った。 ・また、前年度に引き続き、特別展会期中に入館までの待ち時間等の情報をウェブサイト等で掲載した。 ○職員等への防災・接遇研修等 ・当館職員を対象に、普通救命講習及びAED取扱講習会を実施した。全事務職員が普通救命講習を受講しており、衛士は上級救命講習を受講している。AED取扱についても繰り返し訓練している。 ・各展覧会の開催期間中に火災及び地震を想定した避難誘導訓練を実施し、職員等の防災に対する意識を高めた。 ・当館職員、臨時要員、売店・レストラン従業員を対象として「マナー講習会」を実施した。											
臨時コインロッカー及びテント （「王朝文化の華」会期中） 											
AED取扱講習会風景 											
【定量的評価】項目				24年度実績	目標値	評価					
王朝文化の華 一陽明文庫名宝展—満足度				89%	—	—	経年変化	20	21	22	23
古事記 1300 年 出雲大社大遷宮 大出雲展満足度				85%	—	—		—	—	—	—
宸翰 天皇の書満足度				88%	—	—		—	—	—	—
「国宝 十二天像と密教教会の世界」及び「成立 800 年記念 方丈記」満足度				88%	—	—		—	—	—	—
平常展満足度				—	—	—		70%	—	—	—
総合評価	S (A) B C F (S、Fの理由)										
【中期計画記載事項】 一般来館者を対象とする満足度調査及び専門家からの批評聴取等を定期的実施する。調査結果から来館者のニーズを把握し、観覧料金及び開館時間の弾力化などの管理運営の改善を行う。また、施設の収容力に応じた来館者数を確保するとともに、混雑時の対応を含め利用者に配慮した運営を行う。											
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調							

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信																																																		
事業名	(3) 快適な観覧環境の提供 ②来館者満足度調査及び利用者に配慮した運営																																																		
【年度計画】 (4館共通) 1) 来館者のニーズを引き出すため来館者調査を実施し、その結果を改善に活かす。 2) 混雑が予想される展覧会ではその対応を想定した計画を行い、実際の混雑に対しては、収容力に応じた入場者数の調整、陳列品の配置及び音声ガイドの解説場所の工夫等を行い、展覧会場の快適な環境維持に努める。 (京都国立博物館・奈良国立博物館) 1) 特別展等に関し、専門家の展覧会評を求め、広報誌等に掲載する。																																																			
担当部課	総務課	事業責任者	利用者サービス係長 築部一男																																																
【実績・成果】 (4館共通) 1) 来館者のニーズを引き出すため来館者にアンケートを実施し、その結果を改善に活かした。 2) 混雑が予想される展覧会ではその対応を想定した計画を行い、実際の混雑に対しては、収容力に応じた来館者数の調整、陳列品の配置及び音声ガイドの解説場所の工夫等を行い、展覧会場の快適な環境維持に努めた。 (京都国立博物館・奈良国立博物館) 1) 特別展「解脱上人貞慶」に関し、専門家の展覧会評を『奈良国立博物館だより』82号に掲載した。																																																			
【補足事項】 (4館共通) 1) アンケートなどの意見を反映して、下記の改善を行った。 ・正倉院展の会期中、展示ケースのガラス清掃を業者委託により実施した。 ・正倉院展の会期中、臨時誘導サインを設置した。トイレ利用案内を改善した。 ・正倉院展の会期中、トイレを順次見回り、汚れがあれば迅速に清掃を行った。 また、エントランスや展示室等に落ちている傘袋などのゴミは、各自職員がすぐに拾うようにした。 ・ウェブサイトのご意見箱の質問に対し、迅速に対応した。 2) 混雑が予想される展覧会ではその対応を想定した計画を行い、実際の混雑に対して工夫等を行ったこと ・正倉院展では、入場待ちの来館者のためテントを設置し、関連の映像を流した。 ・正倉院展では、混雑状況(待ち時間)の速報を、ハローダイヤル、近鉄奈良駅及びJR奈良駅で行った。 ・正倉院展では、入場待ち列の混雑緩和のため誘導案内を行った。 ・正倉院展では、宝物の配置及び音声ガイドを付ける宝物の展示場所の工夫を行った。																																																			
<table border="1"> <thead> <tr> <th>【定量的評価】項目</th><th>24年度実績</th><th>目標値</th><th>評価</th><th rowspan="5">経年変化</th><th>20</th><th>21</th><th>22</th><th>23</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>解脱上人貞慶満足度</td><td>82%</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr> <tr> <td>頼朝と重源満足度</td><td>88%</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr> <tr> <td>第64回正倉院展満足度</td><td>77%</td><td>—</td><td>—</td><td>75%</td><td>79%</td><td>77%</td><td>73%</td></tr> <tr> <td>名品展満足度</td><td>79%</td><td>—</td><td>—</td><td>67%</td><td>68%</td><td>75%</td><td>74%</td></tr> </tbody> </table>									【定量的評価】項目	24年度実績	目標値	評価	経年変化	20	21	22	23	解脱上人貞慶満足度	82%	—	—	—	—	—	—	—	頼朝と重源満足度	88%	—	—	—	—	—	—	—	第64回正倉院展満足度	77%	—	—	75%	79%	77%	73%	名品展満足度	79%	—	—	67%	68%	75%	74%
【定量的評価】項目	24年度実績	目標値	評価	経年変化	20	21	22	23																																											
解脱上人貞慶満足度	82%	—	—		—	—	—	—	—																																										
頼朝と重源満足度	88%	—	—		—	—	—	—	—																																										
第64回正倉院展満足度	77%	—	—		75%	79%	77%	73%																																											
名品展満足度	79%	—	—		67%	68%	75%	74%																																											
総合評価	S (A) B C F (S、Fの理由)																																																		
【中期計画記載事項】 一般来館者を対象とする満足度調査及び専門家からの批評聴取等を定期的に実施する。調査結果から来館者のニーズを把握し、観覧料金及び開館時間の弾力化などの管理運営の改善を行う。また、施設の収容力に応じた来館者数を確保するとともに、混雑時の対応を含め利用者に配慮した運営を行う。																																																			
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調																																															



入場待ち列テント

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(3) 快適な観覧環境の提供 ② 来館者満足度調査及び利用者に配慮した運営								
【年度計画】 (4館共通) 1) 来館者のニーズを引き出すため来館者調査を実施し、その結果を改善に活かす。 2) 混雑が予想される展覧会ではその対応を想定した計画を行い、実際の混雑に対しては、収容力に応じた入場者数の調整、陳列品の配置及び音声ガイドの解説場所の工夫等を行い、展覧会場の快適な環境維持に努める。									
担当部課	総務課	事業責任者	課長 阿部勝						
【実績・成果】 (4館共通) 1) 来館者のニーズを引き出すため、文化交流展示及び各特別展で来館者調査を実施した。 2) 混雑が予想される展覧会（「ベルリン国立美術館展」、「ボストン美術館展」）について、入場規制、展示レイアウトの工夫をし、展覧会場の快適な環境維持に努めた。 (中期計画記載事項) ・来館者のニーズ等を把握するため、識者や市民代表などの外部委員による懇話会を開催した。									
【補足事項】 (4 館 共 通) 1) 管理運営の改善のためアンケート結果を関係各課へ回覧した。 ・平常展アンケート 満足度 70% 回答数 268 件 (とても良い 39%、良い 31%、普通 10%、あまりよくない 2%、よくない 5%、無回答 13%) 2) ・混雑が予想された「ベルリン国立美術館展」、「ボストン美術館展」では、展覧会場の快適な環境維持のため、開館時間の延長、入場待ち列等の調節、展示室内での誘導等を行った。 ・駐車場の混雑対策のため、ウェブサイト、モバイルサイトにて駐車場空き情報を提供した。(24 年 10 月 18 日～) (中期計画記載事項) ・開館 10 周年に向けて、「次の 10 年を考える懇話会」を開催し（年 4 回）、外部委員からの要望・意見聴取等を実施した。									
 「ベルリン国立美術館展」 入場待ち列の調節風景									
【定量的評価】項目		24 年度実績	目標値	評価		20	21	22	23
平山郁夫 シルクロードの軌跡満足度		88%	—	—	経 年 変 化	—	—	—	—
美のワンダーランド 十五人の京絵師満足度		84%	—	—		—	—	—	—
ベルリン国立美術館展満足度		83%	—	—		—	—	—	—
ボストン美術館 日本美術の至宝満足度		89%	—	—		—	—	—	—
文化交流展満足度		70%	—	—		63%	66%	59%	65%
総合評価	S ④ B C F (S、F の理由)								
【中期計画記載事項】 一般来館者を対象とする満足度調査及び専門家からの批評聴取等を定期的実施する。調査結果から来館者のニーズを把握し、観覧料金及び開館時間の弾力化などの管理運営の改善を行う。また、施設の収容力に応じた来館者数を確保するとともに、混雑時の対応を含め利用者に配慮した運営を行う。									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調					

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(3) 快適な観覧環境の提供 ③ミュージアムショップやレストラン等館内環境の充実							
【年度計画】 ミュージアムショップやレストランの利用者等の意見を把握し、関係者との協議のうえ、利用者サービスの向上に努める。 (4館共通) 1) オリジナルグッズの開発や展覧会に応じた商品を提供するなど、サービス向上に努める。 (東京国立博物館) 1) ミュージアムショップの企画公募などを通じ、利用者のサービス向上に努める。 2) 140周年を記念して新グッズの開発を進める。								
担当部課	総務部総務課	事業責任者	課長 樋口理央					
【実績・成果】 ○レストランでは、正月にヒマラヤ岩塩パウダーのプレゼントやフルーツゼリーのサービスを行い、また特別展に合わせたメニューを提供する等、サービスの向上に努めた。 ○ミュージアムグッズについてはその都度、東京国立博物館運営協力会と協議を重ね、新たな商品の開発に貢献した。 ○本館及び東洋館のミュージアムショップの大規模改装が行われた。 (4館共通) 1) ・ショップの今年度主力事業として重文「夏秋草図屏風」の原寸大及び50%サイズのレプリカを製作し、販売した。 ・東洋館リニューアルオープンに伴う絵はがきや切手シートを製作し、販売した。 (東京国立博物館) 1) ミュージアムショップの企画公募を実施し、一般財団法人東京国立博物館協会が選定された。 2) 140周年を記念して、グッズを新規に製作し、販売した。								
【補足事項】 (4館共通) 1) ・台東区立書道博物館と連携した特集陳列「尚意競艶－宋時代の書－」の開催期間中に、台東区立書道博物館の図録を販売し、連携企画の趣旨に沿った利用者サービスの向上に努めた。 (東京国立博物館) 1) ・東洋館リニューアルオープンに合わせ、25年1月2日に東洋館ショップをリニューアルオープンした。 ・次期出店契約締結とあわせ、本館ショップの地下から1階20室への移転と大規模改装が行われた。当館監修のもと、25年3月19日にリニューアルオープンした。 2) ・140周年を記念して、海洋堂による重文「風神雷神図屏風」の絵画立体化フィギュアを製作し、販売した。 ・国宝「秋冬山水図」雪舟等楊筆の原寸大レプリカを140周年記念として小学館イマージュから発売した。 ・140周年記念キャラクターをモチーフとしたグッズを製作し、販売した。 ・ショップバッグを140周年バージョンにした。 ○今後もミュージアムショップやレストランと連携協力を図りつつ、利用者のニーズをより適切に反映できるよう努めていく必要がある。								



海洋堂製 風神雷神図屏風フィギュア



トーハクくん(140周年記念キャラクター)のはにわクッキー

【定量的評価】項目	24年度実績	目標値	評価	経年変化	20	21	22	23
—	—	—	—		—	—	—	—

総合評価	S (A) B C F (S、Fの理由)
------	----------------------

【中期計画記載事項】	
ミュージアムショップやレストラン等のサービスについては利用者の意見を収集し、改善する。	
中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(3) 快適な観覧環境の提供 ③ミュージアムショップやレストラン等館内環境の充実								
【年度計画】 ミュージアムショップやレストランの利用者等の意見を把握し、関係者との協議のうえ、利用者サービスの向上に努める。 (4館共通) 1) オリジナルグッズの開発や展覧会に応じた商品を提供するなど、サービス向上に努める。 (京都国立博物館) 1) レストラン利用者にアンケート調査を行いサービス向上に努める。									
担当部課	総務課	事業責任者	課長 植田義雄						
【実績・成果】 (4館共通) 1) 新規にオリジナルグッズを作成し、また展覧会に応じた関連商品、関連書籍等を取り揃え、サービスの向上に努めた。 (京都国立博物館) 1) レストラン利用者にアンケート調査を実施し、アンケートの集計結果をレストラン外部委託業者に提示し、さらなる接客サービスの向上に努めた。									
【補足事項】 ・南門施設は21年7月にオープンし、ミュージアムショップ、レストラン、インフォメーションコーナーがあり、入場料を払わずにお客様が利用できるスペースとなっている。3業務とも外部業者に委託しているが、連絡を密にとり、当館の要望に応えた運営になるよう心がけた。 ・特別展示館が閉館の期間についても、ミュージアムショップ、レストラン及びインフォメーションコーナーは営業を行った。 ・当館職員だけでなく、委託している外部業者も当館が開催するマナー講習会に参加し、接客サービスの向上を図った。 ・23年度に作成した当館オリジナルグッズ(クリップ、立体カード、ジグソーパズル等)を引き続き販売し、特にクリップの売上が好調であるため、クリップのカラー版を作成し25年1月より販売を開始した。また、館蔵品を活かした付箋の新規作成についても検討を進めている。 ・来館できない方には、図録等の通信販売を実施した。 ・ミュージアムショップにおいて、23年度に引き続き、350種類の絵はがきを販売し、日本美術を中心としたグッズを販売した。 ・インフォメーションコーナーでは、展覧会関係及び京都観光案内等のチラシを掲示したり、英会話のできる人員を配置するなど、当館の案内だけでなく京都市内の観光案内等も行った。 ・23年度に引き続き、ミュージアムショップ、レストラン、インフォメーションコーナー共通の営業カレンダーを製作し、掲示した。 ・文化財保護基金のグッズ販売について24年4月より本格的に開始し、インフォメーションコーナーの雰囲気もそれに併せ一新した。手ぬぐいやタンブラーなど季節感のあるものの販売も行った。有名レストランのクッキーや、ホテルのチョコレートも作成し好評であった。									
 (オリジナル) クリップカラー版  (文化財保護基金グッズ) 手ぬぐい  (文化財保護基金グッズ) レストランよねむらクッキー									
【定量的評価】項目		24年度実績	目標値	評価	経年 変化	20	21	22	23
—		—	—	—		—	—	—	—
総合評価	S ㊤ B C F (S、Fの理由)								
【中期計画記載事項】									
ミュージアムショップやレストラン等のサービスについては利用者の意見を収集し、改善する。									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調					

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信			
事業名	(3) 快適な観覧環境の提供 ③ミュージアムショップやレストラン等館内環境の充実			
【年度計画】 ミュージアムショップやレストランの利用者等の意見を把握し、関係者との協議のうえ、利用者サービスの向上に努める。 (4館共通) 1) オリジナルグッズの開発や展覧会に応じた商品を提供するなど、サービス向上に努める。 (奈良国立博物館) 1) ノベルティグッズを作成し、来館者に配布するなどのサービスを行う。 2) 仏教美術に関する図書の販売の充実を図る。 3) より快適な環境を提供できるよう、メニューを含めレストランのリニューアルを検討する。				
担当部課	総務課利用者サービス係	事業責任者	利用者サービス係長 築部一男	
【実績・成果】 (4館共通) 1) オリジナルグッズ（元気が出る仏像シリーズ）の商品をミュージアムショップで販売し、サービスの向上に努めた。 (奈良国立博物館) 1) 25年1月2日に来館された方に正月サービスとして非売品のバッチを、正倉院展のオータムレイトの観覧券を購入した方に非売品のしおりを配布した。 2) 仏教美術に関する図書の販売の充実を図った。 3) より快適な環境を提供できるよう、レストランのリニューアルを行った。				
【補足事項】 (4館共通) 1) 堅苦しくなりがちな仏像をかわいらしくデザインし、手を上げている、走っている等の仏像の動きをポップなカラーで表現した「元気が出る仏像シリーズ」の新商品（オリジナルマグカップ及びクリアストラップ）をミュージアムショップで開発し販売した。 (奈良国立博物館) 2) レストランのテーブルの配置を替えるなど、より快適な環境を提供できるようにした。				



オリジナルマグカップ



オリジナルクリアストラップ

【定量的評価】項目	24年度実績	目標値	評価	経年変化	20	21	22	23
—	—	—	—		—	—	—	—

総合評価	S (A) B C F (S、Fの理由)			
------	----------------------	--	--	--

【中期計画記載事項】	
ミュージアムショップやレストラン等のサービスについては利用者の意見を収集し、改善する。	
中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(3) 快適な観覧環境の提供 ③ミュージアムショップやレストラン等館内環境の充実								
【年度計画】 ミュージアムショップやレストランの利用者等の意見を把握し、関係者との協議のうえ、利用者サービスの向上に努める。 (4館共通) 1) オリジナルグッズの開発や展覧会に応じた商品を提供するなど、サービス向上に努める。 (九州国立博物館) 1) 特別展に関連した特別メニューを提供するなど、サービスの向上に努める。									
担当部課	広報課	事業責任者	課長 梶村正年						
【実績・成果】 (4館共通) 1) ミュージアムショップでは、特別展及び文化交流展示の展示内容に即した商品陳列を行い、オリジナル商品の陳列面積を増やすとともに地場産業のお菓子やグッズなどを提供した。 (九州国立博物館) 1) レストランでは、特別展に関連したメニューを期間限定で提供した。									
【補足事項】 (4館共通) 1) 博物館の7周年にあわせた記念セット商品を販売した。 また、当館の所蔵品「花鳥蒔絵螺鈿聖龕」をモチーフにしたブックマーカー、「針聞書」のハラノムシをモチーフにしたメタルしおりを発売した。 (九州国立博物館) 1) 特別展に関連したメニューを提供した。 ・「平山郁夫展」では、シルクロードの国々をイメージした多彩な料理が味わえる『アトリエ弁当～シルクロードの旅～』、シルクロードの風香る春色パスタ『春野菜とカジキマグロのトマトソースパスタ』等を提供した。 ・「美のワンダーランド」では、“京”をテーマにした特別展期間限定メニュー『京風弁当～祇園の涼風～』等を提供した。 ・「ベルリン国立美術館展」では、九州の食材でドイツの家庭料理風にアレンジした期間限定メニュー『ドイツ風牛フィレステーキセット』等を提供した。 ・「ボストン美術館展」では、アメリカと日本の料理をコラボさせた、特別展にちなんだメニュー『鮪、海老、アボカドのカフェ丼』等を提供した。									
 7周年記念セット  鮪、海老、アボカドのカフェ丼									
【定量的評価】 項目		24年度実績	目標値	評価	経年変化	20	21	22	23
—		—	—	—		—	—	—	—
総合評価	S (A) B C F (S、Fの理由)								
【中期計画記載事項】 ミュージアムショップやレストラン等のサービスについては利用者の意見を収集し、改善する。									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					順調				

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(4)文化財情報の発信と広報の充実 ① デジタル化の推進								
【年度計画】(4館共通)									
1)収蔵品のデジタル画像による来館者への情報提供及びインターネットでの公開を継続して行う。									
2)収蔵品の国宝・重要文化財について、5ヵ国語(日本語、英語、中国語、韓国語、フランス語)の説明を付したデジタル高精細画像(e 国宝)を継続して公開する。									
3)約7,000件(東京：1,000、京都：2,000、奈良：3,000、九州：1,000)の収蔵品写真等の既存フィルムのデジタル化を実施する。 (東京国立博物館)									
1)外部への公開を見据えた「列品管理プロトタイプデータベース」(学芸業務支援システム)の構築を進め、博物館機能の充実を図る。									
2)収蔵品に関する基本情報のデータ化及びデータ整備を引き続き推進する。									
3)収蔵品の和書のデジタル化を実施し、公開に向けてデータを整備する。									
4)法隆寺献納宝物について、5ヵ国語(日本語、英語、中国語、韓国語、フランス語)の説明を付したデジタル高精細画像(「法隆寺献納宝物デジタルアーカイブ」)等の提供を法隆寺宝物館にて継続して実施する。									
担当部課	学芸企画部博物館情報課	事業責任者	課長 高橋裕次						
【実績・成果】									
(4館共通)									
1)デジタル画像を資料館及びインターネットで公開した。									
2)国宝・重要文化財の高精細画像(e 国宝)を継続して公開した。また、22年度より提供している iOS アプリ「e 国宝」に加え、Android アプリ版を開発し、公開した。(25年2月)									
3)既存フィルムはほぼ全てデジタル化済みであり、24年度新規フィルム撮影のほぼ全てにあたる776枚をデジタル化した。 (東京国立博物館)									
1)「列品管理プロトタイプデータベース」を改善し、作品の修理予定・履歴の管理機能を追加した。									
2)収蔵品情報のデータ化とデータ整備を推進した。									
3)収蔵品の和古書について7,083 カット、また所蔵する洋古書について1,881 カットのデジタル撮影を行い、公開に向けてデータを整備した。									
4)・「法隆寺献納宝物デジタルアーカイブ」を法隆寺宝物館にて継続して提供した。 ・東京国立博物館情報アーカイブの運用を継続し、収蔵品、調査研究成果等の情報公開の充実を図った。 (中期計画記載事項)									
○データ整備及びデジタル化を引き続き推進した。また画像管理システムを改善するとともに、公開データを随時更新・追加した。									
補足事項】									
(4館共通)									
1)画像管理システムを改善し、資料館閲覧室において来館者向けにデジタル画像を提供する際の利便性を向上させた。また同システムから抽出したデータをインターネットで公開した。									
2)各アプリの年度末時点でのダウンロード件数累計は以下の通りである。 ・iOS アプリ「e 国宝」404,822 件 参考：23 年度末時点 298,087 件、 22 年度末時点 188,200 件 (23 年 1 月 20 日リリース) ・Android アプリ「e 国宝」55,161 件 (25 年 2 月 6 日リリース)									
3)既存フィルムのデジタル化は 1,000 枚の計画であったが、撮影そのもののデジタル撮影への移行が予想以上に早く、ほとんどがデジタル撮影となり、フィルムによる新規撮影が想定を下回ったため、776 枚に留まった。 (東京国立博物館)									
3)収蔵品情報のデータ化では、特に和古書・洋古書のデジタル撮影を行った。デジタル化済みのマイクロフィルムと合わせての公開に向けて、公開システムを試作した。									
【定量的評価】項目		24 年度実績	目標値	評価	経年変化	20	21	22	23
収蔵品写真等の既存フィルムのデジタル化件数		776 件	1,000 件程度	B (A)		139,000	775,300	8,639	1,468
うちカラーフィルム		715 件	—	—		2,583	3,480	5,136	1,392
うちモノクロフィルム		61 件	—	—		14,817	23,639	3,503	76
うちマイクロフィルム		0 件	—	—		121,600	748,181	0	0
総合評価	S (A) B C F(S、Fの理由)								
【中期計画記載事項】									
収蔵品等の文化財その他関連する資料の情報について、永く後世に記録を残すために、データ整備及びデジタル化を推進する。また、整備したデータを公開するウェブサイトなどの公開システムの充実を行う。公開データの件数は継続的に増加させる。									
収蔵品等に関するデジタル化件数は、その都度目標を設定する。									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					順調				

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(4)文化財情報の発信と広報の充実 ① デジタル化の推進								
【年度計画】 (4館共通) 1) 収蔵品のデジタル画像による来館者への情報提供及びインターネットでの公開を継続して行う。 2) 収蔵品の国宝・重要文化財について、5ヵ国語(日本語、英語、中国語、韓国語、フランス語)の説明を付したデジタル高精細画像(e 国宝)を継続して公開する。 3) 約7,000件(東京:1,000、京都:2,000、奈良:3,000、九州:1,000)の収蔵品写真等の既存フィルムのデジタル化を実施する。 (京都国立博物館) 1) 収蔵品について多国語の説明を付した国宝重要文化財・名品 高精細画像閲覧システムの整備を継続して実施する。									
担当部課	総務課 学芸部	事業責任者	総務課長 植田義雄 列品管理室長 鬼原俊枝						
【実績・成果】 (4館共通) 1) 収蔵品のデジタルデータを作成し、文化財情報システム及び公開収蔵品データベースの登録を随時行い、当館デジタルアーカイブ及び公開情報サービスを行った。 2) 収蔵品の国宝・重要文化財について、5ヵ国語(日本語、英語、中国語、韓国語、フランス語)の説明を付したデジタル高精細画像(e 国宝)を継続して公開した。 3) 収蔵品写真等の既存フィルムのデジタル化を継続し、2,732件実施した。 (京都国立博物館) 1) 重要文化財高精細画像公開システム「KNM GALLERY」にて平成21年度より公開している6ヵ国語(日本語、英語、韓国語、スペイン語、フランス語、中国語)による解説について、内容及び表示方法等について修正を行った。 (中期計画記載事項) ・収蔵品データベースで公開する画像は昨年度より検索できる件数を201点増加させた。									
【補足事項】  重要文化財高精細画像公開システム 「KNM GALLERY」									
【定量的評価】項目		24年度実績	目標値	評価	経年変化	20	21	22	23
収蔵品写真等の既存フィルムのデジタル化件数		2,732件	2,000件程度	A		—	—	—	2,165
総合評価	S (A) B C F (S、Fの理由)								
【中期計画記載事項】 収蔵品等の文化財その他関連する資料の情報について、永く後世に記録を残すために、データ整備及びデジタル化を推進する。また、整備したデータを公開するウェブサイトなどの公開システムの充実を行う。公開データの件数は継続的に増加させる。 収蔵品等に関するデジタル化件数は、その都度目標を設定する。									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調					

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信																												
事業名	(4)文化財情報の発信と広報の充実 ① デジタル化の推進																												
【年度計画】 (4館共通) 1)収蔵品のデジタル画像による来館者への情報提供及びインターネットでの公開を継続して行う。 2)収蔵品の国宝・重要文化財について、5ヵ国語(日本語、英語、中国語、韓国語、フランス語)の説明を付したデジタル高精細画像(e 国宝)を継続して公開する。 3)約7,000件(東京：1,000、京都：2,000、奈良：3,000、九州：1,000)の収蔵品写真等の既存フィルムのデジタル化を実施する。 (奈良国立博物館) 1)収蔵品について情報の整備を継続して実施し、収蔵品データベースの充実を図る。 2)画像データベースの個別データを約2,000件追加更新する。 3)修理記録・古写真・ガラス乾板等の整理とデジタル化を推進し、運用方法について検討する。 4)仏教美術資料研究センターのウェブサイト(蔵書検索)の開設と、利用案内パンフレットの作成を実施して、仏教美術情報の公開・普及を図る。																													
担当部課	学芸部資料室	事業責任者	室長 宮崎幹子																										
【実績・成果】 (4館共通) 1)収蔵品データベースと画像データベースの公開により、来館者及びインターネットでの情報提供を継続して行った。 2)国宝・重要文化財のデジタル高精細画像(e 国宝)を継続して公開した。 3)収蔵品写真等の既存フィルムのデジタル化を実施した(4,924件)。 (奈良国立博物館) 1)館内の収蔵品情報システムを更新するとともに、公開用の収蔵品データベースにも継続して情報を蓄積し、画像、解説文、文献情報を充実させた。 2)画像データベースの個別データを13,402件追加更新した。このうち公開データは4,326件(23年度は2,104件)。 3)「美術院彫刻等修理記録」の整理とデータ作成を継続して行い、学芸部内でデータベースを閲覧できる環境を整備した。 4)仏教美術資料研究センターのウェブサイトを運営し、蔵書、論文データの更新を行い内容の充実に努めた。利用案内パンフレットを更新し、建物見学の際に配布するなどして施設の普及を図った。 (中期計画記載事項) 公開データを4,326件(昨年度は2,104件)追加更新した。																													
【補足事項】 館内で運用している収蔵品情報システムのリプレイスを行い、あわせて館蔵品・寄託品にかかわる情報の総点検を実施した。このシステムは学芸部が行っている文化財の管理に活用されるもので、その使用範囲は、文化財の登録・返還、証書発行の他、移動履歴、画像、文献、解説文の管理など大変幅広く、学芸業務の遂行になくてはならない重要なツールである。システムのリプレイスにより業務の効率化が達成されたのと同時に、総点検により文化財に関する情報の一元管理が徹底された。 システムでは、インターネットで公開する収蔵品データベースの情報も管理しており、文化財情報の発信基盤の強化も実現できた。																													
作品データ 画像データ 検索結果に該当 作品データ閲覧 19/103 基本 基本(表) 館蔵品 寄託品・一時預り品 移動 保存管理 画像 解説文 文献 管理  管理区分 物品番号 区分 記号番号 新採証書番号 作品ID 分類記号 名称 ふりがな 所蔵者1 名称(団体目録) 名称(物品カード) 員数 指定番号 指定区分 指定年月日 指定年月日 有効 有効 1019101-0004 0 木蓮園(奈良国立) 元興寺 かんごん 木蓮園(奈良国立) 指定区分(韓国) 指定年月日(韓国) 収蔵品情報システム																													
<table><tr><td>【定量的評価】項目</td><td>24年度実績</td><td>目標値</td><td>評価</td><td rowspan="3">経年変化</td><td>20</td><td>21</td><td>22</td><td>23</td></tr><tr><td>収蔵品写真等の既存フィルムのデジタル化件数</td><td>4,924件</td><td>3,000件程度</td><td>S</td><td>1,410</td><td>90,555</td><td>4,311</td><td>5,297</td></tr><tr><td>写真データベースの個別データ追加更新件数</td><td>13,402件</td><td>2,000件程度</td><td>S</td><td>6,989</td><td>12,399</td><td>5,190</td><td>4,370</td></tr></table>					【定量的評価】項目	24年度実績	目標値	評価	経年変化	20	21	22	23	収蔵品写真等の既存フィルムのデジタル化件数	4,924件	3,000件程度	S	1,410	90,555	4,311	5,297	写真データベースの個別データ追加更新件数	13,402件	2,000件程度	S	6,989	12,399	5,190	4,370
【定量的評価】項目	24年度実績	目標値	評価	経年変化	20	21	22	23																					
収蔵品写真等の既存フィルムのデジタル化件数	4,924件	3,000件程度	S		1,410	90,555	4,311	5,297																					
写真データベースの個別データ追加更新件数	13,402件	2,000件程度	S		6,989	12,399	5,190	4,370																					
総合評価	⑤ A B C F (S、Fの理由)デジタル化推進による定量的評価目標値の大幅超えと、システム更新による文化財情報発信基盤の強化実現を実施できたため。																												
【中期計画記載事項】 収蔵品等の文化財その他関連する資料の情報について、永く後世に記録を残すために、データ整備及びデジタル化を推進する。また、整備したデータを公開するウェブサイトなどの公開システムの充実を行う。公開データの件数は継続的に増加させる。 収蔵品等に関するデジタル化件数は、その都度目標を設定する。																													
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					順調																								

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(4)文化財情報の発信と広報の充実 ① デジタル化の推進								
【年度計画】 (4館共通) 1) 収蔵品のデジタル画像による来館者への情報提供及びインターネットでの公開を継続して行う。 2) 収蔵品の国宝・重要文化財について、5ヵ国語(日本語、英語、中国語、韓国語、フランス語)の説明を付したデジタル高精細画像(e 国宝)を継続して公開する。 3) 約7,000件(東京:1,000、京都:2,000、奈良:3,000、九州:1,000)の収蔵品写真等の既存フィルムのデジタル化を実施する。 (九州国立博物館) 1) 収蔵品に関するコンテンツを順次追加し、デジタルアーカイブの充実を図る。 2) 海外調査で撮影した写真やビデオを展示や教育普及事業で活用するための整備を行う。									
担当部課	学芸部文化財課 交流課	事業責任者	資料管理室主任研究員 原田あゆみ 教育普及室主任研究員 進村真之						
【実績・成果】 (4館共通) 1) 九州国立博物館収蔵品デジタルアーカイブの拡充を図り、館内及びインターネットで収蔵品情報を発信している。 2) 新たに収蔵された文化財情報のデジタル高精細画像(e 国宝)による公開に向けて、準備を進めている。 3) 1,450件の収蔵品写真等の既存フィルムのデジタル化を実施した。 (九州国立博物館) 1) 昨年度から開始した九州国立博物館内に設置した収蔵品デジタルアーカイブ公開の利便性を向上するため、当該機器の性能を高めた。また、今年度新たに11件の収蔵品情報と、昨年度掲載分収蔵品の1件の画像として新たに750枚のデジタル画像の追加を行った。 2) 今年度は海外での撮影を行わず、既存の資料の資料整理を行った。 (中期計画記載事項) ・九州国立博物館収蔵品デジタルアーカイブの公開データを増加した。(新規追加作品11件、写真追加作品1件)									
【補足事項】 (4館共通) 1) 館内2ヵ所に設置している「九州国立博物館収蔵品デジタルアーカイブ」機器の処理能力増強と、オペレーティングシステム・システムソフトウェアの最新版化を行い、来館者の利便性を高めた。 2) デジタル高精細画像(e 国宝)による収蔵品データ公開に向け、昨年度まで主流だった4×5カラーポジフィルムによる撮影から、デジタル高精細カメラ(Phase One)による撮影を積極的に進めた。 3) 撮影方法の変化により、今年度撮影分のポジフィルムは減少し、一方、デジタル画像データの蓄積が進んだ。既存のポジフィルムについては継続的にデジタル化を進めている。 (九州国立博物館) 1) インターネットによるデジタル画像の紹介については「九州国立博物館収蔵品デジタルアーカイブ」の充実化により、その前身である「収蔵品ギャラリー」の役割は終わり、ウェブサイトトップページから「収蔵品ギャラリー」の取り下げを検討中である。									
									
九州国立博物館館内に設置している収蔵品デジタルアーカイブ									
【定量的評価】項目		24年度実績	目標値	評価	経年変化	20	21	22	23
収蔵品写真等の既存フィルムのデジタル化件数		1,450 件	1,000 件程度	A		3,963	3,574	1,391	2,146
総合評価	S ④ B C F(S、Fの理由)								
【中期計画記載事項】 収蔵品等の文化財その他関連する資料の情報について、永く後世に記録を残すために、データ整備及びデジタル化を推進する。また、整備したデータを公開するウェブサイトなどの公開システムの充実を行う。公開データの件数は継続的に増加させる。 収蔵品等に関するデジタル化件数は、その都度目標を設定する。									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調					

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(4)文化財情報の発信と広報の充実 ②博物館関係資料の収集及び発信、レファレンス機能の強化							
【年度計画】 美術史・考古学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館・美術館に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積を図る。また、資料の登録や検索・利用については、最新の情報処理技術を用いた、活用しやすいシステムを開発する。 (4館共通) 1)約9,500件(東京:3,000、京都:3,000、奈良:3,000、九州:500)の収蔵品・出品作品等の新規撮影及び関連データを整備する。 (東京国立博物館) 1)資料館において、美術史等の情報及び資料を一般に広く公開するために、図書管理システム及び画像管理システムを軸とした図書資料、画像資料などのデータ整備を推進し、レファレンス機能とサービスの充実を図る。 2)法隆寺宝物館において、観覧者向け図書コーナーサービスを継続実施する。 3)調査・研究・教育などに有益な情報及び関係資料を収集・蓄積する。 4)資料館の機能の拡充に向け、施設・設備の見直しを含めた、利用計画を策定する。								
担当部課	学芸企画部博物館情報課	事業責任者	課長 高橋裕次					
【実績・成果】(4館共通) 1)本年度は9,556件の収蔵品・出品作品等の新規撮影及び関連データを整備した。 (東京国立博物館) 1)資料館における美術史等の情報・資料の公開のため、図書資料等のデータ整備を推進した。 資料館において資料の閲覧、複写及びレファレンスサービスを継続して実施した。4月よりカラーコピーを導入するとともに、当館ウェブサイトのプリントアウトサービスを開始した。資料館利用者数は前年度にくらべ大幅に増加した。(4,828人。参考:23年度3,385人)また、所蔵資料の紹介を含む「東京国立博物館資料館案内2012」を作成した。 2)法隆寺宝物館において、観覧者向け図書コーナーサービスを継続した。 3)博物館の調査研究、展示等の業務を支援し一般利用者の利用に供するため、関連する図書及び関係資料を収集した。 収集体数;購入図書454冊、寄贈・交換図書4,423冊、館蔵品等の写真資料9,556枚 4)閲覧室の配置換えを実施して書架を増設し、和書以外にも洋書・中国語・韓国語図書、他館の展覧会カタログなどを配架して開架図書の充実につとめた。東京国立博物館関連図書コーナーや特別展関連図書コーナーは閲覧カウンター前にまとめて利用の便宜を図った。また、館内配布物やポスター、チケットなどの収集・保存・公開に向けた取り組みを実施した。								
【補足事項】 (東京国立博物館) 1)・図書整理は、図書整理は、新規図書4,877冊、漢籍線装本12,631冊を含む既存図書13,693冊の図書データを作成し、資料IDを付与した。また貴重書について閲覧の事前予約の案内を個別に表示するよう設定した。 ・図書館システムのリプレイスに伴い、クラウド型のシステムに移行した。 ・国立情報学研究所の目録所在情報サービス(NACSIS-CAT)及び美術館図書横断検索に継続して参加し当館蔵書への検索サービスの向上に努めた。 (OPAC公開数:図書約21万冊、雑誌約7千タイトル、目次・論文データ約6千件) 3)当館刊行図書等の目次・論文データの入力、及び収載された列品番号の入力を行った。また列品貸与で寄贈された展覧会カタログについても列品番号の入力を開始した。 4)図書資料の展示コーナー及び新着書架において、所蔵資料紹介の展示(年4回)、月毎の新着資料の展示を行った。展覧会開催に合わせて、関連図書の展示を行い、展示会場(インフォメーション)にて関連図書リストを配布した。また、『東京国立博物館ニュース』及びライブラリーニュース(OPAC)に記事を掲載し情報発信に努めた。								
								
資料館参考図書コーナー								
【定量的評価】項目	24年度実績	目標値	評価	経年変化	20	21	22	23
収蔵品・出品作品等の新規撮影及び関連データ整備件数	9,556件	3,000件程度	S		4,721	16,567	11,343	10,566
うちフィルム撮影	1,063件	—	—		4,703	4,177	5,377	1,379
うちデジタル撮影	8,493件	—	—		18	12,390	5,966	9,187
新規図書整理	4,877件	—	—		7,781	3,411	7,345	3,970
遡及図書整理	13,693件	—	—		5,709	11,105	7,836	5,459
総合評価	⑤ A B C F(S、Fの理由) 資料館利用者数、図書登録数において顕著な増加を見た。							
【中期計画記載事項】 美術史・考古学・博物館学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館等に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積するとともに、情報の発信と、レファレンス機能を充実させる。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調				

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(4)文化財情報の発信と広報の充実 ②博物館関係資料の収集及び発信、レファレンス機能の強化								
【年度計画】 美術史・考古学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館・美術館に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積を図る。また、資料の登録や検索・利用については、最新の情報処理技術を用いた、活用しやすいシステムを開発する。 (4館共通) 1)約9,500件(東京:3,000、京都:3,000、奈良:3,000、九州:500)の収蔵品・出品作品等の新規撮影及び関連データを整備する。									
担当部課	学芸部列品管理室	事業責任者	室長 鬼原俊枝						
【実績・成果】 (4館共通) 1)収蔵品、出品作品等の新規撮影は、フィルム撮影を2,168枚、デジタル撮影を545枚行った。 ・デジタルカメラ等撮影機材の導入を進め、デジタル撮影に移行を開始した。 ・収蔵フィルムの一括デジタル化作業を継続して行った。 ・フィルム用スキャナを導入し、デジタル化の促進と費用の節減を図った。 ・館蔵ガラス乾板の保存整理事業を開始し、デジタル保存のためのスキャナ及び周辺機器の導入を進めた。 ・調査、研究、教育等に資するため、図書資料においては、新規図書9,941冊、逐次刊行物2,713冊を収集した。									
【補足事項】 ・今年度は科学研究費「南山城地域の仏教文化と歴史に関する総合的研究」(3ヵ年)の2年目であり、禅定寺、壽寶寺、観音寺、及び一休寺の調査を行い、出張撮影を行った。 ・当館の展覧会出品作品の撮影は、「王朝文化の華 陽明文庫名宝」展、「古代出雲」展、「宸翰」展、「国宝十二天と密教法会の世界」展、また25年3月30日開始予定の「狩野山楽・山雪」展を対象として進めた。 ・フィルムのデジタル化作業は要望の多い作品のデジタル化が進捗したので、絵巻のような連続した写真の要望が多い作品のデータの整備を始めた。 ・デジタル画像の提供は、別途「@KYOTOMUSE Digital Archives」(artize.net)を介し継続的に行っている。 ・デジタル化に必要なフィルム量が膨大であるため、従来のアウトソーシングと同時に、より経済的なスキャナの導入による作業の準備を進めた。 ・ガラス乾板の劣化が深刻であるため、ほこり払い、状態の記録、収納箱の清朝等、新展示館のよりよい環境に移す準備作業を開始した。 ・同時にガラス乾板の優れた画像をデジタル化によって保存活用するためのスキャナを導入し、さらに周辺機器の整備を進めつつある。 ・図書管理システム、資料の登録・検索を行う文化財情報システムについては、引き続き情報システム検討委員会で課題を検討しつつ、運用している。									
【定量的評価】項目		24年度実績	目標値	評価	経年変化	20	21	22	23
収蔵品・出品作品等の新規撮影及び関連データ整備件数		2,713件	3000件程度	B		6,478	3,753	3,379	3,580
うちフィルム撮影		2,168件	—	—		—	—	—	3,410
うちデジタル撮影		545件	—	—		—	—	—	170
総合評価	S (A) B C F (S、Fの理由)								
【中期計画記載事項】 美術史・考古学・博物館学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館等に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積するとともに、情報の発信と、レファレンス機能を充実させる。									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					順調				



南山城古寺調査における
資料調査状況

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(4)文化財情報の発信と広報の充実 ②博物館関係資料の収集及び発信、レファレンス機能の強化							
【年度計画】 美術史・考古学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館・美術館に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積を図る。また、資料の登録や検索・利用については、最新の情報処理技術を用いた、活用しやすいシステムを開発する。 (4館共通) 1)約 9,500 件(東京:3,000、京都:3,000、奈良:3,000、九州:500)の収蔵品・出品作品等の新規撮影及び関連データを整備する。 (奈良国立博物館) 1)図書情報システム及び写真情報システムによる資料整備と情報蓄積を推進し、内外の利用者に対してサービスの充実を図る。 2)仏教美術資料研究センターの耐震補強工事完了をうけて、利用者に対し利便性向上を図るため、資料配置を全面的に見直し、資料の有効的な活用と効率的な運用について検討し、実施する。								
担当部課	学芸部資料室	事業責任者	室長 宮崎幹子					
【実績・成果】 (4館共通) 1)収蔵品・展覧会等出品作品等の新規撮影を多数行い、関連データを整備した(4,960 件)。 (奈良国立博物館) 1)図書情報システム及び画像情報システムによる情報蓄積を推進し、仏教美術資料研究センター及びインターネットにおける情報公開を充実させた。「日本美術院彫刻等修理記録」の整理を進め、学芸部内でデータベースを閲覧できる環境を整えた。 2)仏教美術資料研究センターの工事完了をうけて、新しい平面プランと利便性に配慮した資料の配置を行い、一部の資料の移動を実施した。通常の施設・資料公開にとどまらず、アーカイブズ学、建築学関係の専門家の見学・研修の受け入れを複数回行った。								
【補足事項】 1)図書情報システム・画像情報システムのデータ更新を継続して行い、情報提供機能の強化に努めている。仏教美術資料研究センターで公開するデータベースに関しては、インターネットで公開するデータベースとの適切な分離を行い、収蔵品以外の画像データも閲覧できる環境を整備している。これらにより、資料とデジタルデータの迅速な公開が実現され、利用者の利便性の向上を図っている。 2)・仏教美術資料研究センターの改修工事完了を機に、通常の施設・資料の利用者とともに、アーカイブズ学、建築学関係の専門家・愛好者からの見学・研修・取材依頼が増加している。それらに適宜対応することにより、施設及び機能の普及・宣伝に効果を上げている。 ・昨年度作成した冊子及び案内パンフレットを引き続き活用しているが、案内パンフレットについては本年度版に更新し、建物内に設置する解説パネルも新たに追加整備し、情報提供サービスの拡充に努めている。								
								
仏教美術資料研究センター 案内パンフレット (2012 年更新版)								
【定量的評価】項目	24 年度実績	目標値	評価	経年 変 化	20	21	22	23
収蔵品・出品作品等の新規撮影及び関連データ整備件数	4,960 件	3,000 件程度	S		6,457	5,818	11,684	6,103
うちフィルム撮影	14 件	—	—		6,457	5,818	1,725	219
うちデジタル撮影	4,944 件	—	—		—	—	10,677	5,884
総合評価	S (A) B C F (S、F の理由)							
【中期計画記載事項】 美術史・考古学・博物館学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館等に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積するとともに、情報の発信と、レファレンス機能を充実させる。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調				

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(4)文化財情報の発信と広報の充実 ②博物館関係資料の収集及び発信、レファレンス機能の強化								
【年度計画】 美術史・考古学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館・美術館に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積を図る。また、資料の登録や検索・利用については、最新の情報処理技術を用いた、活用しやすいシステムを開発する。 (4館共通) 1) 約 9,500 件 (東京：3,000、京都：3,000、奈良：3,000、九州：500)の収蔵品・出品作品等の新規撮影及び関連データを整備する。 (九州国立博物館) 1) 対馬宗家文書データベースの効率的な運用を検討し、実施する。 2) 博物館資料(収蔵品、図書、写真など)データベースにおける業務の効率化に向けて、現行業務システムを全面的に見直し、より充実した第2次業務システム構築を目指す。									
担当部課	学芸部文化財課	事業責任者	資料管理室主任研究員 原田あゆみ						
【実績・成果】 (4館共通) 1) 2,142 件の収蔵品・出品作品等の新規撮影及び関連データを整備した。 (九州国立博物館) 1) 対馬宗家文書データベースの効率的な運用のため、システムについて整備した。具体的には固有名詞データと、その固有名詞データの表記のゆれに対応する一覧を作成し、検索システムを新たに作ることで検索の精度を向上させ、さらに専門的知識を持たない一般の人でも容易に検索が可能となるよう改修を行った。 2) 図書資料データベースについては、運用の効率化を図るため新たな機能を追加し、画像については収蔵品データベースの拡充にあわせて、収蔵品画像データの準備を進めた。									
【補足事項】 (4館共通) 1) 収蔵品・出品作品等の新規撮影は、フィルム撮影に代わりデジタル撮影が主体となった。 (九州国立博物館) 1) 宗家文書データベース中、対象となる固有名詞データは、翻刻データのある 13,696 件のうち、御内書 687 件を除く 13,009 件中、1,051 件であった。 2) 美術史・考古学その他の関連諸学に関する基礎資料として図書資料を継続的に収集した他、日本中世史を中心に大規模な図書の寄贈を受けた。これにより図書データベースのデータが格段に増加した。									
 九州国立博物館修理報告書 掲載写真の撮影 大応国師坐像 円福寺所蔵									
【定量的評価】項目		24 年度実績	目標値	評価	経 年 変 化	20	21	22	23
収蔵品・出品作品等の新規撮影及び関連データ整備件数		2,142 件	500 件程度	S		6,633	4,686	1,393	4,441
うちフィルム撮影		1,480 件	—	—		—	—	1,357	2,175
うちデジタル撮影		662 件	—	—		—	—	36	2,266
総合評価	S (A) B C F (S、F の理由)								
【中期計画記載事項】 美術史・考古学・博物館学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館等に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積するとともに、情報の発信と、レファレンス機能を充実させる。									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					順調				

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信																									
事業名	(4)文化財情報の発信と広報の充実 ③ 広報計画の策定と情報提供																									
【年度計画】 (機構本部) 1)機構の概要、年報を作成する。 2)機構本部ウェブサイトを運用し、法人情報の提供を行う。																										
担当部課	本部事務局総務企画課		事業責任者	課長 竹之内勝典																						
【実績・成果】 (機構本部) 1)『独立行政法人国立文化財機構概要 平成24年度』を24年7月に発行し、PDF版をウェブサイトに掲載した。 『独立行政法人国立文化財機構年報 平成23年度』を25年1月に発行し、PDF版をウェブサイトに掲載した。 2)機構本部ウェブサイト(http://www.nich.go.jp/)の運用を継続した。随時掲載情報の追加更新を行い、広く一般に向けた法人情報の提供を行った。																										
【補足事項】 1)『平成24年度概要』: 3,000部、カラー44ページ、和英併記。 『平成23年度年報』: 280部、カラー4ページ・モノクロ1,049ページ。 2)機構本部ウェブサイトアクセス件数: 260,558件。																										
『独立行政法人国立文化財機構 概要 平成24年度』 『独立行政法人国立文化財機構 年報 平成23年度』 独立行政法人国立文化財機構 ウェブサイト トップページ																										
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;">【定量的評価】項目</th> <th style="width: 10%;">24年度実績</th> <th style="width: 10%;">目標値</th> <th style="width: 10%;">評価</th> <th style="width: 5%;">経年変化</th> <th style="width: 10%;">20</th> <th style="width: 10%;">21</th> <th style="width: 10%;">22</th> <th style="width: 10%;">23</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">—</td> <td style="text-align: center;">—</td> <td style="text-align: center;">—</td> <td style="text-align: center;">—</td> <td></td> <td style="text-align: center;">—</td> <td style="text-align: center;">—</td> <td style="text-align: center;">—</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </tbody> </table>									【定量的評価】項目	24年度実績	目標値	評価	経年変化	20	21	22	23	—	—	—	—		—	—	—	—
【定量的評価】項目	24年度実績	目標値	評価	経年変化	20	21	22	23																		
—	—	—	—		—	—	—	—																		
総合評価	S (A) B C F (S、Fの理由)																									
【中期計画記載事項】 展示や教育事業等について、個々の企画の目的、対象、内容、学術的な意義を踏まえて広報計画を策定し、情報提供を行う。																										
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調																						

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(4)文化財情報の発信と広報の充実 ③ 広報計画の策定と情報提供							
【年度計画】 (4館共通) 1)年間スケジュールリーフレットの制作・配布を行う。 (東京国立博物館、奈良国立博物館) 1)広報・宣伝制作物の企画・制作・配布等を行う。 (東京国立博物館) 総合文化展の活性化に重点をおいた広報活動を行う。 1)本館2階「日本美術の流れ」のテーマ解説及び主な展示作品の解説をまとめ、展示替ごとに更新する日本語パンフレットを継続して作成し、配布する。 2)平成25年1月の東洋館リニューアルオープン及び開館140周年に関連した広報展開の企画・運営を行う。								
担当部課	学芸企画部広報室		事業責任者		室長 小林牧			
【実績・成果】 (4館共通) 1)年間スケジュールリーフレットを制作し(35,000部)、送付及び館内配布した。 (東京国立博物館、奈良国立博物館) 1)『東京国立博物館ニュース』(隔月刊、号外)、「博物館でお花見を」「秋の特別公開」「博物館に初もうで」他各種広報印刷物を制作・配布した。 (東京国立博物館) 1)「日本美術の流れ」パンフレットに関しては処理番号2311-2を参照。 2)東京国立博物館140周年「ブンカのちからにありがとう」及び「東洋館リニューアルオープン」のキャンペーンを行った。								
【補足事項】 2) ・140周年記念パンフレットによるスタンプラリーを引き続き展開した。(24年1月～25年3月) ・館のスタッフ計140名による「140周年ありがとうブログ」の更新を継続した。 ・「東洋館リニューアルオープン」ならびに「博物館に初もうで」のキャンペーンポスターに、俳優の井浦新氏を起用した。井浦氏には、開館記念式典への出席、同時開催特別展「飛騨の円空」でのトークショー出演も依頼し、広報とイベントの相乗効果による来館者増を狙った。 ・ドラマ仕立てのショートフィルム形式による「東洋館リニューアルオープン」プロモーション動画を作成し、館のサイト、ならびにYouTubeで公開した。 東京メトロの社内広告枠でも放映を行った。								



140周年キャンペーンポスター



東洋館プロモーション動画

【定量的評価】項目		24年度実績	目標値	評価	経年変化	20	21	22	23
—		—	—	—			—	—	—

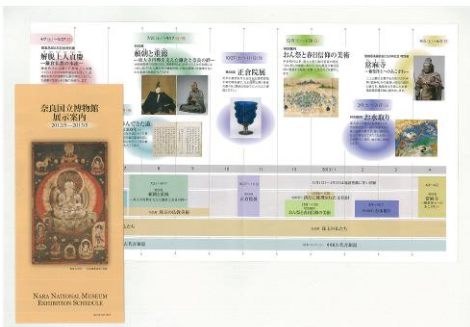
総合評価	⑤ A B C F (S、Fの理由) 東洋館リニューアルキャンペーンにより、東京国立博物館及び総合文化展の認知度を高めた。							
------	---	--	--	--	--	--	--	--

【中期計画記載事項】								
展示や教育事業等について、個々の企画の目的、対象、内容、学術的な意義を踏まえて広報計画を策定し、情報提供を行う。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					達成			

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(4)文化財情報の発信と広報の充実 ③ 広報計画の策定と情報提供								
【年度計画】 (4館共通) 1)年間スケジュールリーフレットの制作・配布を行う。									
担当部課	学芸部	事業責任者	企画室長 宮川禎一						
【実績・成果】 (4館共通) 1)年間スケジュールリーフレットの制作・配布を行った。									
【補足事項】 ・24年4月～25年3月の展覧会日程を記載した年間スケジュールリーフレットを作成・配布した。(30,000部) ・近隣私鉄会社と連携し、ポスター・チラシの駅構内掲示等広報活動を実施した。 ・最寄り駅となる京阪電鉄と連携した広報活動の実施に向け、検討会を実施した。 ・通常1度開催の展覧会記者発表会を複数回実施し、展示内容や見どころについてより詳細にレクチャーを行い、記事掲載機会の拡大に努めた。 ・展覧会のジャンルに併せてチラシ等發送リストの見直しを行い、より効果的な情報発信に努めた。 ・メールマガジン会員数の維持・増加を目的として、会員特典の小冊子(PDF)発刊を開始した。 ・ツイッターを通じて展覧会の混雑状況の迅速な情報発信を開始した。 ・一般社団法人京都府タクシー協会の構成員に対して展覧会の特別鑑賞会を実施し、さらなる観覧者数の増加を図った。 ・25年3月に博物館の事業促進と文化財保護基金の広報推進を図るために広報特使を新設し、女優の藤原紀香氏を任命した。									
【定量的評価】項目		24年度実績	目標値	評価	経年変化	20	21	22	23
—		—	—	—		—	—	—	—
総合評価	S (A) B C F (S、Fの理由)								
【中期計画記載事項】 展示や教育事業等について、個々の企画の目的、対象、内容、学術的な意義を踏まえて広報計画を策定し、情報提供を行う。									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					順調				



年間スケジュールリーフレット

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(4)文化財情報の発信と広報の充実 ③ 広報計画の策定と情報提供							
【年度計画】 (4館共通) 1)年間スケジュールリーフレットの制作・配布を行う。 (東京国立博物館、奈良国立博物館) 1)広報・宣伝制作物の企画・制作・配布等を行う。 (奈良国立博物館) 1)広報活動を多面的に行うため、広報の外注化を引き続き検討する。 2)広報業務を一元化するとともに、戦略的な広報体制を整備する。 3)特別展の際に、タクシー・ホテル等関係者に対する内覧会を実施し、タクシー・ホテル等利用者への広報活動を展開する。 4)地元の観光協会に入会し、観光協会を通じて観光客への広報活動を展開する。 5)地元の自治体・商工団体・観光団体等と連携した広報活動の展開を図る。 6)文化大使を引き続き任命し、広報活動を行う。 7)写真・映像の撮影等に場所提供を含め協力することにより博物館の認知度を高める。								
担当部課	学芸部情報サービス室 総務課渉外室	事業責任者	室長 吉澤 悟 総括専門職員 森継明広					
【実績・成果】 (4館共通) 1)24年5月～25年5月の展覧会日程を記載したリーフレットの初版を5月に5,000部、一部改訂版を10月に30,000部作成し、配布した。 (東京国立博物館、奈良国立博物館) 1)それぞれの展覧会の特性や意義に応じた広報の方針、及び印刷物の部数を議論する広報戦略委員会を、6回実施した。 (奈良国立博物館) 1)広報業務の一部（ポスター・チラシ等の発送）については外注化した。 2)ポスター・チラシの発送先の一元管理化を行い、鉄道の駅貼りやバス広告などの広報の可能性を検討した。 3)特別展では、タクシー・ホテル等関係者に対する内覧会を実施、タクシー・ホテル等の利用者への広報活動を行った。 4)奈良市観光協会への入会をはじめ、積極的に地元観光業界に対し広報活動を展開するとともに情報収集に努めた。 5)奈良県が後援する観光イベントへの積極的な協力や、奈良県ビジターズビューローとの連携等、地域の観光団体等と連携した広報活動を展開した。 6)文化大使の任期満了にとめない、次期候補者の選考を行った。 7)新聞社や鉄道会社の広報誌、地元のタウン情報誌等の写真撮影協力やテレビ局に対して放送のための映像撮影協力を行い、博物館の認知度を高めた。								
【補足事項】 5)・「はじめは正倉院展実行委員会」に参加し、「まちなかバル」及びスタンプラリーに協力した。 ・地元ホテルのスタンプラリーの特典として、観覧料金の割引を実施した。 ・地元商店街の割引クーポン利用施設に参加した。								
								
リーフレット（一部改訂版）								
【定量的評価】項目	24年度実績	目標値	評価	経年変化	20	21	22	23
—	—	—	—	—	—	—	—	—
総合評価	S ① B C F (S、Fの理由)							
【中期計画記載事項】 展示や教育事業等について、個々の企画の目的、対象、内容、学術的な意義を踏まえて広報計画を策定し、情報提供を行う。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調				

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(4)文化財情報の発信と広報の充実 ③広報計画の策定と情報提供							
【年度計画】 (4館共通) 1)年間スケジュールリーフレットの制作・配布を行う。 (九州国立博物館) 1)特別展の実施に伴う広報・宣伝材料を制作する。特に特別展の内容理解を促進するための番組を制作、TV放映する。 2)現在及び過去や将来の展示リストを検索・紹介し、新鮮な展示情報を情報発信するためのウェブデータベースを整備する。 3)地元の自治体・商工団体・観光団体等と連携した広報活動を展開する。 4)九州観光推進機構を通じた海外への広報・営業活動を展開する。 5)文化交流展示室からの積極的な情報発信を図るため、ポスター・ちらし・ウェブコンテンツの活用を一層、促進する。								
担当部課	学芸部企画課	事業責任者	課長	小泉恵英				
	広報課		文化交流展示室長	河野一隆				
			課長	梶村正年				
【実績・成果】 (4館共通) 1)年間スケジュールリーフレット「九州国立博物館 展示スケジュールのご案内」の制作・配布を行った。(5,000部) (九州国立博物館) 1)特別展「平山郁夫展」、「美のワンダーランド」、「ベルリン国立美術館展」等でTV番組を制作・放映した。 2)今年度、ウェブデータベースシステムを改修して使用の利便性を向上させると同時に、館内のみであるが公開・運用を開始した。 3)1,000万人達成記念セレモニーにおいて太宰府観光協会と連携した広報活動を実施した。また、トピック展示ポスター掲示、展示・イベントスケジュールチラシの設置など観光協会と連携した広報活動を実施した。 4)九州観光推進機構を通じ海外のメディアに博物館の紹介を行った。 5)ポスター・チラシによる広報効果を上げるため、広報依頼目的の後援を積極的に募った。 ○広報事務局と協力して来館者マーケティングを実施し、交通広告に注力した上で来館者増を図った。								
【補足事項】 (九州国立博物館) 1)年間スケジュールリーフレットを製作・配布しただけでなく、来館者が多かった「ベルリン国立美術館展」(24年10月9日～12月2日)期間中には、年度後半のトピック展示を告知する広報物を作成・配布した。 2)従来のシステムでは収蔵品と陳列案のそれぞれのシステムがデータの同期が取れていなかった。今回は設計理念に収蔵品台帳システムとのリンクを前提とし、若干の改善の余地はあるものの利便性は飛躍的に向上した。 3)1,000万人達成記念セレモニーにおいて、参道に旗の設置、梅ヶ枝餅の配布など太宰府観光協会と連携した広報活動を実施した。また、トピック展示ポスター掲示、展示・イベントスケジュールちらしの設置など観光協会と連携した広報活動を実施した。 4)九州観光推進機構を通じ海外のメディアに博物館の紹介を行った。 5)従来は、広報物を作成しても特別展や他のトピック展示とリリースが重なったため、十分な広報効果を挙げる事ができなかった。今年度は、今まで広報の実績が少ない機関を開拓したことが、来場者増につながった。 ○広報課・広報事務局・展示課と交流展示室が広報連携を行うために、毎週ワーキンググループを開催し、来館者増を狙ったパブリシティを展開した。								
								
			2つのトピック展示の共通ポスター		年間スケジュールリーフレット 「九州国立博物館 展示スケジュールのご案内」			
【定量的評価】項目	24年度実績	目標値	評価	経年変化	20	21	22	23
—	—	—	—	—	—	—	—	—
総合評価	S (A) B C F (S、Fの理由)							
【中期計画記載事項】 展示や教育事業等について、個々の企画の目的、対象、内容、学術的な意義を踏まえて広報計画を策定し、情報提供を行う。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調				

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(4)文化財情報の発信と広報の充実 ④広報印刷物、ウェブサイト等の活用及びマスメディアとの連携強化等による積極的な広報活動								
【年度計画】 (4館共通) 1) マスコミ媒体や公共交通機関等と連携した広報活動を展開する。 2) ウェブサイト、モバイルサイトによる情報提供を行う。 3) メールマガジンを配信する。 (東京国立博物館) 1) 「東京国立博物館ニュース」の編集・発行・配布を行う。(年6回) 2) ウェブサイトでは、ブログや投票などの博物館の顔が見えるコンテンツの充実を図る。また、東洋館リニューアルオープンに即した新コンテンツを制作する。									
担当部課	学芸企画部広報室		事業責任者	室長 小林牧					
【実績・成果】 (4館共通) 1) マスコミ媒体や公共交通機関等と連携した広報活動を展開した。 2) ウェブサイト、モバイルサイトによる情報提供を行った。 3) メールマガジンを配信した。(32回) (東京国立博物館) 1) 『東京国立博物館ニュース』の編集・発行・配布を行った。(年7回 ※東洋館リニューアル号外含む) 2) ・140周年ブシカのちからにありがとうキャンペーンに伴う「140周年ありがとうブログ」を更新し、計140名のスタッフによる感謝の思いを発信した。(更新数111回) ・東洋館リニューアルに伴うコンテンツを付加し、ウェブサイトの充実を図った。									
【補足事項】 (4館共通) 1) ・「博物館にお花見を」において、FMラジオ局 J-WAVE とのタイアップによる J-WAVE SPRING FESTIVAL@トーハクを開催した。(24年4月7日) ・「秋の特別公開」において、FMラジオ局 J-WAVE とのタイアップによる TOKYO NATIONAL MUSEUM 140th “J-WAVE MUSIC CELEBRATION”を開催した。(24年9月23日) ・東洋館リニューアルオープンに際して、9月に報道発表会・プレオープンツアー、12月に報道内覧会を実施。多くの媒体から情報発信された。 (東京国立博物館) 1) ・隔月刊の『東京国立博物館ニュース』通常号に加え、東洋館リニューアル号外を発行した 2) ・「1089 ブログ」で、展示・催しなどの情報をタイムリーに発信した。(ブログ更新数182回) ・東洋館リニューアルオープンに伴い、展示案内のページの増設、マップ画像の改訂等を行った。 ・東洋館リニューアルオープンに伴い、プロモーション動画を作成し、ウェブサイト上で公開した。(詳細は処理番号2431参照)									
				  J-WAVE とのタイアップイベント					
				 『東京国立博物館ニュース』 東洋館リニューアル号外					
【定量的評価】項目		24年度実績	目標値	評価	経年変化	20	21	22	23
『東京国立博物館ニュース』発行		7回	6回	A		6	6	6	6
総合評価	⑤ A B C F (S、Fの理由) J-WAVE とのタイアップで今までにない周知活動が達成できた。								
【中期計画記載事項】 広報印刷物やウェブサイト等の自主媒体の活用及びマスメディアとの連携強化等により、積極的な広報を行う。									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				達成					

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(4)文化財情報の発信と広報の充実 ④広報印刷物、ウェブサイト等の活用及びマスメディアとの連携強化等による積極的な広報活動								
【年度計画】 (4館共通) 1) マスコミ媒体や公共交通機関等と連携した広報活動を展開する。 2) ウェブサイト、モバイルサイトによる情報提供を行う。 3) メールマガジンを配信する。 (京都国立博物館) 1) 「博物館だより」、「Newsletter」(英文)を年4回発行する。 2) 地域等が主催する各種の委員会に参加・連携し、広報活動を展開する。 3) 京都市内4美術館博物館で連携し、共通の展覧会情報パンフレットを制作・配布する。 4) 既刊の博物館ディクショナリーをウェブサイトに掲載し、新刊をメールマガジンにて配信し、利用者の拡大を図る。 5) 収蔵品貸与情報をウェブサイトにて公開する。									
担当部課	学芸部	事業責任者	企画室長 宮川禎一						
【実績・成果】 (4館共通) 1) ・各展覧会の招待日にプレス発表会を開催した。 ・各展覧会の招待日のプレス発表会とは別に、展覧会に先行して、展覧会に関連する調査研究成果のプレス発表会を随時開催し、博物館の研究活動及び展覧会の広報に努めた。 2) ウェブサイトによる情報提供(日本語・英語)、及び、モバイルサイトによる情報提供を行った。 3) メールマガジンを配信した。(12回) (京都国立博物館) 1) 『京都国立博物館だより』、『Newsletter』の発行・配布を行った。(各4回) 2) 東山南部地域の社寺やホテル等と連携し、展覧会チケットが割引券となる地域マップ付チラシを作成し、広報活動を展開した。 3) 京都市内4館(京都国立博物館、京都国立近代美術館、京都府文化博物館、京都市美術館)の連携協力の提携を結び、共通の展覧会情報パンフレットを作成・配布した。 4) 既刊の博物館ディクショナリーをウェブサイトに掲載し、新刊をメールマガジンにて配信し、利用者の拡大を図った。 5) 収蔵品貸与情報をウェブサイトにて公開した。									
【補足事項】 ・『京都国立博物館だより』は、年4回、それぞれ1万部から2万部発行(季節による来館者見込により増減)し、観覧者、新聞・雑誌・放送局各社、学校・図書館・美術館・博物館他、郵送希望者にも発送している。 ・『Newsletter』は、『京都国立博物館だより』の英語版として年4回発行し、配布している。現在117号に達しすでに四半世紀を超えた刊行物であり、外国人観覧者や留学生らの好評を博している。									
									
Newsletter vol. 117									
【定量的評価】項目		24年度実績	目標値	評価	経年 変化	20	21	22	23
『京都国立博物館だより』発行		4回	4回	A		4	4	4	4
『Newsletter』発行		4回	4回	A		4	4	4	4
総合評価	S (A) B C F (S、Fの理由)								
【中期計画記載事項】									
広報印刷物やウェブサイト等の自主媒体の活用及びマスメディアとの連携強化等により、積極的な広報を行う。									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					順調				

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(4) 文化財情報の発信と広報の充実 ④ 広報印刷物、ウェブサイト等の活用及びマスメディアとの連携強化等による積極的な広報活動(1/2)								
【年度計画】 (4館共通) 1) マスコミ媒体や公共交通機関等と連携した広報活動を展開する。 2) ウェブサイト、モバイルサイトによる情報提供を行う。 3) メールマガジンを配信する。 (奈良国立博物館) (略)									
担当部課	学芸部情報サービス室 総務課渉外室	事業責任者	室長 吉澤 悟 総括専門職員 森継明広						
【実績・成果】 (4館共通) 1) 年間を通じて文化財の魅力を紹介する新聞連載や、テレビ番組「奈良国立博物館 仏教美術の殿堂」の放映の他、各特別展等の開催に合わせて、マスコミ媒体や公共交通機関等と連携した広報活動を展開した。 2) 特別展や公開講座等の企画ごとに、また展示替えごとにウェブサイト及びモバイルサイトを更新し、最新の情報提供を行った。 3) メールマガジンを毎月1回配信した。									
【補足事項】 1) ○名品展及び館全体の広報 ・読売新聞に、年間を通じて文化財の魅力を紹介する連載を行った。(隔週) ・朝日放送とBS朝日で「奈良国立博物館 仏教美術の殿堂」が放映された。 ○特別展「解脱上人貞慶」広報 ・読売新聞に文化財の解説を連載した。(5回) ・NHK奈良放送局で「奈良特集 解脱上人 貞慶」、毎日放送で「解脱上人 貞慶」が放映された。 ○特別展「頼朝と重源」広報 ・朝日新聞に文化財の解説を連載した。(5回) ・NHK奈良放送局「ならナビ」で館職員が広報を行った。 ○「第64回正倉院展」広報 ・読売新聞に宝物紹介を連載した。(5回) ・朝日放送で「文化財2012 きらめく天平の瑠璃 第64回正倉院展」、NHK教育で「日曜美術館 第64回正倉院展」がそれぞれ放映された。 ・読売テレビ「ウェークアップ! ふらす」で、一般公開初日に館内からの生中継で館長自ら広報を行った。 ・読売テレビ「ミヤネ屋」、読売テレビ「かんさい情報ネットten!」、NHK総合「ぐるっと関西おひるまえ」で館職員がそれぞれ広報を行った。 ・NHK第一とNHK-FMの「ラジオ深夜便 展覧会への招待」で館職員が広報を行った。									
【定量的評価】項目		24年度実績	目標値	評価	経年変化	20	21	22	23
—		—	—	—		—	—	—	—
総合評価	S (A) B C F (S、Fの理由)								
【中期計画記載事項】 広報印刷物やウェブサイト等の自主媒体の活用及びマスメディアとの連携強化等により、積極的な広報を行う。									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調					

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(4) 文化財情報の発信と広報の充実 ④ 広報印刷物、ウェブサイト等の活用及びマスメディアとの連携強化等による積極的な広報活動 (2/2)								
【年度計画】 (4館共通) (略) (奈良国立博物館) 1) 特別展及び名品展の魅力や文化財情報を満載した「博物館だより」を発行する。(年4回) 2) ウェブサイトの外国語版の充実を図る。 3) 奈良県立美術館、入江泰吉記念奈良市写真美術館と立ち上げた奈良トライアングルミュージアムズで連携し、集客増に繋がる広報活動を展開する。 4) 東大寺、春日大社などの寄託社寺及び賛助会員企業と連携し、特別展等の割引特典付きチラシを配布する。 5) マスコミからの取材申し込みを積極的に受け入れ、展覧会、博物館活動への理解・促進を図る。 6) 季刊誌『奈良国立博物館だより』のPDF版をウェブサイトに掲載する。 7) 英語による展覧会チラシを作成し、外国人観光客誘致のための情報発信を行う。									
担当部課	学芸部情報サービス室 総務課渉外室	事業責任者	室長 吉澤 悟 総括専門職員 森継明広						
【実績・成果】 (奈良国立博物館) 1) 名品展や特別展の紹介に加え、文化財情報を満載した季刊誌『奈良国立博物館だより』を発行した。(4回) 2) ウェブサイトの英語版に関して、すべての内容や用語の見直しを図った。適切な美術用語、新しい施設名称、外国人にも分かり易い表現などを積極的に採用し、アクセス数の集中する正倉院展の会期前までに修正を完了した。 3) 奈良トライアングルミュージアムズとして、6月から12月にかけて古事記編纂1300年記念企画として3館連携リレー展示、3館リレー東京セミナーを6回(7・8・11・12・25年1・2月)実施、9月に奈良県による九州観光プロモーションへ参加、11月に3館リレーミュージアムコンサートを実施した。 4) 東大寺、春日大社の協力を得て、体験型のイベントを行った。 冬季の集客を図るため割引券を作成し、観光案内所及び市内の宿泊施設に配布した。 春日大社の共催により同社において1日限定無料(一部割引)券を配付し、おん祭展の広報と館の認知度アップに繋がった。 5) 特別展、特別陳列等の開催にあたっては、報道発表、プレスプレビューを実施、取材にも積極的に対応した。 6) 季刊誌『奈良国立博物館だより』のPDF版をウェブサイトに掲載した。 7) 特別展では、英文チラシを作成、外国人観光客向けの情報発信を行った。									
【補足事項】  奈良トライアングルミュージアムズ 3館リレーミュージアムコンサート									
【定量的評価】項目		24年度実績	目標値	評価	経年変化	20	21	22	23
『奈良国立博物館だより』発行		4回	4回	A		4	4	4	4
総合評価	S (A) B C F (S、Fの理由)								
【中期計画記載事項】									
広報印刷物やウェブサイト等の自主媒体の活用及びマスメディアとの連携強化等により、積極的な広報を行う。									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					順調				

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(4) 文化財情報の発信と広報の充実 ④ 広報印刷物、ウェブサイト等の活用及びマスメディアとの連携強化等による積極的な広報活動								
【年度計画】 (4館共通) 1) マスコミ媒体や公共交通機関等と連携した広報活動を展開する。 2) ウェブサイト、モバイルサイトによる情報提供を行う。 3) メールマガジンを配信する。 (九州国立博物館) 1) ウェブサイトで提供する博物館情報の充実を図るとともに、利用者の利便性を考慮した情報の発信に努める。 2) 「九州国立博物館季刊情報誌アジアージュ」を発行する。(年4回)									
担当部課	広報課 総務課	事業責任者	課長 梶村正年 課長 阿部勝						
【実績・成果】 (4館共通) 1) マスコミや公共交通機関等と連携し、新聞紙上での作品の解説や西鉄電車での車内吊り広告等の広報活動を行った。 2) ウェブサイト、モバイルサイトによる情報提供を行った。 3) メールマガジンを配信した。(毎月2回) (九州国立博物館) 1) ウェブサイトにて研究員が展覧会の解説を行う動画をYouTube で配信した。 2) 『九州国立博物館季刊情報誌アジアージュ』を発行した。(年 4 回)									
【補足事項】 (4館共通) 1) ・『週刊 一度は行きたい世界の博物館』第 47 号(朝日新聞出版)に、九州国立博物館が登場した。(24 年 6 月 28 日発売) 九博の収蔵品の中から選りすぐりの名品を紹介し、書店をはじめ 1 階ミュージアムショップでも発売した。 ・新聞紙上で展示作品の解説を行った。 西日本新聞に「平山郁夫展」、「美のワンダーランド」の展示解説を連載し、展示作品の紹介を行った。 2) ・駐車場の混雑対策のため、ウェブサイト、モバイルサイトにて駐車場空き情報を提供した。(24 年 10 月 18 日～) ・ウェブサイト利用者からの意見に九博メールで対応した。 3) メールマガジンにて、展示やイベントの情報などに加え、お客様からのお便りメールを広く募集し掲載した。 (九州国立博物館) 1) 特別展「美のワンダーランド」、「ベルリン国立美術館展」、トピック展示「茶の湯を楽しむⅤ - 芦屋釜と館蔵茶道具 -」等で、ウェブサイトにて研究員が展覧会の解説を行う動画を YouTube で配信した。 2) 『九州国立博物館季刊情報誌アジアージュ』を 4 月 1 日、7 月 1 日、10 月 1 日、平成 25 年 1 月 1 日の 4 回発行した。									
									
			季刊情報誌『アジアージュ』vol. 26						
									
			『週刊 一度は行きたい世界の博物館』 第 47 号(朝日新聞出版)						
【定量的評価】項目		24 年度実績	目標値	評価	経年 変化	20	21	22	23
九博季刊情報誌『アジアージュ』発行		4 回	4 回	A		4	4	4	4
総合評価	S (A) B C F (S、F の理由)								
【中期計画記載事項】 広報印刷物やウェブサイト等の自主媒体の活用及びマスメディアとの連携強化等により、積極的な広報を行う。									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					順調				

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(4) 文化財情報の発信と広報の充実 ⑤ ウェブサイトアクセス件数の向上を図る。							
【年度計画】 (4館共通) 1) アクセス件数の向上を図るため、ウェブサイトの内容の充実を図る。								
担当部課	学芸企画部広報室		事業責任者	室長 小林牧				
【実績・成果】 (4館共通) 1) アクセス件数の向上を図るため、ウェブサイトの内容の充実を図った。(詳細は処理番号 2441 参照)								
【補足事項】 1) ・「投票」「ユリノキひろば」などユーザ参加型のコンテンツ並びにブログのアクセス数増加を目指した、トップページのリニューアルを実施した。 ・更新作業の効率化を図るため、CMS（コンテンツ管理システム）機能の改変を実施した。 ・所蔵作品をデザインしたポストカード等、ダウンロードアイテムの更新並びに新規デザインを追加した。 ・「とーはくナビ」の更新版をアップデートした。 ・言葉によるアクセスマップ、バリアフリー情報の改訂を実施した。 ・グローバルな情報発信をめざし、海外からのアクセス件数向上を図るために、Google Art Project、Google Street Viewに参加した。 								
【定量的評価】項目 24年度実績 目標値 評価 経年変化 20 21 22 23								
ウェブサイトアクセス件数		2,982,729 件	—	—	5,211,261	5,687,673	4,971,306	2,772,633
総合評価	S (A) B C F (S、Fの理由)							
【中期計画記載事項】 ウェブサイトアクセス件数のカウントの統一を図り、アクセス件数の向上を図る。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					順調			

リニューアルしたウェブサイト
トップページ

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(4)文化財情報の発信と広報の充実 ⑤ ウェブサイトアクセス件数の向上を図る。								
【年度計画】 (4館共通) 1)アクセス件数の向上を図るため、ウェブサイトの内容の充実を図る。									
担当部課	総務課 学芸部	事業責任者	課長 植田義雄 列品管理室長 鬼原俊枝						
【実績・成果】 (4館共通) 1)ウェブサイトにおいて特別展覧会、各種講座、イベント、教育等のコンテンツ掲載や更新を通じ、内容の充実に努めた。 ・メールマガジン拡充の一環として読者特典ブックレットを発行し、親しみやすさの向上等に努めた。 ・展覧会スケジュールのページを刷新し、利便性を高めた。 ・展覧会を紹介する画像や広報情報をトップページに動的に表示させるよう改修し、回遊性の向上に努めた。 ・混雑状況発信のページを一般に普及しているツイッターに切り替え、来館者サービスとセキュリティ向上を図った。 ○セキュリティの向上及び運用性の向上を目指し、サーバOSのアップデート及びテスト環境の導入を実施した。									
【補足事項】 1) ・パソコン向けサイト及び携帯電話端末用サイトにおいて、特別展覧会、各種講座、イベント、教育等のコンテンツを適宜更新し、モバイルユーザーに対して、最新の博物館情報の提供に努めた。また、月1回発行しているメールマガジンについても、同様に最新の博物館情報の提供に努め、展覧会会場の混雑状況や、イベント情報について臨時号の発行を行った。 ・25年3月より、メールマガジン拡充の一環として、より親しみやすく展覧会の見どころや作品などを紹介する読者特典ブックレットを制作し、ダウンロード形式にて発行を開始した。 ・24年11月より、展覧会スケジュール公開システム「今日の博物館」を、老朽化した専用システムから静的HTMLページ形式に改修し、カレンダーを何度もクリック操作せずとも直近3ヵ月分の展覧会日程を一覧できるよう、利便性を高めた。 ・展覧会を紹介する画像や広報情報をトップページに動的に表示させるよう改修を行う事で、ウェブサイトをご覧の方の回遊性が向上するよう努めた。 ・ウェブサイトにおける混雑状況発信を、老朽化した専用システムから一般に普及している「ツイッター」に切り替える事で、来館者サービスの近代化とセキュリティ向上の両立を図った。ツイッターを使用しない閲覧者への配慮や、副次的なトラブルを抑止するため、文面作成や発信内容の点検などのルール整備も並行して実施した。 ・収蔵品データベースで公開する画像は全て見やすく整えた上で公開し、また昨年度より検索できる件数をさらに増やし、利便性を高めた。 ○システム関係 ・セキュリティを向上しウェブサイトをご覧の方が安心してアクセスできるようにするため、サーバOSをメーカーのサポート契約が継続可能な新しいバージョンへアップデートした。これに併せ、本作業の安全性向上と恒常的な運用性向上のため、仮想化システムによるテスト環境の導入を実施した。									
【定量的評価】項目		24年度実績	目標値	評価	経年変化	20	21	22	23
ウェブサイトアクセス件数		1,837,113件	—	—		—	—	2,077,562	1,835,640
総合評価	S (A) B C F (S、Fの理由)								
【中期計画記載事項】 ウェブサイトアクセス件数のカウントの統一を図り、アクセス件数の向上を図る。									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					順調				

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(4) 文化財情報の発信と広報の充実 ⑤ ウェブサイトアクセス件数の向上を図る。								
【年度計画】 (4館共通) 1) アクセス件数の向上を図るため、ウェブサイトの内容の充実を図る。									
担当部課	学芸部情報サービス室	事業責任者	室長 吉澤 悟						
【実績・成果】 (4館共通) 1) ・従来のウェブサイトでは、日本語・英語版の切り替えがトップページからしかできなかったのを改良し、どのページからでも日本語・英語版に切り替えられるようにし、外国人のアクセス・使用に便宜をはかった。 ・奈良博だよりの最新版及びバックナンバーをPDF化し、ウェブサイト上で閲覧できるようにした。 ・正倉院展の会期中、読売新聞大阪本社（特別協力）のウェブサイトと連携して「ただ今の混雑状況」を知らせる小窓を設置した。 ・特別展を紹介する頁に、主な出陳作品の写真付き小解説を掲載して、展示構成や作品理解への便宜を図った。 ・トピックコーナーを頻繁に更新し、さらにイベント情報欄には文字情報のみならずチラシ画像なども掲示して、より多くの情報を発信することに努めた。									
【補足事項】									
HOME > アーカイブズ > 画像データベース > 画像情報 画像データベース 本文 シンゴウキョウサイショクモウキョウ(金剛心王) 金光明最勝王経(巻第二)(四分寺経) 奈良時代 8世紀 書跡 西園寺(広島市)蔵 奈良国立博物館 004450-002-000 0036263 0036264 0036266 0036262 詳細情報 画像情報 ▲ページトップへ サイトポリシー 個人情報保護について 著作権 検索 サイトマップ 当館について Copyright © 奈良国立博物館 All Rights Reserved. 当サイトの画像、テキスト等の二次使用、複製転写は厳禁します。 画像データベースの検索結果(詳細)画面									
【定量的評価】項目		24 年度実績	目標値	評価	経年変化	20	21	22	23
ウェブサイトアクセス件数		845, 202 件	—	—		—	639, 030	769, 293	722, 249
総合評価	S ㊦ B C F (S、Fの理由)								
【中期計画記載事項】 ウェブサイトアクセス件数のカウントの統一を図り、アクセス件数の向上を図る。									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					順調				

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(4)文化財情報の発信と広報の充実 ⑤ ウェブサイトアクセス件数の向上を図る。							
【年度計画】 (4館共通) 1) アクセス件数の向上を図るため、ウェブサイトの内容の充実を図る。								
担当部課	広報課 総務課		事業責任者	課長 梶村正年 課長 阿部勝				
【実績・成果】 (4館共通) 1) 研究員が展覧会の解説を行う動画や駐車場空き情報の提供など、ウェブサイトの内容の充実を図った。								
【補足事項】 (4館共通) 1) ・より多くの方に関心を持ってもらえるよう、特別展「美のワンダーランド」、「ベルリン国立美術館展」、トピック展示「茶の湯を楽しむⅤ－ 芦屋釜と館蔵茶道具－」等で、ウェブサイトにて研究員が展覧会の解説を行う動画を YouTube で配信した。また、制作したトピック展示のCMを YouTube で配信した。 ・駐車場の混雑対策のため、ウェブサイト、モバイルサイトにて駐車場空き情報を提供した。(24年10月18日～) ・24年10月9日、開館以来の入館者が1000万人を達成したのを記念して、ウェブサイト上に「ありがとう1000万人 2012年、九州国立博物館は、来館者1000万人」を掲載し(24年8月23日～12月31日)、関連イベント情報や記念品プレゼント情報を掲載した。 ・ウェブサイトの博物館ブログにて、トピック展示「雪と火炎土器通信」を連載し、展示ができるまでの紹介等を行った。 ・メールマガジンにて、コラム「文化交流展室の散歩道」を連載し、展示作品等の紹介を行った。 ・九州国立博物館ウェブサイトのリニューアルを行った。(25年1月)								
				 九州国立博物館ウェブサイト 「ありがとう1000万人 2012年、九州国立博物館は、 来館者1000万人」				
				 「九州国立博物館 駐車場空き情報」 ウェブサイト・モバイルサイト画像				
【定量的評価】項目	24年度実績	目標値	評価	経年変化	20	21	22	23
ウェブサイトアクセス件数	2,078,279件	—	—		1,480,341	1,956,287	1,384,701	1,150,408
総合評価	S (A) B C F (S、Fの理由)							
【中期計画記載事項】 ウェブサイトアクセス件数のカウントの統一を図り、アクセス件数の向上を図る。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調				